

# 九州地区大学図書館協議会誌

第50号

2007

九州地区大学図書館協議会

## 目 次

## 【巻 頭 言】

学生のための図書館へ .....	草壁 克己	… 1
------------------	-------	-----

## 【寄 稿 論 文】

貴重資料の組織化と活用における一試論 .....	工藤 邦彦	… 3
九州大学附属図書館医学分館における患者・家族支援 .....	深川 光郎	… 7
AjaxによるOPAC機能拡張の試み .....	寸田 五郎	… 13
情報化への希求 .....	立花 志保	… 16
自動登録の課題 .....	財前 聡担	… 19

## 【図 書 館 紹 介】

九州歯科大学附属図書館 .....	22
聖マリア学院大学図書館 .....	24
長崎大学附属図書館 .....	27

【加盟館ニュース】 .....	30
-----------------	----

【図書館活動報告】 .....	43
-----------------	----

【協議会総会記録】 .....	53
-----------------	----

## 【資 料】

九州地区大学図書館協議会会則 .....	66
九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則 .....	67
九州地区大学図書館協議会入会に関する細則 .....	68
九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規 .....	72
九州地区大学図書館協議会表彰規程 .....	72
研修会の補助に関する申合せ .....	77
副幹事館の役割 .....	79
九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について .....	79
加盟館一覧 .....	81
役員館一覧 .....	85
総会当番館一覧 .....	89

## 学生のための図書館へ

草壁克己

アル・ゴア氏が平成19年度のノーベル平和賞受賞者に選ばれた。地球環境問題に対する貢献が受賞の理由であろう。実際には地球環境問題そのものではなく、国際間の紛争のもとになるエネルギー問題と直結しているという点で平和賞なのであろう。客観的にみると、ここ数年間は、国際紛争の解決の糸口もみられず、それについて努力した政治家もいないということであろうか。

ゴア氏は米国クリントン前政権の副大統領である。副大統領時代の最大の功績は「情報スーパーハイウェイ構想」や「ナノテクノロジー」のキャッチフレーズのもとに、これらの先端技術を積極的に推進したことである。情報スーパーハイウェイ構想によって情報に関する社会基盤が整備できたので、インターネットや電子メールは爆発的に発展した。私のような理系の研究者にとってインターネットは、電子ジャーナルによる論文の検索で大いに恩恵を賜っているが、それ以外でもたわいのない情報を簡単に調べることができるという点でこのうえなく便利な道具である。一方でこれらの道具は、研究者の日常生活のテンポアップにも大きく影響を及ぼしている。大学へ出勤して机に座りメールをチェックするのが習慣になっている。朝一番でメールを開くと、スパムメールも含めて多くのメールが画面に次々と表示される。夜中の2時にメールを打っている先生がいることに気がつく。若くもないのになぜ夜中の2時まで仕事しているのと心配になる。夜中にメールをうってくる先生には、ときとして海外から送信ということもある。最近では海外の国際会議にいてもパソコン持参で四六時中メールをチェックしている中毒患者をよくみかける。私は海外だけでもメールから逃れたいのに、「先生、こんなメールが学会から来ていました。」と報告してくれる親切な先生もいるが、まったく迷惑な話である。海外から帰国すると丸一日かかっても処理できないほどのメールがたまっている。至

急回答をとというメールでも、たいていは誰かが処理してくれていたたり、特に回答の必要がなかったりすることが多い。メールで無駄な仕事をしているのではないかと考え込み、ときどきメールが来たことを忘れていたふりをしている。メールによって世界中の人がテンポアップして仕事をするのが本当に善だったのだろうか。

最近では、インターネットの時代というより、ケイタイの時代のようだ。ケイタイは電話、メール、音楽、インターネット、ゲーム、オサイフの機能を持っている。ケイタイの電話とメールの機能すら満足に使用できない私にとってこれ以上の機能は思いもつかない。ケイタイには漢字、ひらがな、カタカナに加えて絵文字や顔文字が入力でき、これらの文字は日本語にバリエーションを加えるのに役立っている。「ご飯を食べています」という文章の終わりで、これまではせいぜい「。」「!」「?」程度の感情表現しかできなかったのに対して、にっこりマークや怒ってますマークを入れることで表現を豊かにする役割を果たしている。私の娘をみると、私のパソコン入力よりもはるかに高速でメールを打っている。ケイタイは原稿用紙としての機能が見出され、メール上で小説を書く人が増えているという。色文字や絵文字をふんだんに使って横書きの小説を書く作家が直木賞を受賞するまでにそう時間はかからないようである。ゲームやケイタイに時間を割けば、若者の読書離れも時代の流れであろうか。

私が勤める福岡女子大学は教員数60名、学生数800名ほどの小大学であり、図書館の規模も小さい。専任の職員は数年前にいなくなり、現在は嘱託職員1名と企業からの委託職員3名で運営を行っている。したがって簡単な事項もすべて図書館長へと話が回ってくる。本学には文学部と人間環境学部（理系）がある。両学部では図書館に対する要求事項が大きく異なる。理系の教員は電子ジャーナルの積極的な導入や図書館の情報化を要求するが、文学部の図書館運

営部会の先生に相談をしても全く興味がないようである。本学では研究用として本格的に電子ジャーナルを導入する予算もないので、学生の情報教育用として、理系の教員の協力を得て小規模の電子ジャーナルを導入している。一方、文系の教員からは図書予算はできるだけ本の購入にあて、本を収集し保存することが求められる。少ない図書館予算を文系と理系の職員が永年綱引きをした結果として、予算は硬直化し、文学部の予算配分は〇〇%、残りは人間環境学部というふうに分割されている。その結果、学生が利用する本や読みたい本は少なくなり図書館離れが進む。

大学は学生のためにあるという視点が、ときどき忘れられることがある。大学図書館は教員の研究と教育をサポートするための機能も必要であるが、学生のための施設として機能するため、あるいは学生の利用頻度を上げるための努力が足りなかったのではないかと考えている。学生のための図書館という視点からみた小さな大学図書館の進むべき道についての私見を述べたい。

現状は大学図書館に学生だけでなく教職員も足を運んでくれないようである。本を読むという前に図書館に足を運ぶようにするために、図書館を5つのゾーンに分割することを提案する。

1つめは図書ゾーンで、図書を収蔵し研究図書館的な機能が重視される場所である。

2つめは学習ゾーンである。ここには講義に密接に関連した学習用参考図書を配架する。本学では今年から学習用参考図書を充実するための第一歩を踏み出した。学習ゾーン内は静かな環境の個人学習ゾーンの他にディスカッションが可能なグループ学習用ゾーンが必要である。図書と学習ゾーンには、自由にパソコンが使用

できる環境整備が必要であろう。

3つめは情報ゾーンである。館内で情報端末を利用した情報教育ができるようにしたい。最近の本学でも教育資料としてDVDの購入を進めている。現状は机上の小型液晶モニタで鑑賞するようにしているが、やはり視聴用のブースを設置する必要がある。

4つめはリフレッシュゾーンである。このゾーンはカーペットとクッションを準備しておけばよい。本学では学生希望図書を購入しており、購入図書の書架をみると、娯楽本、人気作家の小説、マンガ本もある。リフレッシュゾーンでこれらの本を自由に手に取ってもらい、学生の読書の習慣を呼び覚ます必要がある。

最後は、以上の4つを少人数で管理可能な管理ゾーンである。このような分割化を行うためには、図書館の新築あるいは大規模改修が必要だという大きな議論になると計画は挫折するが、このような方向に向けて何か少しでもできることはないかと考えることが重要である。

学生と教職員を図書館に足を運ばせるためには場を改善するだけでなく、何らかの仕掛けが必要であろう。大学図書館としては、ホームページを充実させることによって、地域住民を含め利用拡大につながると考えている。もうひとつは図書ポイント制度の導入はどうだろうか。入館、図書貸し出し、図書館の広報誌への記事投稿などに対してポイントがたまるようにして、図書館をよく利用する学生に対しては、貸し出し冊数を無制限とする。あるいは図書カードの進呈などの特典を与えるというような仕掛けはどうだろうか。学生の意見を聞いてみたい。

くさかべ かつき  
(福岡女子大学附属図書館長)

## 貴重資料の組織化と活用における一試論

—近世絵師が描く「小宇宙」への接近—

工藤邦彦

## 0. はじめに

大学図書館における特定主題のもとに選択、収集した特別コレクションの多くは、貴重資料として扱われる。貴重資料は学内における学術文化資源として整備を続けてきたが、昨今、Webの技術進展とともにデジタル・アーカイブという「知の宝庫」へと変貌を遂げている。

「知の宝庫」には原本の秩序維持による後世への伝承あるいは大学のアカデミズムを学内外に発信する役割を持つ。よって「知の宝庫」は保存と並立して利用者が原本にあたって新たな研究成果を創成する使命を持つ。これこそが貴重資料の存在理由（レゾン・デトール）とも言えよう。

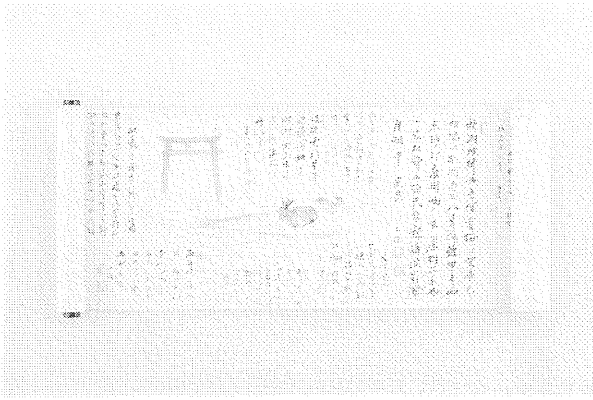
この使命を果たすにはテクニカルサービスにおいて資料の内部にまで目を配る組織化が不可欠である。しかし、収蔵する貴重資料の内部、例えば版本に存在する挿絵を把握できる二次資料の整備は遅れている。あわせて貴重資料の原本利用あるいはデジタル・アーカイブで公開されたWebコンテンツの活用がどのように研究の進捗に関与しているか、その検証も充分ではない。よって本論では近世の絵本・絵入本を対象に版面に描かれた作品が絵師研究の一助となっている事例を示す。具体的な絵師として斎藤秋圃（さいとう しゅうほ）を挙げる。

秋圃の画業にはダイナミックな肉筆画、絵馬といった「大宇宙」とも言うべき作品が多く残されている。しかし、凜とした風情漂う「小宇宙」とも言うべき絵本・絵入本もある。本論では後者の「小宇宙」について、画業の系譜を紹介しつつ、加えて近世京坂の絵師の作品公開が絵師研究の一助となった好例についても触れる。以下、貴重資料における「小宇宙」の存在を明らかにするとともに研究者や美術愛好家が「小宇宙」に接近することで貴重資料の活用が促進し得ることを確認したい。

## 1. 書誌から見る斎藤秋圃研究

斎藤秋圃は京都にて円山応挙、森狙仙に師事し、文化二年（1805年）秋月藩主黒田長舒公に召し出され御用絵師となった。作品の多くは狩野派の筆法を用いた堂々たる画風である。天保九年（1838年）家名断絶の憂き目に合うものの、安政六年（1892年）没するまで筑前町絵師の中心的存在であった。2001年に福岡県立美術館で開催された「斎藤秋圃と筑前の絵師たち」展示会図録（2002）では「筑前四大画家」の代表に相応しい絵馬、絵本・絵入本、肉筆画といった作品が紹介されている。

秋圃の画業について系譜を辿ることができる有用な文献に小林法子（1993）の「斎藤秋圃略年譜」がある。また市井の人に秋圃の名を最初に知らしめたのは許斐友次郎による昭和八年（1933年）「九州日報」の5月20日から6月3日の10回にわたる「郷土と趣味」欄での連載「筑前の斎藤秋圃画伯を憶ふ」である。連載初回（5月20日）の冒頭、「花鳥及び人物画の名手として、また禽獣殊に鹿の繪に一種獨特の驚くべき才能と妙腕とを有して（以下、中略）全国に鹿描きの名人として多少其の名を知られ、また郷土に於ては秋圃の鹿か鹿の秋圃かとうたはれた（以下、略）」とある。師匠森狙仙が猿描きで名を馳せたことも受け、秋圃もまた鹿の繪の名手で通っていた。秋圃が描いた鹿と伝えられる作品のひとつに原古処の自筆紀行巻物『逍遙餘適』【図1】〈厳島神社 鳥居と鹿 文化十二年（1815年）成〉がある。前述した許斐の連載にも西下した折り、鹿を安芸の宮島にて殆ど三年一意専念描画に苦心努力したとある。



【図1】『逍遙餘適』（しょうようよてき）卷子本  
一軸 原古処〔撰〕 文化十二年（1815年）成  
画題：〈巖島神社 鳥居と鹿〉

秋圃の前半生、御用絵師以前の画業には些か謎めいたところがあることを近年の研究では指摘されている。江戸文学の泰斗である中野三敏（2001）は「あるお抱え絵師の生涯」のなかで『葵氏艶譜』【図2】享和三年版（1803年）に続く文化十二年版（1815年）序文から秋圃の生き様を紐解いた。古書店、反町弘文荘目録に書かれた序文冒頭四行には「葵氏は花洛人、初足齋、又雙鳩と号す。後築石に下りて何某の君の籠を得て奉仕す。秋圃とあらたむ」とある。中野はこのくだりから秋圃が大坂新町の亦介と称する幫間（たいこもち）で飄逸な遊里絵を得意とした風俗絵師と確証し、曲亭（滝沢）馬琴の賞賛を受けたことまで明らかにしている。



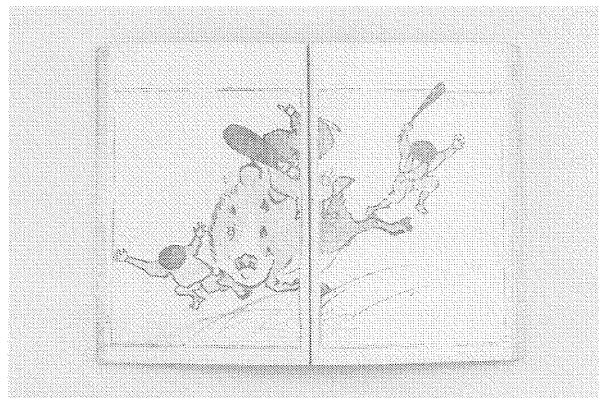
【図2】『葵氏艶譜』（きしえんぷ）初版 享和三年（1803年）刊

秋圃の画業は上記幫間時代の風俗絵師、秋月藩の御用絵師、そして晩年の町絵師と三分できる。以下、版本に描かれた「小宇宙」のみ見

ていく。

## 2. 版本に描かれた「小宇宙」

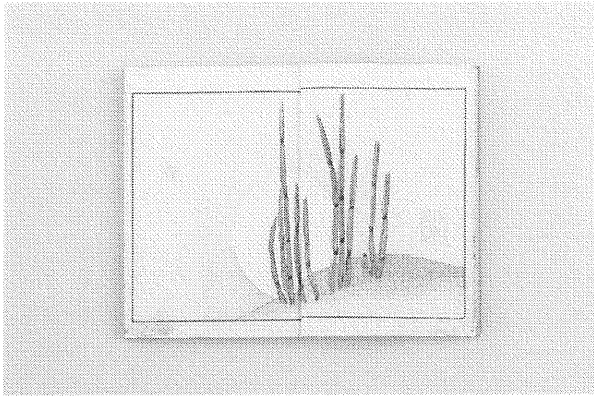
秋圃の号を使用した初期の作品として、絵俳書『つはものつくし』【図3】がある。秋圃の武者絵（計11丁）をもとに画題に応じた発句の後、四季の句が添えられている。作品はどれも匡郭を突き破ろうかの勢いに満ち溢れている。秋月藩への仕官が文化二年（1805年）であることから風俗絵師から御用絵師への端境期にあった画業であろう。



【図3】『つはものつくし』大黒庵（奇淵）〔撰〕  
文化二年（1805年）序 画題：「富士真狩」

秋圃の描いた武者絵の半数が先輩絵師にあたる北尾政美の名で知られる鍬形蕙齋（くわがたけいさい）の代表的な筆法である「略画式」との模倣を認めることができる。図柄については『略画式』、『人物略画式』など蕙齋絵本から校勘ができる。

文政十一年（1828年）四月、晴れて齢六十一にて隠居の身となり、家督を長男に譲った。その直後に題画を依頼されたのが『夕暮集』【図4】である。



【図4】『夕暮集』文化十一年（1828年）序 画題：  
く月に木賊（トクサ）図

以後、天保九年（1838年）四月、長男出奔により家名断絶となったものの、太宰府や博多を拠点に余生は町絵師として活躍した。

### 3. 「小宇宙」への接近

秋圃の絵俳書として欠かせないのが『わすれぐさ』（四巻四冊：春上・下、夏・秋冬）である。これには京坂の錚々たる絵師たちが挙って絵筆を執った一本である。弊館架蔵の原本の挿絵と刊記の画像情報を活用し、新たな研究成果を表出した例に高杉志緒（2006）の宮本君山（みやもと くんざん）研究序論がある。君山は『わすれぐさ』春部に「初午」【図5】を描いている。この挿絵から君山が峨洋堂というアトリエを、同秋冬部巻末刊記からは浪花に構えていたことを確認できる。



【図5】『わすれぐさ』花屋庵（奇淵）[撰]  
文化二年（1805年）頃か 画題：く初午

このように版本の「内部」である挿絵の画題

単位まで画像を公開、検索することで君山に限れば伝記の再考へと繋がることが期待される。前述の反町弘文荘目録に転載された『葵氏艶譜』の刊記と序文から秋圃研究が大きく展開したように目録の記述が大変重要な手がかりと成りうる。現在ではそれを画像データベースが補うことになる。例えば近世絵本の書誌情報の先行公開として、金沢美術工芸大学附属図書館における「絵手本」データベース（近世絵手本画譜類画像検索データベース）が好例である。ネット環境さえ整えば誰しも「小宇宙」に接近することが可能となった。

### 4. デジタルコモンズライブラリーの構築

近年、美術・写真・映画・デザイン・建築・ファッションなど広範囲の「アート」に関する文献（資料・記録類）を収集・整理・保存・提供する管理技術・概念であるアート・ドキュメンテーションの取り組みが顕著である。国立新美術館では、展覧会や講演会・ワークショップなど美術に関するさまざまな情報の“中継地”“集積地”となることを目指した「アートコモンズ」事業を展開している。とりわけ絵本・絵入本についての画題や絵師での検索が可能なデータベースは、アート・ドキュメンテーションセンターの機能を備えることにつながる。今後、図書館においても研究者や美術愛好家が必要な時に必要な書誌・画像情報を得ることができるデジタルコモンズライブラリーの構築がよりいっそう期待される。

### 5. おわりに

図書館業務においては、テクニカルサービスである分類・件名付与、目録作成の位置づけがパブリックサービスに比べ相対的に低下していることは否めない。これは書誌ユーティリティ（NACSIS-CAT）によるコピー・カタログングの定着、目録作成を委託請負業務の中核に据える業務体制からも伺える。テクニカルサービス要員の削減で生じた人的余力をネットワーク情報資源の管理、情報リテラシーといった利用者へのインストラクショナルサービスにシフトする傾向が顕著である。一方、貴重資料に対するWebコンテンツでの公開、展示会開催といった事業もまた学内の学術文化資源の活性化として

機能させることが求められる。さらに貴重資料を主たる利用対象である研究者に供することを前提とした書誌情報の提供も充実させなければならない。

貴重資料の活用状況の把握について弊学では「貴重図書閲覧許可願」、「撮影等・出版掲載許可願」、「画像データベース使用許可願」の出願件数など量的調査からおおよそ可能である。

今後は許可願を受けて、どのような活用の実態があり、新たな文献等の生産へと繋がっているか、そのプロセスを精査する必要がある。それには先ず図書館が「作品」情報を組織化することに主眼を置き、資料の内部＝「小宇宙」へと接近する志向を持つことが何より重要だと受けとめたい。

#### [参考文献]

- ・ 金沢美術工芸大学附属図書館絵手本DB  
(<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/tosyokan/edehon/main1.htm> [確認日：2008-2-10])
- ・ 許斐友次郎、1933、「筑前の斎藤秋圃画伯を憶ふ 1-10」、『九州日報』
- ・ 小林法子、1993、「筑前関係絵師資料－斎藤秋圃略年譜」、『福岡大学人文論叢』25-1
- ・ 『斎藤秋圃と筑前の絵師たち [特別展図録]－筑前四大画家の時代－』、2002、福岡県立美術館
- ・ 高杉志緒、2006、「宮本君山研究序論」、『下関短期大学紀要』第25号、p.133-148
- ・ 中野三敏、2001、「あるお抱え絵師の生涯－幕末の大坂と筑前秋月藩をむすぶ二つの顔－」、『伝承と文学 下』、岩波書店
- ・ 『和本の美－蕙斎・秋圃作品群と郷土俳書の世界 第2版』、2004、福岡大学図書館
- ・ 拙稿、2005、「和古書の組織化における現状と課題」、『図書館学』Vol.87、p.51-64、西日本図書館学会

くどう くにひこ  
(福岡大学図書館)



## 九州大学附属図書館医学分館における患者・家族支援

深川光郎

## 1. はじめに

九州大学病院は病院地区再開発事業で2006年4月に南棟、北棟が竣工して新病院として生まれ変わり、更に第Ⅲ期工事である外来棟の建設が着実に進行しています。これらの病院の建物群は期せずして、医学分館前に建設されており、午後ともなれば多くの患者さんやそのご家族（以後、患者さん等と記す）がこの図書館を興味深く見ながら散策されていました。

九大医学分館はすでに市民等への一般開放を実施しており、どなたでも入館でき資料の閲覧や複写は可能ですが、私たちは更に一步踏み込み、平成18年度医学分館年次計画として、患者さん等が求める医療情報を積極的に提供しようと考えました。

多くの人々は自分や家族が病気になって初めてその医療情報を求め、病気の知識やその治療法等を身につけていくはずで、その際には書店で関連の医学書を購入したり、あるいは公共図書館で調べたり、ネットにその情報を求めたりします。九大病院の患者さん等には、前掲の情報源とは比べようが無いほど良質かつ大量の情報を有する医学分館が目の前に存在するので、この図書館を使わない手はないでしょうし、大学や図書館も「開かれた」を標榜する以上は情報を提供する義務があります。医学分館が医学情報を提供できれば、患者さん等の労力、時間、経済的な負担を軽減することができます。私たちはこういう発想の基に実施計画を立てることにしました。

## 2. 患者・家族への医療情報提供のスタンス

## 1) 実施体制

## ① 「患者・家族支援班」の結成

医学分館には利用者へ情報を提供する係として参考調査係があり、利用者から求められれば係員はマンツーマンで医療情報の提供を行っています。新しく開始する患者・家族支援では一層の責任を持って実施す

るため、必ず図書館職員が複数名で対応するという原則を決めました。また、患者さん等は先ず、分館のエントランスホールのカウンターで相談されるということで閲覧係1名と参考調査係2名の係を超えた「患者・家族支援班」を結成しました。

## ② 病院地区内でのコンセンサス

医学分館による患者・家族支援を進めるうえで、先ず医学分館長の承諾と指導のもとに病院長の決裁を得ることは言うまでもありませんが、図書館職員全員の合意や病院現場（九大の場合は既に病院内に「患者様相談室（メディカルソーシャルワーカーが担当）」と「医療相談部門（医師が担当）」が設置されています）にも実施目的や実施内容等の説明を行う必要がありました。これは後に効果的な広報活動につながりました。

## ③ 患者等支援のためのツール

医学分館には多くの医学専門書や雑誌がありますが、これをそのまま患者・家族支援のための資料とするには、少し難解すぎると考えました。そこで医学分館では、支援のための資料を揃えることにしました。医学書の標準シリーズを中心に揃え、患者さん等のレファレンス事例から医学分館に欠けていた資料を特定して必要な図書を追加していきました。（表1）

表1 患者・家族支援のための参考図書

書名	出版社	発行年
標準歯科放射線学 第2版	医学書院	2000年5月
標準歯周病学 第4版	医学書院	2005年4月
標準口腔外科学 第3版	医学書院	2004年8月
標準臨床検査医学 (第3版)	医学書院	2006年9月
標準救急医学 第3版	医学書院	2001年8月
標準放射線医学 [CD-ROM付] 第6版	医学書院	2001年10月
標準感染症学 第2版	医学書院	2004年3月
標準腎臓病学	医学書院	2002年5月
標準血液病学	医学書院	2000年5月
標準神経病学	医学書院	2000年2月
標準精神医学 第3版	医学書院	2005年4月
標準呼吸器病学	医学書院	2000年7月
標準循環器病学	医学書院	2001年7月
標準消化器病学	医学書院	2003年4月
標準小児科学 第6版	医学書院	2006年4月
標準皮膚科学 第7版	医学書院	2004年4月
標準外科学 第10版	医学書院	2004年4月
標準脳神経外科学 第10版	医学書院	2005年4月
標準小児外科学 第4版	医学書院	2000年12月
標準形成外科学 第4版	医学書院	2000年3月
標準整形外科学 第9版	医学書院	2005年4月
標準リハビリテーション医学 第2版	医学書院	2000年4月
標準産科婦人科学 第3版	医学書院	2004年6月
標準眼科学 第9版	医学書院	2004年3月
標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 第3版	医学書院	1997年4月
標準泌尿器科学 第7版	医学書院	2005年4月
標準麻酔科学 第5版	医学書院	2006年5月
検査値のみかた (改訂3版)	中外医学社	2006年6月
新臨床腫瘍学	南江堂	2006年10月
日本人体解剖学 上 改訂19版	南山堂	1999年12月
日本人体解剖学 下 改訂19版	南山堂	1999年12月
乳癌治療のコツと落とし穴	中山書店	2004年8月
整形外科疾患の理学療法—ここがポイント! 改訂第2版	金原出版	2006年8月
EBM正しい治療がわかる本	法研	2003年10月
家庭のドクター 標準治療 最新版—あなたの「最適な治療法」がわかる本 第3版	日本医療企画	2006年7月
ストーリーリハビリテーション—実践と理論	金原出版	2006年4月
癌化学療法update	中外医学社	2005年10月
医療文書の正しい書き方と医療補償の実際 改訂第5版	金原出版	2007年2月
ハイリスク新生児の臨床	エルゼビア・ジャパン	2005年3月
放射線治療マニュアル 改訂第2版	中外医学社	2006年4月
病気がみえる Vol. 1 消化器 第2版	メディックメディア	2006年3月
病気がみえる (Vol. 2) 循環器疾患	メディックメディア	2003年7月
病気がみえる (Vol. 3) 代謝・内分泌疾患	メディックメディア	2004年6月
病気がみえる (Vol. 9) 婦人科	メディックメディア	2006年8月
病気がみえる (Vol. 10) 産科	メディックメディア	2007年4月
新版ダウン症児の育ち方・育て方	学習研究社	2002年9月

#### ④ 患者さん等への広報

多くの患者さんやそのご家族に医学分館をご利用いただくために、病院地区でのコンセンサスを取得、「広報のためのポスター（図1）」と「病棟から医学分館への案内図」を作成し、患者様相談室、患者休憩室、入退院手続きカウンター、エレベーターホールなど患者さん等の目に付きやすい場所へ掲示しました。

大学図書館をご利用下さい。



図1

## 2) 実施方法

### ① 窓口での対応

図書館職員がレファレンス・インタビューを行うのは来館された患者さん等が医療情報の検索方法やインターネットの使い方のサポートを図書館職員へ依頼された時のみとして、来館目的が「病気のことを調べたい」であっても unnecessary レファレンスを勧めるようなことは慎むことにしました。

### ② ガイドラインの作成

患者・家族支援を開始するにあたり、図書館側の情報提供の原則を策定して、以下の事項をガイドラインとしてレファレンスを受ける患者さん等へ、口頭で分かり易く伝えることにしました。

- 医療情報の提供は、決して特定の情報や治療法を薦めるものではないこと。
- 提供できる情報はごく一部のものでしかないこと。
- 提供した情報は、必ずしもあなた自

身が求めたものと一致しないかも知れないこと。

- 具体的な治療内容に関する疑問はあなたの主治医または九大病院の「医療相談部門」へ聞いて欲しいこと。
- 利用者（患者・家族）の個人情報については守秘義務を厳守すること。また、患者・家族支援を実施する上で特に提供する情報の中身を吟味して、提供が望ましくないものとして
  - 医療として定着している常識を否定または代替医療を鼓吹するもの
  - 宗教や民間医療に偏ったもの
  - 「絶対効く」、「絶対治る」等を冠する記事や医療機関の紹介などの情報は絶対提供しないことを確認し合いました。

### ③ プライバシーの保護

館内では患者さんやご家族のプライバシーを守るために、一般閲覧室と別に専用コーナーを設置してデスク、情報コンセントに接続したパソコン、プリンターを配置しました。また、患者さん等の疾病・治療に関しての守秘義務を徹底することを確認しました。

### ④ 「患者さん等専用入館受付簿」の作成

入館目的の傾向を知るために一般市民等の入館受付簿とは別に患者さん等専用入館受付簿を作成しました。

### ⑤ 「救急患者発生の場合の電話番号一覧」の作成

入院・通院を問わず、患者さんを図書館利用者として受け入れるにあたっては細心の注意と緊急事態に対応する準備が必要と考えて「救急患者発生の場合の電話番号一覧」を作成しました。図書館内で患者さんの病状が急変した場合には救急救命センターの当番医師に急報することとし、緊急を要しない病状の場合は「入館受付簿」に記載いただいた当該のナースセンターへ連絡する体制をとることとしました。この連絡

体制は職員がいない休日開館時も勤務する学生アルバイトに機能させています。

### ⑥ レファレンスシートの作成

レファレンスを希望される患者さん等にはレファレンスシートに「性別、年齢、来館のきっかけ、調べたい事項（病名等）を記入いただき、図書館側は対応した職員名、提供した資料の書名や論文の書誌事項を記録してデータベース化して管理しています。ここでは患者さん等の実名、住所等は記録されることはありません。

## 3. 患者・家族支援の実施状況（入館状況と入館目的）

平成18年5月末から入館された患者さんやご家族等は、平成19年10月中旬までの1年5ヶ月で1,139人（入館受付簿による）でした。

- ① 入院患者さん、通院患者さん、見舞客（家族）毎の割合は以下のとおりです。（図2）

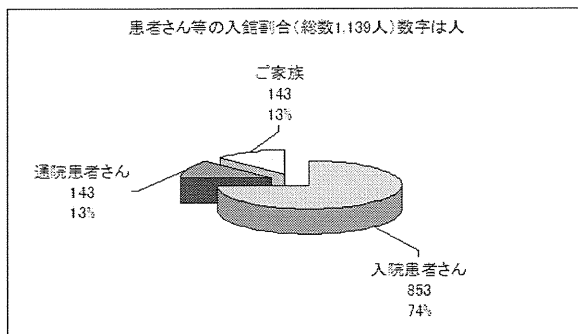


図2

医学分館へ来館されるのは入院患者さんが74%を占めており、あとは通院患者さんのご家族等が同数でした。

- ② 入館目的別割合は（図3）のとおりです。

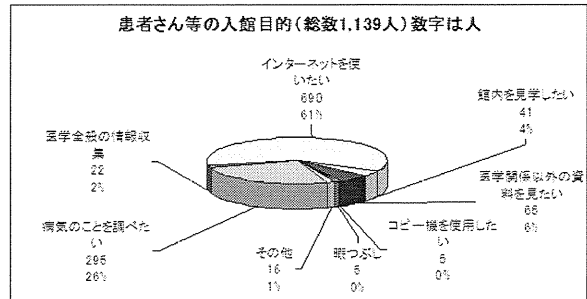


図3

入館される患者さん等の入館目的は「インターネット利用」が61%と多く、次いで「病気や医学情報を調べたい」は約300件で28%ですが、この多くは自分自身や家族の病気について深刻・真剣に調査をされています。

「医学関係以外の資料を見たい」が6%ありますが、この患者さん等は一般図書や一般雑誌を閲覧したものと思われます。

医学分館職員のレファレンスを受けた患者さん等は67名（レファレンスシートによる）でした。患者さん及びご家族等それぞれの来館目的別入館者数は図4に示します。

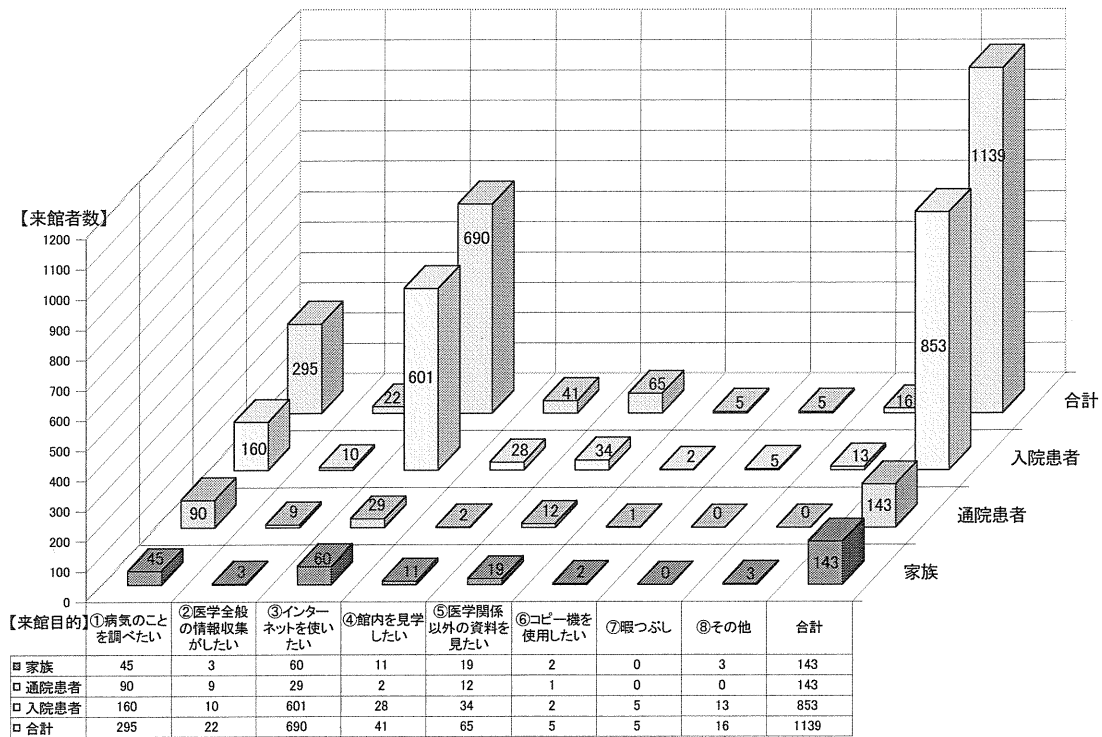


図 4

入院患者さんに限定して図書館利用を見れば、70%は図書館の情報サロンでのインターネット利用であり、約20%の人達が病気や医学情報を調査されています。来館された通院患者さんの約70%の人々は病気や医学情報を検索されているのに対し、来館された、ご家族の33%が病気のことや医学情報を調査されています。インターネット利用については、病気に関する調査も大いに有り得ますが、入院患者さんの時間潰しも考えられます。

ともあれ、私たちが当初の目標にしていた「医師と病気のことを話せるよう患者さん・ご家族に医療情報を」に一步踏み出したことは間違いなさそうです。

#### 4. 今後の課題と展望

九州大学医学分館が試行的に実施した患者・家族支援の期間は1年5ヶ月ですが、この間に患者さんやそのご家族が医学分館へ入館された人数は一日平均2.3人でした。この入館者数は決して少なくないと考えます。果たして、満足して帰られたかどうかです。今後、医学分館が患者・家族支援の活動を発展させて、継続して

いくには幾つかの課題が見えています。

##### 1) 努力すべき課題

###### ① 患者・家族支援の担当者

基礎的な医学知識、関連図書・学術雑誌の知識の取得に努め、利用者との接遇・コミュニケーションを学ぶ。

全館・全職員で支援活動を支える。

###### ② 施設・設備

患者さんやその家族のプライバシーを確保するために専用個室を用意して、インターネット環境や参考図書等を揃えてすぐ活用できるようにしておく。

###### ③ 病院地区内諸機関との連携

九大病院の地域医療連携センターおよび事務部門の患者サービス課と医学分館が連携し、患者さんやそのご家族へのよりよいサービスを追求する。

##### 2) 展 望

従来から医学図書館は大学病院の教員、医師等の医療スタッフ、院生、学生に対してのみ医学情報提供を行ってきました。各大学の医学図書館が新たに病院の患者さんやご家族にも意識的に積極的に情報提供を始めるとし

たら、それは大学病院にしかできないすばらしいサービスでしょう。このことが真の意味での大学開放、社会貢献と考えます。

[参考文献]

- ・奈良岡 功、総説 患者への医学情報の提供、医学図書館、2004. 51(4)317-329

- ・吉富まち子ほか、病院図書室研究会における患者図書サービス、2004. 51. (4)345-346

ふかがわ みつろう

(九州大学貝塚地区事務部図書館専門員・  
文系合同図書室長  
前九州大学医学分館専門員)

# AjaxによるOPAC機能拡張の試み

－OPACとJuNii+のマッシュアップ－

寸田五郎

## 1. 背景

宮崎大学附属図書館では平成19年8月23日に『宮崎大学学術情報リポジトリ』を公開した。リポジトリに登録する学術コンテンツを収集する上で、機関リポジトリに対する学内教員の認知度が低いことという問題があった。教員に学術コンテンツに登録してもらうためには、まず機関リポジトリを紹介し、教員自身にその利便性を実感させる必要がある。そこで、機関リポジトリPRの一方策として、宮崎大学附属図書館OPACの書誌詳細表示画面に機関リポジトリのコンテンツへのリンクを表示することにした。

## 2. JuNii+

JuNii+（機関リポジトリポータル）は国立情報学研究所が提供するサービスで、全国の大学、研究機関などが公開している機関リポジトリのメタデータをOAI-PMHにより収集し、検索機能を提供している。

JuNii+には2通りのキーワード検索機能がそなえられている。「一致検索」は検索キーに一致する文字列を含むレコードを抽出するもので、一般的な検索方法である。一方「RS検索」は、検索キーとレコードとの関連度を算出し、関連性が高い順に表示する。検索キーに関連があるレコードを思いがけず見つけ出すことができるという特長がある。ひとまとまりの文章のような雑多な単語からなる検索キーであっても検索することができる。

また、JuNii+はwebサービスとして構築されており、検索結果はXMLとして出力される。このため、JuNii+からのレスポンスをJavaScript等で処理することが容易となっている。

## 3. リコメンデーション

オンラインショップで気になる商品のリンク先をクリックすると、詳細な情報のほかに関連のある商品が表示される…。Amazonなどでおな

じみのこのサービスは「リコメンデーション」と呼ばれる。アクセスしてきたユーザの好みを分析し、そのユーザにとって関心がありそうな情報を選択、表示するサービスである。

「リコメンデーション」は、利用者が自分の欲しい情報にすばやくアクセスできるという利点がある。先述のAmazonをはじめ、多くのオンラインショッピングがリコメンデーション機能を取り入れている。

## 4. Ajax

Ajax (Asynchronous JavaScript and XML) とは、JavaScriptを用いて必要に応じてサーバからデータを取得し（非同期通信）、ブラウザの内容を変更する手法である。この手法自体は新しいものではないが、Google Mapsで利用されたことで注目を集めるようになった。

従来のwebアプリケーションでは、利用者がブラウザ上で操作を行うと、その都度webサーバからレスポンスを受け取りブラウザに再表示していた（図1）。例えば、ブラウザに表示された地図をほんの少し横に移動するだけでも、ページがリロードされるのを待つ必要があった。これに対してGoogle Mapsでは、地図をドラッグするとそれに応じて地図が変化するが、ページそのものはリロードされない。利用者の操作に応じてコマンドを実行し、必要なデータのみを取得している（図2）。このため、ページをリロードすることなくスムーズに地図の画像だけに変更される。このように、Ajaxを用いることでGoogle Mapsのような応答性の高いwebアプリケーションを作成することができるという利点がある。

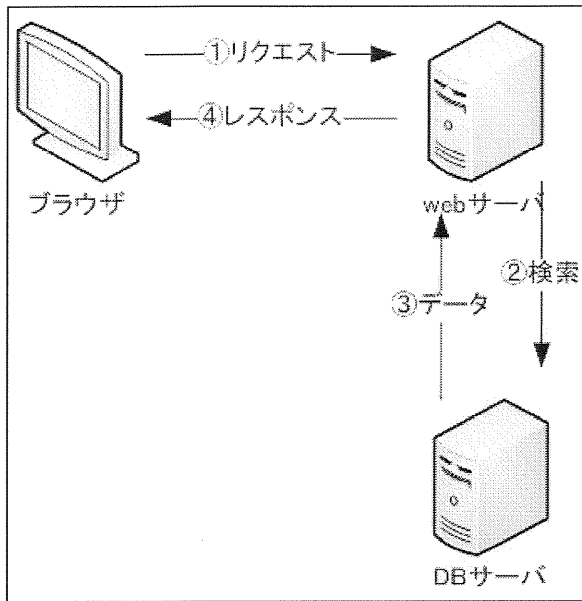


図1. 従来のwebアプリケーション

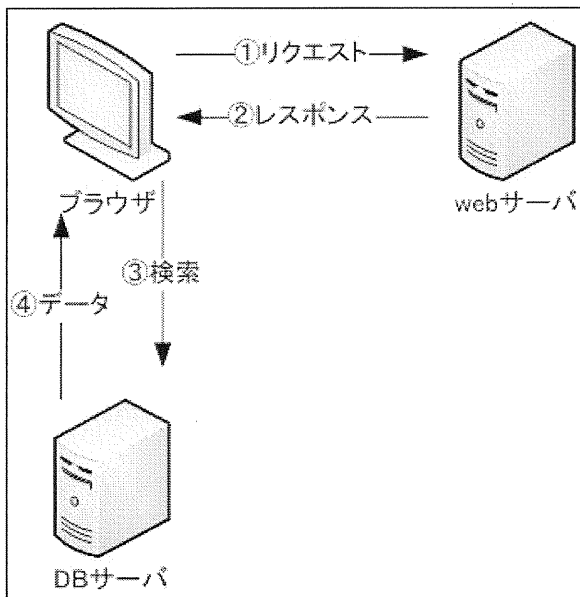


図2. Ajaxによるwebアプリケーション

## 5. OPACとJuNii+のマッシュアップ

機関リポジトリをPRするため、OPACの書誌詳細表示画面に、Ajaxを利用してJuNii+の検索結果を追加表示するようにした(図3)。ブラウザは書誌・所蔵データを表示したあと、書誌情報を抽出してJuNii+のRS検索を実行し、検索結果を表示する。JuNii+のRS検索機能を利用することにより、書誌情報に関連性のある学術コンテンツを提示するというリコメンデーションを実現した。

このように、複数の異なる提供元の技術やコンテンツを複合させて新しいサービスを形作る

ことを「マッシュアップ」という。外部の高度な機能や豊富なデータを借りる、いわば「人のふんどしで相撲をとる」ことで自サイトを拡張する方法である。地図データや商品情報等を自前で用意するのは困難であるが、外部のリソースを利用することにより低コストで高機能なサービスが可能となる。近年、GoogleやAmazon等がデータプロバイダとして積極的にマッシュアップのためのAPI(Application Program Interface)を公開していることもあり、様々なマッシュアップがなされている。これらのデータプロバイダにとっては、マッシュアップされることで知名度が上がるというメリットがある。

国立大学図書館協会が平成19年3月にまとめた『今後の図書館システムの方向性について』においても、内外のデータや機能を組み合わせて連携・協調する「webサービス型」の図書館システムが提言されている。そのためには多様なデータプロバイダがAPIを実装して公開することが必要不可欠である。平成19年10月に公開されたPORTA(国立国会図書館デジタルアーカイブポータル)では外部連携インターフェイスの提供を予定している。また、汎用データプロバイダ化モジュールの提供も予定されており、各機関のOPACやデータベース、リポジトリ等がデータプロバイダとなることが予想される。

## 6. AjaxによるOPAC機能拡張

OPACとJuNii+のマッシュアップでは、図書館システムのプログラムは変更していない。図書館システムが出力するHTMLファイルにJavaScriptを埋め込むことで実現している。webブラウザは書誌・所蔵情報を表示した後、埋め込まれたJavaScriptのコマンドを実行する。実行されたコマンドにより、書名などの書誌情報を抽出してJuNii+を検索し、その結果を取得し表示する。Ajaxを用いているため、書誌・所蔵情報の表示とJuNii+検索結果表示との間に若干のタイムラグが生じるが、利用者は特にブラウザを操作する必要がない。

図書館システムが出力するHTMLファイルにJavaScriptを埋め込むことは、ページのデザインを変更するためにHTMLタグを埋め込むことと同様であり、図書館システムのプログラムを変更することに比べると容易である。このためAjax



を利用することで、OPAC本来の機能である書誌・所蔵検索機能にはほとんど影響を与えずにOPACの機能を拡張することができる。

## 7. まとめ

宮崎大学附属図書館OPACの書誌詳細表示画面に、書誌情報をもとにJuNii+を検索した結果を追加して表示できるようにした。OPACを使って利用者が関心を持つ資料と関連がある学術コンテンツをリコメンデーションすることで、より効果的に機関リポジトリの存在をアピールすることができる。

この機能はAjaxを利用して実現した。図書館システムが出力するHTMLファイルにJavaScriptを埋め込むことができればプログラムを変更する必要がないため、JuNii+のマッシュアップに限らず、既存のOPACに新たな機能を追加することが比較的容易にできるようになる。

今後、多様なデータプロバイダが出現すれば、マッシュアップの組み合わせが大きく広がるため、図書館員のアイデア次第で新たなサービスを産み出すことができるだろう。

※ JuNii+の利用については、事前に国立情報学研究所の了承を得ています。ご協力いただいた国立情報学研究所の方々に感謝いたします。

## [参考]

- ・宮崎大学学術情報リポジトリ：  
<http://ir.lib.miyazaki-u.ac.jp/dspace/>
- ・宮崎大学附属図書館OPAC：  
<http://opac.lib.miyazaki-u.ac.jp:8080/>
- ・JuNii+（機関リポジトリポータル）：  
<http://juniplus.csc.nii.ac.jp/>（平成19年11月現在試験公開中）
- ・Amazon
- ・Google Maps：<http://maps.google.co.jp/>
- ・PORTA（国立国会図書館デジタルアーカイブポータル）：  
<http://porta.ndl.go.jp/portal/dt>
- ・国立大学図書館協会 学術情報委員会 図書館システム検討ワーキンググループ『今後の図書館システムの方向性について』（平成19年3月）

The screenshot shows the OPAC interface for a book titled 'イテゴ生産における収穫・選別のシステム化に関する基礎的研究 / 産永杰 著'. The interface includes a sidebar with navigation options, a main content area with book details, and a section for '関連する学術成果' (Related Academic Results) which lists several related articles and books with their titles and authors.

図3. OPACにJuNii+の検索結果を表示

すんでん ごろう  
(宮崎大学附属図書館)

## 情報化への希求 －別府大学のいぶき(1)－

立花志保

### はじめに

別府大学附属図書館の職員体制は、館長1名、職員5名、計6名である。今回は中小規模の私立大学での情報化への取り組みを一例として紹介していきたい。

本学の特色は、司書課程がある事と、全国でも一、二の受講生を擁する司書講習を開催していることである。しかし、大学図書館としての役割は果たしているものの、司書の講義を行なううえでの、情報化の取り組みが充分とはいえなかった。

特に、図書館システムの中でも蔵書目録は、初期システム導入時(7年前)に機械的に検索語を切り出したため、多くの変換エラーが生じ、検索できない資料が存在していた。このため、利用者に対する情報検索環境は、ソフトウェア的にもハードウェア的にも情報ニーズを満たす状況には至っていなかった。さらに図書館の利用に関する案内も充分ではなかった。

今年が創立100周年を迎える節目の年でもあることから、図書館システムの更新と目録データの正規化や、利用者のスキルアップを図っていくことを目的とした情報リテラシー教育を支援すべく活動を開始した。

今回の報告では、情報リテラシー教育や図書館利用の実際、そして学生との連携におけるこれまでの図書館活動と、項を改め、『自動登録の課題』を報告する。

### これまでの図書館活動

図書館をより利用者に知ってもらうこと、そしてよりよく活用してもらうこと、この二点をふまえて、図書館職員による下記の活動を行ってきた。

#### 1. 図書館報 (ARGONAUTES on Web)

以前は、冊子による『ARGONAUTES アルゴノート』が作成されていたが、1996年春の46号以

降、休刊の状態になっていた。しかし、図書館を利用してもらううえで、図書館の情報を利用者に伝える必要性を感じ、2004年4月より図書館のホームページ上で閲覧できる図書館報『ARGONAUTES on Web』を作成することになった。冊子体の時と同じく季刊号とし、下記の内容となっている。

#### 内 容

教 員 / 『書物逍遙』

『わが著書語る』

学 生 / 『心にのこる1冊』

図 書 館 / 『新着図書』

『情報リテラシー (PDF)』

\* 『学科長おすすめの本』など

別府大学では留学生も多く所属しているため、SPRING. 2005 (No. 05) から、留学生に韓国語、中国語の翻訳をお願いしていたのだが、翻訳するには大学院生でないと難しいであろうということと、有志によるものであったため、SPRING. 2006 (No. 09) でストップしている状態である。

また、先生方や学生による原稿が滞ることも多いのが悩みである。図書館の新しい取り組みや、利用者のためになる情報を載せた館報づくりをしていきたいと考えている。

#### 2. 情報リテラシー教育の活動

##### ① 『情報リテラシー』(冊子)作成

2006年度より全学科の新入生を対象に4月の図書館オリエンテーション時に配布している。下記の内容になっている。

#### 内 容

◆ 情報リテラシーとは

◆ 資料の探し方

第1章 資料を探して入手する

第2章 各種データベースを探す

第3章 情報や文献をさがすための資料

今までに『情報リテラシー2006』『情報リ

テラシー2007』を作成しており、冊子だけでなく図書館報『ARGONAUTES on Web』の中でPDFとして閲覧できるようにしている。

## ② 図書館活用講座

2004年度より全学科の新入生を対象に、図書館オリエンテーション（館内説明ビデオの閲覧、館内案内、貸出手続きの方法など）を行っている。その際に、図書館で作成した『情報リテラシー』（冊子）を配布している。

しかし、それだけでは、充分とはいえない。なぜなら、図書館に実際に質問に来るのは、レポート作成を行ったり、1月に向けて卒業論文を書いたりする学生だからである。必要になった際に尋ねてくる学生は、多い。

カウンターに質問に来た時に個別に教えてはいるものの、ILLの申し込みが増えていき、対応数が以前より増えていること、また平成19年7月よりシステムの更新をしたことなどから、図書館の休館日である第3水曜日の11月21日に「図書館活用講座」を行なった。

対象は全学年で、一般の方も参加可能とした。図書館のカウンターに申し込み用紙を置き、参加者を募ることにした。各学科長に行う旨をお知らせし、ポスターを作成、館内や他の棟にも掲示した。また、別府大学HP (<http://www.beppu-u.ac.jp/>) のトップページにも載せてもらうよう情報教育・メディアセンターへ依頼し、下記のように載せてもらった。

### 「図書館活用講座」を開講、参加者募集

参加者数に限りがありますのでお早めに

11月21日(水) 13:00から、「図書館活用講座」を本学附属図書館にて実施します。講座内容は、(1)図書・雑誌の検索 (2)ILL(図書検索利用)の申し込み方法についてです。学生、一般の方などご参加いただけますので、参加の申し込みが必要です。なお、講座への参加には事前申し込みが必要です。図書館カウンターにて、または電話(0977-66-9633)でお申し込み下さい。

## 図書館活用講座



論文・レポート作成に役立つ情報を  
お教えします☆

内容: 図書/雑誌の検索  
ILLの申し込み方法

開催日: 11月21日(水)

時間: 13時~14時

定員: 20名程度(先着順)

\*参加される方は、申し込みが必要です  
図書館カウンターまでお越しください

### 別府大学附属図書館

TEL:0977-66-9633  
FAX:0977-66-9632  
Mail:library@beppu-u.ac.jp

検索窓OPAC  
<http://lib-qaac.beppu-u.ac.jp/mobiqaac>

[別府大学HP: 図書館活用講座]

講座の内容は、資料の探し方の流れがわかりやすいように、フローチャートを用い、それに沿った形で学内編、学外編、ILL編と大きく3つにわけた。パワーポイントで作成し、資料を渡して説明を行なった。

今回が初めてということもあり、数日前に模擬講座を行い職員全員に見てもらい、時間配分や改善点などの話し合いを行なったうえで、本番に臨んだ。申し込み者数は、15名だったが、欠席者2名、当日1名追加があり、計14名であった。3年生が多いのではないかと予想していたが、やはり3年生が10名と一番多く、1年生、2年生が各1名、大学院生2名であった。

講座終了後に評価のためのアンケートを実施した。これからの図書館利用に役立つものであったという意見が多くみられた。また、アンケートによると、学外の資料の探し方について今までわからなかったことを知ることができたという感想が多く、今回の図書館活用講座の参加者の反応は大変良かった。

参加者以外からも、この日は都合が悪いので別の日に行なって欲しかった、先生方から研究室の学生に行なって欲しいという要望があり、図書館活用講座への取り組みが様々な方面で評価してもらえたように思う。

今回は、時期が、少し遅かったのではないかと反省もあり、時期や頻度なども考えていかなければならないということ、また学生のレベルに合わせたものにするには、これを基礎編として、図書館活用講座の種類も増やしたほうがいいのではないかと思います。また、今回のアンケートの意見を、次年度の『情報リテラシー』の冊子に反映させていくことと、情報検索の授業とタイアップし、教科の1コマとしての講座も検討中である。

## 3. 学生との連携—FOBULの活動—

FOBUL(以下フォーブル)とはFriends of Beppu University Library(別府大学図書館友の会)の略語で、1994年より図書館に関心のある学生のクラブ「図書館クラブ」として発足した。現在は20名ほどの学生が、平日各1コマ(1時間半)、講義の空いている時間を使ってボランティアを行なっている。

やってもらう仕事は、図書や雑誌、紀要の排架、シェルフ・リーディングが主である。2007年11月より全学科の雑誌が集中排架となったこともあり、お願いする仕事も増えてきている。

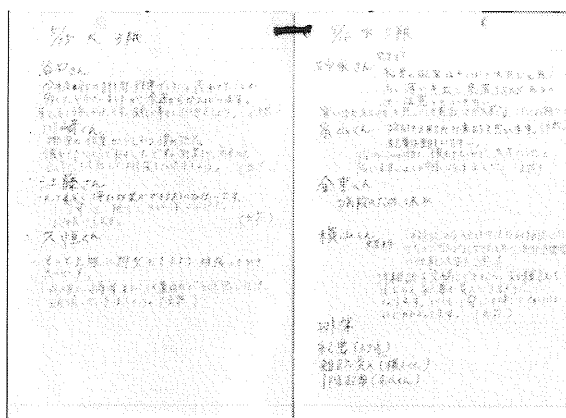
フォーブルには司書課程を受講している学生が多く、いずれは、司書になりたいと希望している学生もおり、実際の図書館の仕事を体験できるのは、学生にとっても有益であると思われる。また、図書館の職員だけでは、きめ細かい排架作業までは手が回らないことも多く、図書館にとって大いにプラスになっている。

2004年度からは、私が担当して、4月はじめに館内の説明を行い、「排架の手順」のマニュアルを渡し、排架指導を徹底して行なっている。慣れてきたところで、上の学年を中心として、行ってもらおうようにしているが、質問があれば対応できる体制であるようにと、2005年度より、終わった後の感想や、その時に疑問に思ったことなどをノートに記入してもらい、できるだけその日に見て、一人一人に書くようにしている。次の週に、どのような仕事をしてもらうかを考える際の参考にしたり、学生の疑問点に答えたりすることで、学生との連携を密にしている。

図書館に関する意見なども書かれている場合もあり、図書館を良くしていこうという取り組みを一緒に行なうことができている。

現在は、フォーブルが作業をしているのに興味を持った学生が、わずか数人ではあるが手伝ってくれている。

また、ボランティア終了後、カウンターでノートを書いてもらっているのだが、職員と学生が話しているのを見ることで、カウンターに近づきやすい雰囲気に見えるようで、以前より質問に来る学生も増えている。



[FOBULとの交換ノート]

### 図書館活動における今後の展開

図書館を利用したいけれども、利用方法がわからない、うまく活用することができないという理由から、図書館に足が向かない利用者も多いのではないかとと思われる。

2004年より全新入生にたいして行なっているオリエンテーションは、図書館に一度も足を運んだことがないという学生を減少させている。全学科へ広報しているが、全ての学科で実施するまでには至っていない。

今年度で、四年目となり全学年に対してオリエンテーションを行なったことになる。

また、2006年より、オリエンテーション以降も図書館に興味を持ってもらうため、『情報リテラシー』の冊子を作成している。

このようにして、本学の図書館の知識を少なからず持った学生が、『図書館活用講座』に参加することで、もう一度、学びなおしてもらおうという体制が、今年度で漸く形成できたように思う。

これまで述べてきた図書館の活動は、これからも継続していかなければならないものである。単に情報発信するのではなく、利用者の視点をふまえながら、さらに図書館の活動を強化し、発展させていきたい。

たちばな しほ  
(別府大学附属図書館)

## 自動登録の課題 －別府大学のいぶき(2)－

財前 聡 担

### 1. 遡及入力について

本学は、昨年度（平成18年度）NIIの補助を受けて、書誌レコードの遡及入力を行った。

作業を行う前の平成18年12月の時点で、本学のシステムには約26万7千件の目録データが入力されている。しかし、そのうち約20万件は品質の劣るデータである。これは、元々、参照ファイルや書誌ユーティリティ環境がない閉じた環境に入っていたデータを、7年前のシステム導入時に、機械的に検索語を切り出したために多くの変換エラーが生じたことが原因である。例えば、著者名のヨミで「大宅（オオヤ）」が「ダイタク」、「土方（ヒジカタ）」が「ドカタ」になっていたり、サブタイトルや書名のヨミが欠落していたり、検索にいろいろと支障きたす状況であった。また、この20万件のうち多くは、7年前のシステム導入時以前の基準で目録が作成されているために、書名や刊行年等が現在の全国標準であるNIIのデータと異なっている。さらにシステム自体も古くなって、現在の情報メディアの多様化について行けない状況であった。

来年は本学が創立100周年を迎える節目の年であり、これに向けて、図書館においても現在の利用者のニーズや他機関との相互利用の活性化を考慮し、情報検索環境向上のため、図書館システムの更新や目録の標準化等を進めてきた。特に目録の標準化は、膨大な量のデータを扱うので、できるだけ効率的に進めて行かなければならない。NIIへの補助申請を行ったのもその

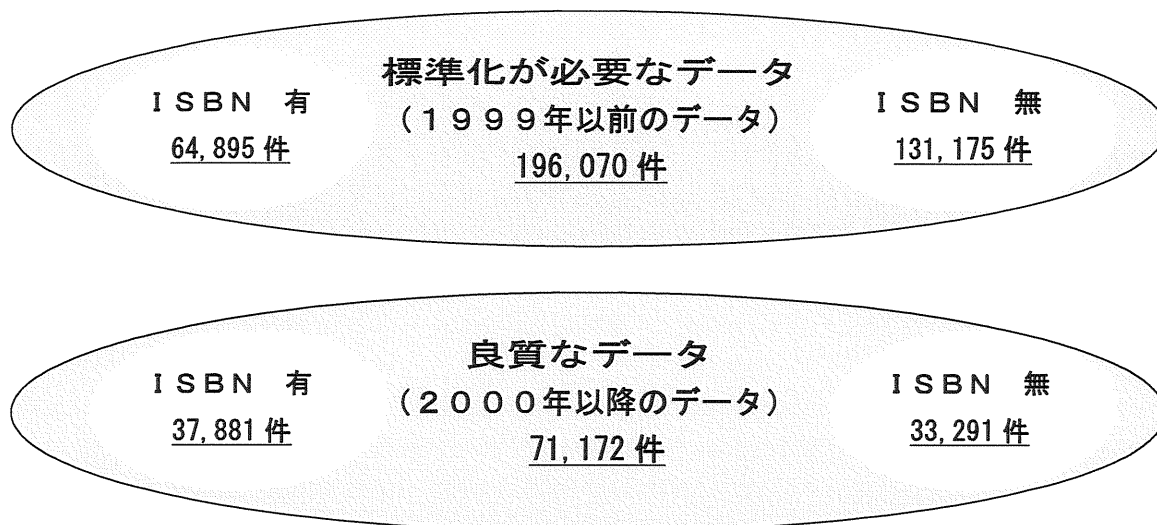
ためであるが、幸い採択され、短い期間で1万件以上のデータを更新することができた。以下はその試みについての報告である。

今回の遡及入力は、このNIIの支援とNC-Autoという遡及入力専用ソフトによる全自動、半自動入力の二本立てで並行的に実施した。NIIの具体的な支援内容は以下のとおりである。

まずNIIよりNC-Autoの提供を受け、それを使って本学のデータをNIIのサーバーにアップロードする。検索キーが一致しヒットしたデータは自動的にNIIへ所蔵登録がなされ、NII所蔵の良質なデータが本学のコンピューターにダウンロードされるが、ヒットしなかったデータについての入力作業（半自動入力と新規入力）をTRC（株式会社図書館流通センター）が請負い、その費用をNIIが補助するというものである。

### 2. 対象とするデータの選択

本学システムが所蔵している全データをEXCELにダウンロードして詳しく見てみると、2000年以降に受け入れを行った図書に関する目録データについては、比較的良質なデータが入っているようである。（図1参照）問題のあるデータは1999年以前のデータ196,070件で、そのうち131,175件がISBNの入っていないデータであった。ちょうど前年の3月に本学図書館2F閲覧室の蔵書点検を行っていたので、131,175件中、所在が2F閲覧室になっているデータを抽出し、その中の12,000件を今回の遡及入力の対象とした。



【図1】

### 3. アップロードファイルの作成

データをアップロードするには、まずアップロードファイルを作成しなければならない。

検索キーとして選んだのはFTITLE（フルタイトル）+AUTH（編著者名）+YEAR（刊行年）である。本学システムからダウンロードした目録データはタイトルや著者名、出版社等の書誌情報が、区切り記号で区切られた形でひとつのフィールドの中に連なって入っているので、その中から検索キーとなるタイトルや著者名、刊行年を抽出する必要がある。そして、この検索キーと、NIIに所蔵登録する際の登録キーとなるRGTN（所蔵図書の資料番号）やCLN（請求記号）等に関連づけたテキストファイルを作成しなければならない。12,000件の書誌情報は膨大なもので、まずデータをEXCELにダウンロードし、それを職員1人に2,000件ずつ割り当て、計6人で作業を行うことにした。

### 4. 結果

【表1】が12,000件をアップロードした結果である。総ヒット率22.6%は惨憺たる結果であるが、特にFTITLE+AUTH+YEARの組み合わせはヒット率17.8%と非常に低い数字に留まっている。これはAUTHキーを検索キーとしたことが最大の原因であると思われる。実はアップロードファイルの作成中から、AUTHキーのデータをどういう形にするかが職員の間で問題となっていた。例えば、姓と名の間は1文字空けるのか、「編」、「著」などの役割表示は必要なのか、編著者が複数の場合、最初の1人だけで良いのか等々、である。いろいろと試してみたが、いずれもヒット率は3%程度でしかなかった。17.8%とは、ノーヒットデータからAUTHキーそのものを削除して、FTITLE+YEARのみでアップロードしてヒットしたものを合わせた全体のヒット率である。

【表1】

検索キー	ヒット件数	ノーヒット件数	計	ヒット率
FTITLE+(AUTH)+YEAR	1,779	8,221	10,000	17.8%
FTITLE+PUB+(YEAR)	931	1,069	2,000	46.6%
計	2,710	9,290	12,000	22.6%

AUTHキーが検索キーとして有望ではないということが次第にわかってきたので、その時点で、アップロードファイルの作成にまだ着手していなかった2,000件については、代わりにPUB（出

版社）キーを採用して、FTITLE+PUB+YEARの検索キーでアップロードを行ってみることにした。結果は46.6%と格段に違ったものとなっている。これはFTITLE+PUB+YEARで1回、次に

ノーヒットデータからYEARを削除して、FTITLE+PUBで1回、計2回アップロードした結果である。YEARを削除したのは、古いデータの中には当時の目録規則に則って出版年を刷年で記述していて、現行のNIIのデータと異なっているからである。内訳は最初が2,000件中ヒット609件で30.5%、次が残りの1,391件中322件で23.1%、計931件、46.6%である。

NIIのホームページには筑波大学附属図書館外3機関が実施した自動登録の実証実験報告が掲載されている。ISBNの無いデータで全自動入力をした場合（いずれの機関もAUTHキーは採用していなかった）、多い所でせいぜい5割程度のヒット率であった。46.6%はほぼそれに近い数字である。おそらく現状ではISBNの無いデータで全自動入力をした場合、これ以上の数字は見込めないであろう。

試行錯誤の結果、多くのことを学んだが、12,000件中2,710件のヒット件数はあまりにも少ない。そこでISBNのあるデータもアップロードしてみることにした。この場合検索キーはISBNのみなのでアップロードファイルの作成は容易である。所在が2F閲覧室になっているデ

ータのうちISBNが入力されているものは23,233件、その中から1回目は6,000件、2回目は3,000件、計9,000件をアップロードした。（【表2】参照）

1回目のヒット率が55.3%と低いので、新たに3,000件をアップロードしてみたのだが、これも最初は1,882件のヒットで、ヒット率62.7%だった。検索キーがISBNならばヒット率9割は堅いと思っていたのでショックであった。

結局、原因は検索キーではなく、登録キーのCLNにあるのがわかった。アップロードファイルをEXCELからテキストファイルに変換した際、文字列を含むデータの中で、‘CLN=913.6:IKE’のようにシングルクォーテーションで囲われた形で変換されているものがある。どうしてそうなるのか原因は不明だが、こういうデータがNIIのサーバーから無効なデータとしてはじかれていたようである。NIIへ登録するデータとしては、最低限RGTNさえあれば十分なので、CLNを削除して残りの1,118件を再度アップロードしてみたところ新たに826件ヒットした。これで3,000件中計2,708件のヒット、ヒット率90.3%と見込み通りの9割に達した。

【表2】

	ヒット件数	ノーヒット件数	計	ヒット率
ISBN有 1 回目	3,318	2,682	6,000	55.3%
ISBN有 2 回目	2,708	292	3,000	90.3%
計	6,026	2,974	9,000	67.0%

## 5. まとめ

NC-Autoでの自動登録は今回が初めての試みであった。当初10,000件を更新するために、念のため12,000件のデータを選んだのだが、最終的には21,000件のデータを使用して8,736件がヒットという結果に終わってしまった。これは、取りかかりが遅く、（平成19年の1月に入ってから作業を開始した）NIIへ年度内に報告をしなければならなかった関係で、短期間で作業を行わなければならなかったこと、そしてそれに伴う準備不足が原因であろう。結局、手探り状態であったので、作業効率は芳しくなかったと言わざるを得ない。

本学図書館は本年度（平成19年度）コンピュータシステムを全面的に更新し、7月から稼働している。新システムはNIIへの自動登録機能を搭載しているので、遡及入力は、今回よりもよりスムーズにできるようになるだろう。標準化しなければならないデータはまだ大量に残っている。従って作業の完了までにはまだ多くの時間が必要であるが、今回の経験を生かして、より効率的に作業を進めて行きたいと考えている。

ざいぜん としひろ  
（別府大学附属図書館）

# 図書館紹介

## 【九州歯科大学附属図書館】

はじめに

九州歯科大学附属図書館です。九州歯科大学は平成18年4月をもって法人化され、福岡県が新たに設立した「公立大学法人九州歯科大学」のもとで、自主・自律の運営が始められました。本学は今年で創立94年を迎えます。現在、全国で290の歯科大学、歯学部がありますが、その中で5指に入る歴史を誇っています。

平成18年12月に12階建ての講義、研究施設ならびに管理部門からなる大学本館と2階建ての講堂ができました。



大学全景（左から本館、講堂）

## 施設紹介

附属図書館は平成19年4月より新しくできた本館に移転、開館しています。図書館は本館の1階・地下1階にあります。

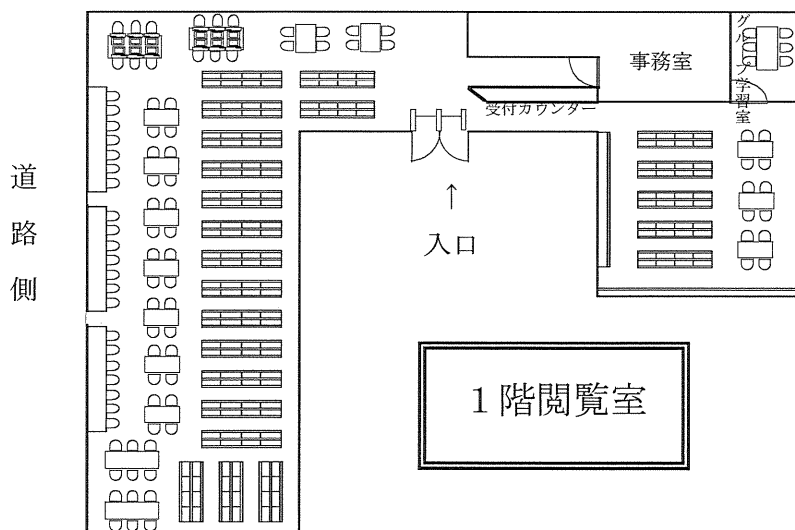
1階は閲覧室になっており、地下1階は電動移動書架となっています。

閲覧室は、コの字型をしており、入口を入る

と、正面に受付カウンターがあり、両方向に閲覧室があります。

図書館入口にはICカード対応の入退館システムが設置しており、利用者は図書館に入館・退館する時に所定の位置に学生証・教員証をかざすとゲートが開くようになっています。

本館1階平面図





入館すると、受付カウンターがあります。受付カウンターは温かな照明で開放感があり、親しみやすい空間となっています。

カウンターの横には、新たに自動貸出返却機を設置し、貸出・返却の手続きの手間を省き、利用者をお待たせするということがなくなりました。

閲覧室の壁面は全面ガラス張りで自然光を取り入れた照明となるような工夫がなされています。また外側は将来的に木が植えられる計画で、道路に面していますが大変静かです。

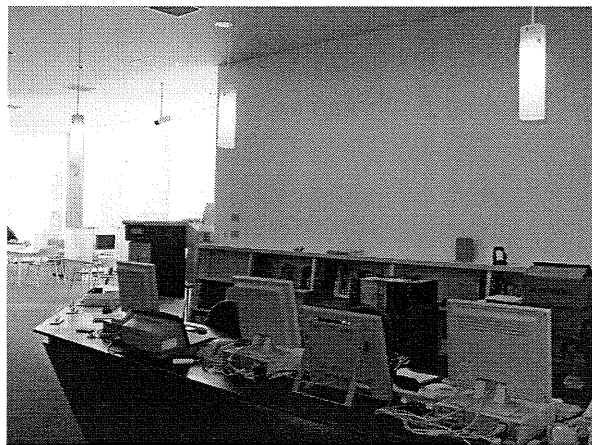
家具はデザイン性と使いやすさを重視したもののとなっています。書架・雑誌棚・閲覧机等はヒノキを使用し、手で触って木のぬくもりを感じられるような落ち着いたデザインです。

開放的かつ心が安らぐ雰囲気と併せ持っている学習環境となっています。

検索用のパソコンは12台あり蔵書検索（OPAC）の他、医学中央雑誌、Pubmed等検索可能になっています。

視聴覚コーナーとして4つの機器があります。また、グループ学習室も設置しており、チュートリアル等の少人数授業自己学習のために使われています。

蔵書は歯学部ということもあり、特に歯学関連の図書と雑誌は充実しています。また歯科医歯国家試験のための最近の各種参考書も多く取り揃えています。



受付カウンター



閲覧室（道路側）



学生用端末

## 利用案内

### 【開館時間】

平日（月～金）

9：00～20：00

但し、長期休業中は

10：00～19：00

土・日

12：00～17：00

### 【休館】

祝日・年末年始・長期休暇の土日

平日は一般の方にも開放しています。土日は学内者を対象に開館しています。学外者の方は閲覧・複写ができます。

## 【聖マリア学院大学図書館】

### ◆ はじめに

聖マリア学院大学の前身は、昭和48年に設置された聖マリア高等看護学院（聖マリア病院付属）で、昭和51年には聖マリア学院看護専門学校と名称を変更し、昭和57年に聖マリア学院短期大学（学校法人聖マリア学院附属へ変更）となり、平成18年4月に4年制大学として開学いたしました。

聖マリア学院大学は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的として設置されました。

このような趣旨は、図書館の理念としても連綿と引き継がれ、医療従事者を目指す学生のための資料を充実させる上にも、常に考慮されているところです。その一つは、本学がとくに力を注いでいる「生命倫理」の分野であり、さらに、今後の看護学に求められている分野は、きわめて広範囲に広がっているため、「看護の国際協力」の領域の充実を目指しているところです。

### ◆ 図書館概要

このような教育理念を背景として、聖マリア

## 施設概要

- ・面積：892m<sup>2</sup>
- ・閲覧席：103席
- ・蔵書冊数：39,844冊  
製本雑誌：42,033冊
- ・雑誌の種類：1,764種
- ・情報検索コーナー：PC12台
- ・A V 機器：4台
- ・グループ学習室
- ・入退館管理システム（ICカード使用）
- ・BDSシステム

学院大学図書館の母体は、昭和48年聖マリア高等看護学院創立時に設置され、昭和51年聖マリア学院看護専門学校、昭和57年聖マリア学院短期大学を経て、さらに平成18年に聖マリア学院大学が開学されたのに伴って現在の図書館となりました。

本学図書館は、福岡県久留米市の中心部に位置し、聖マリア高等看護学院創設時に設置され、共に変化を遂げながら現在に至っています。

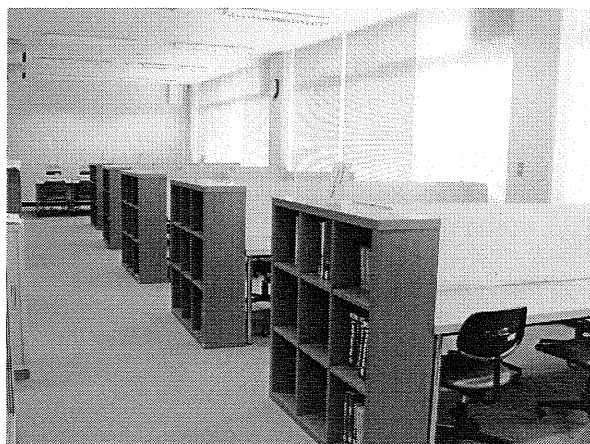


《本学2号館入口（聖母マリア像）》

聖母マリア像の左側を奥に進んだところに図書館があります。

## ◆ 施設概要

面積：204m<sup>2</sup>（積層書架3階を含む）  
閲覧席：49席  
AV席：3席  
情報検索PC：12台  
蔵書冊数：約32,000冊  
（和書：約30,000冊、洋書：約2,000冊）  
所蔵雑誌タイトル：約1,200種  
（和雑誌：約620種、洋雑誌：約580種）



### 《閲覧室》

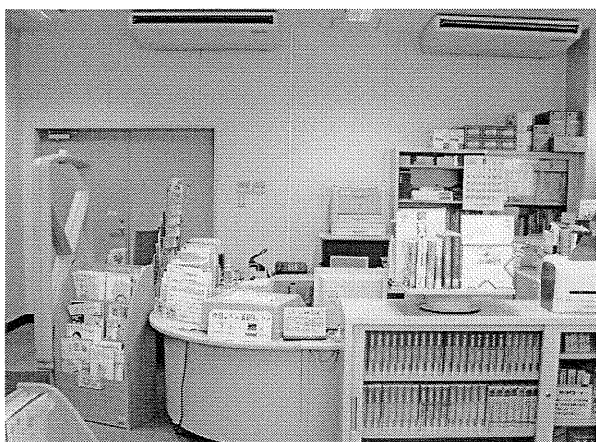
実習終了、放課後ともなると、講義の補修学習、国家試験勉強、臨床実習のまとめなどのために多くの学生で賑わいます。

手前の書棚には、国家試験問題集、参考図書や大系図書などが並び、頻繁に利用されています。

## ◆ 館内案内（閲覧室）

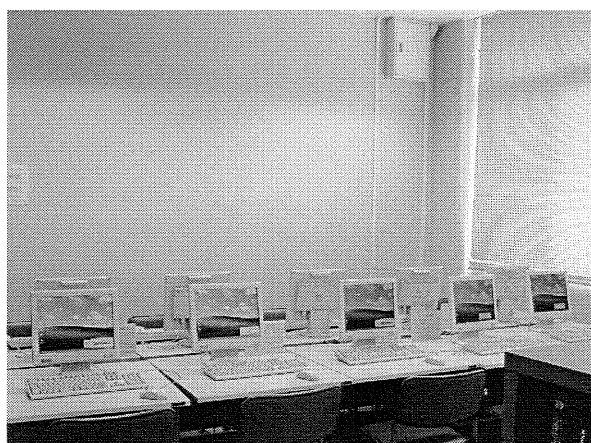
本学図書館は、3号館2階に入口があり、入ってすぐにカウンター、新着図書コーナー、AVブースがあります。

入って左手には図書館の主要な空間である閲覧室のスペースを取っています。閲覧室には参考図書、新着雑誌の棚が並び、さらにその奥には情報検索用PCが10台並んでいます。



### 《カウンター》

貸出、返却業務のほか情報検索のためのレファレンスも行っています。



### 《情報検索用パソコン》

蔵書検索システム（OPAC）や文献検索データベース「医学中央雑誌」、「メディカルオンライン」、「CINAHL」の利用が可能。

これらのデータベースを使った文献検索ガイダンスを実施しており、学生だけでなく聖マリアグループ職員の利用も増えています。

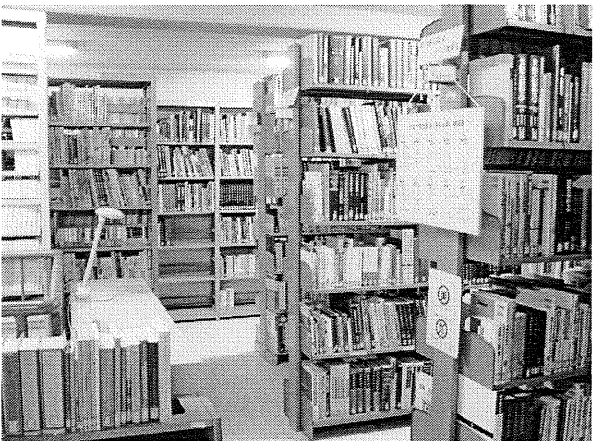


### 《雑誌コーナー》

新着雑誌が並び、看護学、地域保健、介護福祉などの学術雑誌を揃えています。バックナンバーは製本雑誌として、階下にある移動式書架に配架されています。

#### ◆ 館内案内（書架）

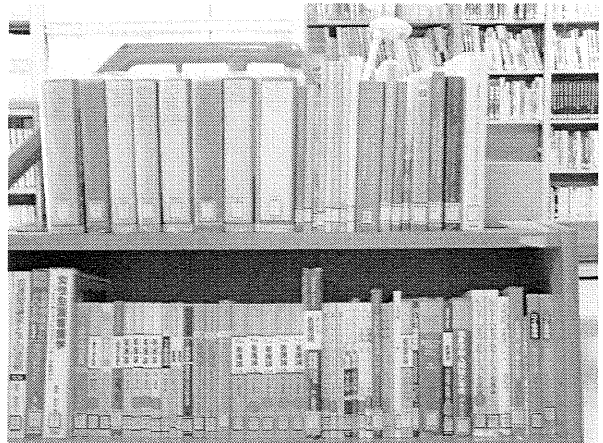
カウンターの右手には3号館の建物の1階と2階のスペースを利用した積層書架があり、1階には製本雑誌、中2階にはカトリックなどの宗教、哲学、心理学などの一般教養図書、3階には医学、看護学、保健医療の専門図書が並んでいます。



### 《書 架》

医学・看護学の専門図書を中心として、生命倫理や国際協力関連の図書も多く並んでいます。

また、聖マリア病院並びに聖マリア学院の創設者である故井手一郎氏より寄贈された図書も多く、カトリックなどの宗教、哲学関係の貴重な資料などを所蔵しています。



### 《看護論図書コーナー》

本学の教育の特色である「ロイ適応看護モデル」やその他の看護論図書を配架。そのほか「マザーテレサ」に関する図書の展示も。

#### ◆ 利用案内

##### 《開館時間》

月～金曜日 9：00～20：00

土 曜 日 9：00～15：00

※ 学校行事等に変更になる場合があります。

##### 《休 館 日》

日曜・祝日、年末年始、開学記念日

その他館長が特に必要と認めた日

##### 《利用できる人および貸出区分》

在校生・卒業生	図書：3冊	1週間
教職員・グループ職員	図書：5冊	1週間
図書館長が特に許可した者	閲覧、複写のみ	

#### ◆ 関連施設

聖マリア病院が隣接していることもあり、病院図書室との相互利用を行っています。聖マリアグループ職員および本学教職員、学生であれば、病院図書室の利用が可能となっています。

特に医学系の学術雑誌が充実しており、研究に必要な文献がすぐに入手できる環境にあります。



《雪の聖母聖堂》

聖マリア病院の施設内にあり、慰霊式、クリスマスのミサなど聖マリア学院の諸行事はここで行われています。

## 【長崎大学附属図書館】

平成19年6月4日、中央図書館2階にフロアが増設され、ここに新しい部屋が2つオープンしました。

2階玄関から入ってまっすぐ奥にすすみ、ドアを開けて渡り廊下を渡ると、そこは放送大学長崎学習センターと長崎大学が共同で建設した新しい建物です。廊下の正面のドアを入ると「ライブラリーラウンジ」、左に曲がると「メディアルーム」です。

また、本館2階の「メディアサロン」も快適で楽しいスペースにリニューアルしました。

長崎大学附属図書館の新しい顔となった、この3室についてご案内させていただきます。

### ライブラリーラウンジ

ライブラリーラウンジには、自由に移動・組み合わせができるミーティングテーブル席（32席）のほか、窓際には自分のパソコンが接続できる情報コンセント付のカウンター席（12席）、壁際の奥まったところにはゆったりとくつろげるラウンジチェアとテーブルが2セットあります。

## ◆ おわりに

これからの中期計画として、より一層の資料の充実や利用者サービスの向上を目指して、電子ジャーナルを中心とするメディアセンター（仮称）の建設が予定されています。



〈ライブラリーラウンジ〉

ライブラリーラウンジのテーブルや椅子は、オレンジ、白、ライトグリーン、レモンイエローなどカラフルです。学生さんからも、「カラフルな部屋」などと呼ばれています。ミーティングテーブルはリボン型でキャスターが付いており、部屋の隅に寄せてひとりで学習する人、2つ～4つのテーブルを組み合わせ、グループで使う人、とさまざまです。本館から自由に資料を持っていくことができ、会話がOKですので、グループ学習にも多く利用されています。



〈ライブラリーラウンジ・学習風景〉

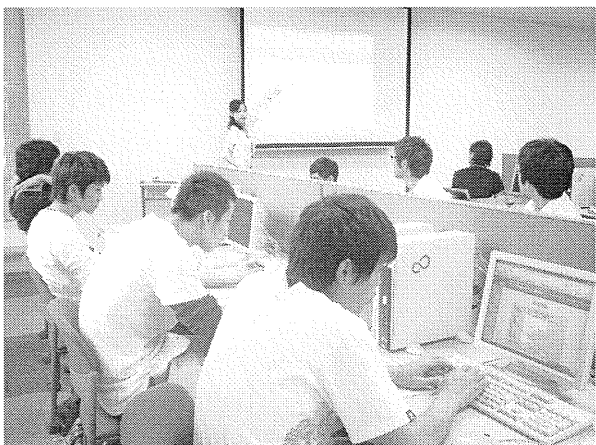
そのほか、カウンターのお決まりの席で外を見ながらノートパソコンを使う人、ラウンジチェアでしんみり話し込んでいる学生さんなど、思い思いに利用していただいています。

#### メディアルーム

メディアルームには本館から移動した情報メディア基盤センターのパソコン（52席）と、自分のパソコンが接続できる情報コンセント付きの閲覧席（40席）があります。パソコンは情報メディア基盤センターの端末となっており、センターの発行するIDで利用できます。

スペースをゆったりとって、対面の机にはセンターパネルを取り付けたところ、「資料を見ながらパソコンが使えるようになった」「窮屈な感じがなくなり落ち着ける」と好評で、常に満席に近い状況です。

奥の壁には2面のスクリーンを備え、図書館ガイダンスも快適な環境で受けていただけるようになりました。



〈メディアルーム・ガイダンス風景〉

#### メディアサロン



〈メディアサロン・軽雑誌コーナー〉

中央図書館・本館2階側の「メディアサロン」は、AV資料、新聞、軽雑誌、CNN放送、パソコンなど、図書、学術雑誌以外の情報を集めた部屋となっています。

パソコンの多くをメディアルームに移動し、ゆとりができた室内には、グリーンを基調にした家具と観葉植物を配置して、リラックスできる雰囲気を作りました。

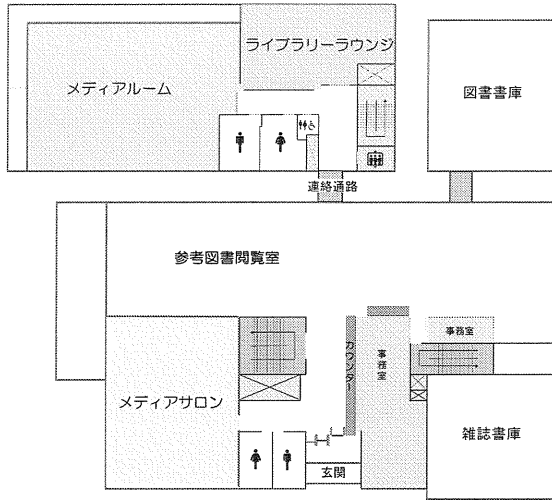
特に、軽雑誌コーナーを拡充して、魅力的なデザインのライトグリーンのソファと木製の雑誌書架を設置しました。暮らしや健康についての雑誌も増やし、学生さんだけでなく教職員にもくつろいで利用していただけるように配慮しました。

AVコーナーのテレビ、椅子なども増設・更新し、夕方には、DVDで映画やドラマなどを楽しむ学生さんで満席になります。

本学の中央図書館は、昭和46年に建設されて以来、書庫の増築はありましたが、閲覧スペースについては限られた面積を工夫しながら利用してきました。

今回、約450㎡の閲覧スペースが増加したことによって、暗く狭苦しいイメージだった図書館に「明るい」、「綺麗」といわれる空間を作り出すことができ、面積以上に図書館全体のイメージアップを図ることができました。

今後も、みなさんが立ち寄りたくなる図書館をめざしていきたいと思っています。



中央図書館利用案内

開館時間

平日 8:40～21:45 (休業期は17:00まで)

土・日・祝日 10:00～17:00

休館日

開学記念日 (5月31日)

年末年始 (12月28日～1月4日)

〈中央図書館2階平面図〉



〈メディアルーム〉

## 加盟館ニュース (五十音順)

### 【大分大学附属図書館】

#### 1. 大学開放イベント2007に参加

平成19年11月4日(日)に開催した大学開放イベント2007に図書館も参加し、下記のイベントを実施した。

- ① 読み聞かせ会 (学生等ボランティアによるパネルシアター、絵本の読み聞かせ)
- ② さまざまな『水』に関する図書館資料展示～水サミットコラボレーション企画～
- ③ 身近な水を検査してみよう！～蛍が住める水ってどんな水？～
- ④ パネルで“水問題”を考えます。～アジア・太平洋水サミットが大分で開催されます～
- ⑤ 一般・娯楽雑誌の無償配布  
当日は晴天にも恵まれ多くの入館者で賑わっ

た。

#### 2. 横断検索システムに県内公立図書館を追加

大分県内の大学図書館と県立図書館間で実施していた横断検索システムに、大分市民図書館等、公立図書館10館を追加した。これにより大分県内の16の図書館及び国立情報学研究所のWebCatが一度に検索できるようになった。

#### 3. 解剖図譜展を開催

平成19年6月25日(月)から平成19年7月6日(金)まで、杵築藩医佐野家の文書263点を常設展示している医学分館医学資料室で、日本歯科大学新潟生命歯学部所蔵の医学古書9点を展示した。

### 【鹿児島大学附属図書館】

#### 1. 「鹿児島大学附属図書館開放週間」を実施

鹿児島大学附属図書館では、一般の方々に図書館の現状及び活動を知っていただき、より多くの方に図書館を利用していただくことを目的として、11月1日から11月7日まで中央図書館において「鹿児島大学附属図書館開放週間」を実施した。

期間中は、玉里文庫をはじめとする様々な図書館資料や、今年で9回目となった貴重書公開事業の図録、玉里文庫の絵図入りクリアホルダーなどを展示した。

また、11月4日には、「大学図書館及び情報の活用講座」を開催し、一般の方向けに、大学図書館の上手な活用方法、検索エンジンやデータベースを利用した情報収集の方法などを、パソコンでの演習を交えながら紹介した。

#### 2. 島津家関連新資料「奥祐筆日記」を発見

鹿児島大学附属図書館の所蔵する書籍の裏打ち紙から、丹羽准教授(本学法文学部)の調査により、「越前島津家奥祐筆日記」が発見された。

「奥祐筆日記」の「奥」とは、将軍や大名など高い位の武家の屋敷のうち、その当主の夫人や奥女中などの住む、当主以外の男子の立ち入りを禁じた空間をいう。現在の鹿児島市大龍町にあった越前島津家上屋敷の「奥」での出来事を、書記(祐筆、右筆)が記したものである。記述は簡潔なものが多いが、当主や夫人や親類の者たち、さらに奥女中の外出や来訪者の出入りなどがつぶさに分かり、薩摩の武家の年中行事や冠婚葬祭の在り方、娯楽や信仰など日常生活も垣間見ることができる。近年、将軍家や大名家の「奥」に関して注目が集まっているが、江戸(の屋敷)が中心であり、この奥祐筆日記は、知られることのほとんどなかった地方の武家の「奥」の姿を見ることができる点、貴重なものということができる。

#### 3. 夏休み子ども見学デーを開催

鹿児島大学附属図書館では、夏休み中に、子どもたちが保護者と一緒に大学図書館を体験してもらうことを目的として、第4回「夏休み子ども見学デー」を8月24日に開催した。



参加者は、図書館に所蔵されている大量の専門図書や学術雑誌、貴重な古文書を見学したり、図書館の本やパソコンを使って問題を解きながら館内のチェックポイントを回るスタンプラリーに挑戦したりなどして、大学図書館を体験した。

#### 4. 情報リテラシー教育支援の強化・充実

鹿児島大学附属図書館では、通常の図書館情報活用ガイダンスのほかに、今年度から、新1年生対象の共通教育科目である「情報活用基礎」の1コマで、学術情報の利用法や、蔵書検索、及び文献検索の方法等について紹介しており、今年度は34回実施した。

#### 5. 貴重書展示会・記念講演会を開催

鹿児島大学附属図書館では、10月17日から21日まで中央図書館において、11月9日から23日まで鹿児島県始良郡始良町歴史民俗資料館において貴重書展示会及び記念講演会を開催した。

第9回目となる今回は、「没後120年 島津久光 一玩古道人（がんどどうじん）の実像」というテーマのもとに、初めて、玉里文庫の主であった島津久光を正面から取り上げた。久光の70年の生涯を3つの時期（越前島津家の当主時代、島津藩の最高権力者として中央政界に活躍する時期、明治維新後鹿児島に隠棲する時期）に分けて展示を行った。

また、他書籍の裏打ち紙から新たに発見された「越前島津家奥祐筆日記」（久光は本家に復帰するまで、越前島津家の当主であった）を公開した。

### 【鹿屋体育大学附属図書館】

#### 1. 集密書架増設

平成18年12月から年度末にかけて、閲覧室1階に移動式集密書架の増設（6段6連×28面）とそれともなう製本雑誌の書架移動を行った。合わせて2階閲覧室図書の一部を2階集密書庫へ移動し、体育・スポーツ関連の資料に関する配架スペースの拡充を行った。

#### 2. 利用者ID共通化

学内の物品購入システムと図書館システムにおける図書購入依頼システムの利用者ID共通化を行い、利用者の利便性向上を図った。

#### 3. 利用者アンケート

利用者サービス向上と改善を図るため、利用者アンケートを実施した。

実施期間：平成18年12月11日～25日

対象：学部学生、院生、教職員

回収率：全体の27%

主な項目として、利用頻度、利用目的および目的別満足度、電子ジャーナル冊子体雑誌の利用評価、資料の分類別充実希望等を調査した。

（集計結果）

<http://www.lib.nifs-k.ac.jp/HPBU/riyosha.pdf>

#### 4. 利用者ニーズへの対応

アンケート結果を平成18年度末の受入図書選定へ反映させた。

#### 5. シラバス関連資料

平成19年度学部および大学院のシラバス関連資料について未所蔵分の購入を行った。

#### 6. 電子的資料の充実

平成19年4月よりSPORTDiscus with Full Textを導入した。同データベースの利用者講習会（平成19年7月）、電子ジャーナル（Elsevier社ScienceDirect）利用者講習会（平成19年10月）を開催し利用促進を図った。また、利用者ガイダンスの見直しを行い、電子的資料利用ガイダンスの需要へ対応するようにした。

#### 7. 附属図書館システムの更新

平成20年2月にシステム更新を行う。従来の業務機能に加え、Webを通じた利用者サービスの拡充、学術機関リポジトリシステムなどが組み込まれ電子図書館的機能が強化される。

## 【九州共立大学附属図書館】

### 利用者促進事業－図書館の取り組み

九州共立大学附属図書館で行っている利用者促進事業の事例報告を行う。ただし、この報告はまだ経過途中のため最終報告については改めて行うつもりだということを念頭においていただきたい。

### 【九州共立大学附属図書館の現状】

昨今、図書館職員の減少に伴い図書館サービスの低下がうたわれています。

さらに学生数の減少及び図書館の施設整備に伴う長期の閉館という状況に伴い、2005年度はかなりの入館者数及び貸し出し冊数の減少が見られました。

それを改善すべく図書館で新たな取り組み及び継続的取り組みの梃子入れを行うとともに広報戦略について新たな活路をみいだすことになりました。

### 【現状改善目標】

まず現状改善目標として入館者・貸出冊数の増数、その他の図書館活用の利用実績の増数を掲げました。それに伴う改善方法として1. 学内的取り組みとして情報教育（リテラシー）支援サービス、2. 学外的取り組みとして地域社会へのサービスの充実を目標とした。

### 【改善方策】

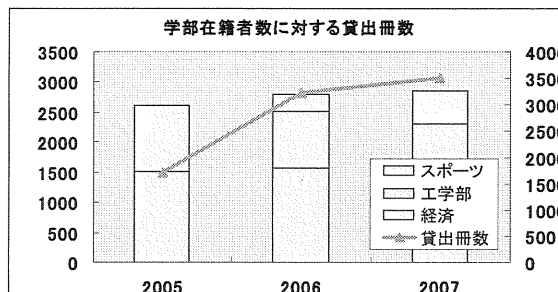
#### 1. 学内的取り組みとして情報教育（リテラシー）支援サービス

情報教育リテラシーについての取り組みとして、新入生に向けての取り組みについて内容の見直し及び充実を図ることとした。それにあわせ学内的な中期アクションプランという3年計画に基づく学生サービス向上に伴う計画の提示があり、図書館として更なる図書館利用促進事業を図ることとなった。

この中期アクションプランは昨年度より新入生対象にサービス、情報教育リテラシーの充実を図るため、今まで取りあえず行っていた内容を5Step別に分けて詳細な内容の提示を行い教員との打合せをすることにより、内容の充実を図ってきた。その結果、2ヵ年目の今年度若干な

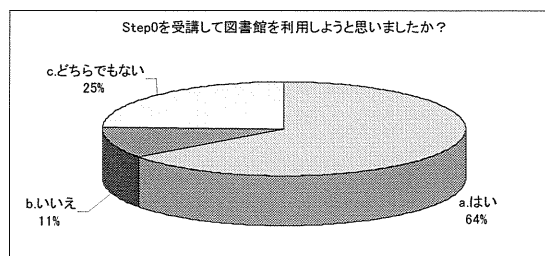
がら目に見える成果を出すことができた。

下記の数字のとおり、入館者数及び貸出冊数に伸びが見えてきた。



特に新学部設置に伴い、早々に戦略的に学部交渉を行い、学部全部を巻き込んだ形の中期アクションプランを展開してきた。

その結果、新入生時点でのアンケートの結果及び利用者動向に反映する結果が生まれることができた。



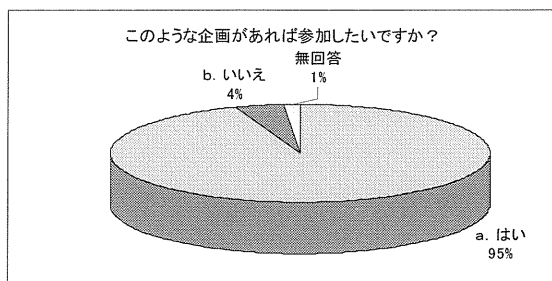
#### 2. 学外的取り組みとして地域社会へのサービスを方策

また、学内的促進事業に伴い学外的利用促進事業の展開を推し進めた。もともと学外の利用者に対しても貸出、サービスは行っていたが、情報教育（リテラシー）についての提供はしていなかった。

その部分に着眼点を置き昨年度から大学祭の学外者が多く出入りする時期を狙いLibrary Fair（図書館フェア）と題した図書館での催しを考え利用者の取り込みを企画した。この利用者の取り込みはかなりの反響があり、下記の結果を納めた。

この結果から今年度は新たに生涯学習教育研究センターの講座と連携して図書館独自の講座を開催することにした。はじめは手探り状態だったが、講習会受講者から良い印象を得られ、

成果があがったと思われる。



### 【まとめ】

この結果から学内的、学外的ともに情報教育（リテラシー）支援サービスのアドバイス及び

### 【九州国際大学図書館】

「福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会」で「プレ目録講習会（図書編）」を開催  
「北部地区研究会」では、昨年の研究会で「目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキンググループ活動報告」の中間報告があった。

この報告を受けて、今年の事業計画を、地域における目録の品質維持をしてもらうために目録講習会を企画したところ、加盟全館から実施の方向で賛同を得た。最初ということもあり、名称を「プレ目録講習会（図書編）」とした。講習会内容は、九州共立大学附属図書館の矢崎美香氏に講師をお願いし、NACSIS-CAT/ILLの基

レクチャーは必要なことであり、図書館の利用向上のためにはとても大切な部分であることを認識させられた。

また、その効果として利用者である学生の学力向上及び情報検索におけるスキル向上は、職員である私たち及び教員に対してのレベル向上を促すものであり、今後の展開及び学内的な図書館の位置づけを変えるものだと感じた。また学外者のスキル向上による影響が学内者の利用にとって今までのようなものではなく相乗効果を生み新たな大学のイメージアップにつながるものだと考えた。

礎知識について、セルフラーニング教材を中心に実施した。終了後アンケートを実施したところ概ね好評であった。

日 時：平成19年12月11日（火） 13：30～16：30

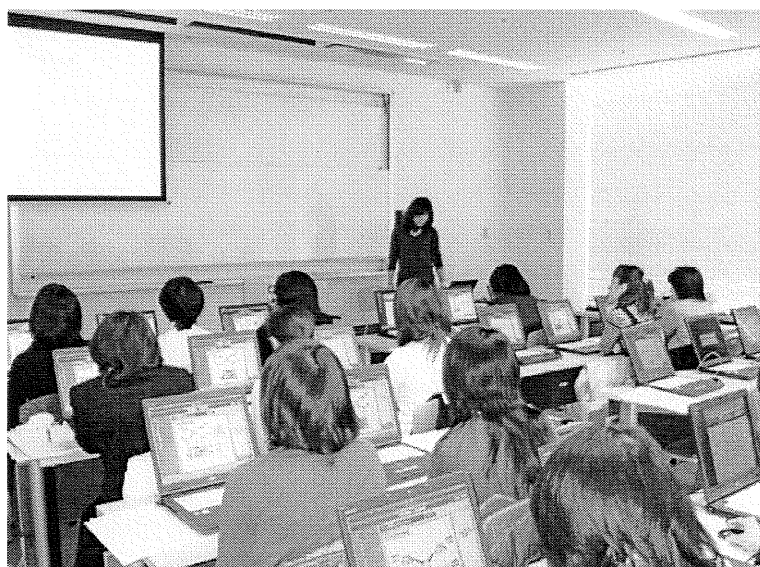
講 師：矢崎美香（九州共立大学附属図書館）

サポート：宗広（西日本工業大学）上井（九州共立大学）坂田、原田、甲斐（九州国際大学）

会 場：西日本工業大学（小倉キャンパス）

対 象 者：北部地区加盟館 14館 27名

〈以下の写真は講習会の様子〉



## 【九州女子大学附属図書館】

### インターンシップ・プログラムによる学生受入と成果

本学の人間科学部の教養科目カリキュラムにはインターンシップ・プログラム（選択科目／2単位）が開講され、2・3年生の学生が学外の企業等で職場体験を行っています。本プログラ

ムの受講生には図書館での勤務希望者もいたため、本学図書館は平成17年度からインターンシップ学生を受け入れました。平成17年度の受入学生は4名で、平成18・19年度の実績は下表のとおりです。

	平成18年度	平成19年度
受入人数	3名	3名
受入期間	8月3日から9月21日で1人当たり約11日間	8月28日から10月4日で1人当たり約11日間
勤務時間	1日8時間（休憩時間を含む）以下の勤務で、1人当たりの勤務時間合計は82時間から84時間	
勤務条件	アルバイト料等の支給無し。各学生は業務日誌を作成（本学図書館では日誌の助言欄に記載）	
主な業務	教員研究室の蔵書点検、館内図書の配架替え、 書架整理、図書装備、図書の貸出・返却	館内資料の蔵書点検、書架整理、図書装備、 図書の貸出・返却

受け入れた学生はいずれも司書課程や学校図書館司書教諭課程を受講していたこともあって、短時間の説明で担当業務を理解することができ、目的意識も明確で熱心に仕事をしていました。本学図書館では各担当者や課長が各学生に対して実施業務の手順だけでなく、図書館利用者から見た必要性も説明するように特に配慮しています。今年度の各学生の業務日誌には次のような意見や感想が記されています。

- ・図書館の仕事はパソコンを使っただけの仕事が多く、カウンター業務や図書の配架しか知りませんでした。これまでの認識が大きく変わりました。
- ・利用者の見えないところでも、たくさんの仕事があることを学びました。

- ・細かい作業、力仕事、繰り返し作業でも手を抜かずに責任をもってする大切さを学びました。
- ・利用者にとって利用しやすい図書館になるように様々な改善策を考えていることがわかりました。

本プログラムを振り返ってみると、学生には図書館関連の授業で学習したことを実習として体験できるという意義があると考えられます。さらに、本学図書館には各業務が「利用者サービスの向上」（本学図書館の基本方針）に適合しているかを学生によって点検・評価されるということにもつながり、この意義も極めて重要であると認識しています。

## 【九州大学附属図書館】

### 企画展示会「熱き時代－アーカイブでよみがえる炭鉱（やま）－」を開催

福岡県立図書館との共催事業として、2月15日から20日まで、炭鉱をテーマにした資料展を福岡市のアクロス福岡にて開催した。この展示会では、九州大学附属図書館付設記録資料館が所蔵する石炭関係資料と福岡県立図書館が所蔵する書籍を中心とした炭鉱関連資料を展示し、我が国の近代化を支えた石炭産業について福岡

の炭鉱を中心に紹介した。地域に密接に関わる資料の展示ということもあり、来場者の関心も高く、大牟田市・宮若市などへの巡回展示に発展するなど反響を呼んだ展示会となった。

### 貴重文物展示「東西の古医書に見られる病と治療－附属図書館の貴重書コレクションより－」を開催

5月10日から17日までの8日間、開学記念行

事の一環として附属図書館の貴重古医書コレクションの展示を行った。これはおよそ17世紀から19世紀までの資料に見られる諸事例を通じて、昔の病気観と治療法を紹介するもので、各種疫病や寄生虫、傷・腫物の手当て、鍼灸など、当時の人々の病気に対する考え方や治療法、東西交流における日本の貢献など、普段あまり見ることのない資料を広範囲にわたって展示した。また5月13日には言語文化研究院のヴォルフガング・ミヒェル教授による公開講演会も開催した。

### リフレッシュルームを設置

中央図書館では、4月、飲食が可能なリフレッシュルームを館内に設置した。これは、図書館を長時間にわたって利用する場合でも館内で快適に過ごせるようにと設けたもので、カジュアルな丸テーブルやカウンターテーブルを配置し、飲み物の自動販売機も設置している。これにより利用者は、図書館を出ることなく持ち込んだ食事を取ったり、飲み物で学習の疲れを癒すことができるようになった。

### 早朝開館の試行開始

中央図書館では、10月、早朝開館の試行を開始した。これは、平日の開館時間を、これまでの午前9時から1時間早めて8時とするもので、8時40分の授業開始の前にも図書館を利用できるようにしたものである。試行開始当初2ヶ月の利用者数は、1日平均43名で、早朝にもかかわらず予想を上回る利用があり、確かな需要があることが確認されたため、規定の改正など本格的な実施に向けて準備を進めている。

### Webサイトリニューアル

10月に附属図書館はWebサイトをリニューアルした。新しいWebサイトはWeb上での学習・研究のサポートを目的とし、ブログベースのCMS (Contents Management System) を利用して構築している。Webリソースをより効率的に使えるようにナビゲーションを向上させ、RSSなどの新技術にも対応している。またCMSを使うことにより従来の方法に比べメンテナンスが容易になった。今後も利用者の意見を反映させながら、よりよいサービスが提供できるよう改善を

進めていく。

### 電子ジャーナルの整備

数年間にわたる学内関係委員会等での検討を経て、平成19年度より電子ジャーナル経費(4.3億円)の完全共通経費化を実現した。財政基盤を確立したことで、電子ジャーナルの安定的な供給と効率的な運用が可能となった。電子ジャーナル利用可能タイトルは3万8千種を超え、設定データベースを拡充したリンクリゾルバ「きゅうとLinQ」との連携により、電子リソースの利用環境を向上させた。

### 「九州大学学術情報リポジトリ(QIR)」と「九州大学研究者情報」のリンクを実現

九州大学の教育研究成果物を電子的に蓄積・公開する「九州大学学術情報リポジトリ(QIR)」と、九州大学の教員の教育研究活動情報のデータベースである「九州大学研究者情報」との連携システムを構築し、平成19年4月に運用を開始した。これは、国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業の委託を受け、平成18年度にシステムを開発したものであり、「九州大学研究者情報」に登録された論文情報からQIRの論文本文へのリンクを実現している。

### トロント大学図書館との図書館間学術交流協定を締結

附属図書館は12月、カナダのトロント大学図書館と学術交流協定を締結した。これは、平成18年12月から平成19年2月までの3ヶ月間、本学の図書館職員がトロント大学図書館に滞在して業務研修を行ったことに端を発し、図書館間の交流協定にまで発展したものである。トロント大学図書館は、カナダでは最大、北米でも第4位の規模を誇る大学図書館であり、利用者指向の電子リソースサービス等、先進的電子図書館として知られている。今後、図書館利用の協力、刊行物の交換等とともに、電子情報資源の活用においても相互に寄与することを目指している。

「大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー」を開催

中国四国地区国立大学図書館協会と九州地区国立大学図書館協会との共催により9月6・7日の二日間に渡りセミナーを開催した。これは採用されて3年以内の図書館職員を対象として、図書館職員のスキルアップおよび人的ネットワークの形成を図ることを目的としており、国公立大学の図書館職員35名が受講した。

これから図書館職員として活動していく上で基本となるテーマについて講義が行われたほか、ワークショップ形式で行われたグループ討議では、それぞれ与えられたテーマについて各大学の事例や取り組みをもとに活発な議論が展開された。

#### 貴重文物講習会の開始

昨年度から実施しているきゅうとステップアップ研修の一環として貴重文物講習会を開始した。これは昨年度まで実施されていた漢籍講習会・ラテン語古刊本書誌作成研修会の終了を受けて企画されたもので、九州大学が所蔵する貴重資料に関して認識を深めること、図書館職員

の専門性を高めることを目的としている。講習会の資料は「九州大学学術情報リポジトリ (QIR)」で公開している。

#### 第54回国立大学図書館協会総会を開催

九州大学附属図書館を当番館として、6月28日に第54回国立大学図書館協会総会がJALリゾートシーホークホテル（福岡市）で開催された。総会においては、全体会議のほか「図書館組織・人事制度のあり方・人材育成の方策等について」「今後の図書館システムと利用者サービスの方向性について」「機関リポジトリの運営・推進について」の3つをテーマとしたワークショップが開催された。また、前日の27日には「大学経営からみた図書館」をテーマとした国立大学図書館協会マネジメント・セミナーも開催された。

#### その他

学生モニター実施

九大SNSの開始

国立七大学附属図書館協議会を開催

Webアプリケーションゼミの開始

### 【熊本大学附属図書館】

#### 1. パソコンコーナーの整備充実及び開館時間の拡大

平成19年2月に中央館第1閲覧席及び開架書庫を一部撤去し、パソコンコーナーの整備充実を図りパソコン及びプリンターを増設した。また、平成19年4月より、開館時間を9時～22時から8時40分～22時に拡大した。その結果、学生の図書館利用における利便性が良くなり、図書館利用者が増えている。

#### 2. 中央館玄関ロビーの活用

平成19年4月より新しい試みとして、中央館玄関ロビーを改修してミニイベントコーナーを整備し、学生の図書離れ対策及び図書貸出増加を目的とした若手職員の企画による貸出可能な企画展示を実施している。

#### 3. 貴重資料展・公開講演会を開催

旧制第五高等学校開校120周年記念事業とし

て、10月10日から13日まで中央館自由閲覧室において第24回貴重資料展及び公開講演会を開催した。本事業は、昭和59年より毎年秋に開催しているもので、地域住民にも恒例事業として根付いている。展示資料として、熊本における高等教育の淵源たる藩校「時習館」資料、五高生の息吹を今に伝える「龍南会雑誌」、修復した「沖縄風俗絵巻」等を展示公開した。また、10月10日に放送大学熊本学習センター3階講義室において「藩校の時代」、「五高所蔵『沖縄風俗絵巻』の世界」と題する公開講演会を実施した。

#### 4. 永青文庫セミナーを開催

10月10日、貴重資料展と併せて第2回永青文庫セミナーを開催した。永青文庫は熊本藩主であった細川家に伝わる資料で、初代細川藤孝（幽齋）以来約300年に及ぶ熊本藩の藩政資料であり、近世史研究上極めて価値の高い資料である。今回のセミナーは、昨年引き続き熊本

大学客員教授川口恭子氏（元図書館専門員）による「時習館100年の運営あれこれ」と題する講演会を実施した。

## 【佐賀大学附属図書館】

### 1. 図書館月間

当館では、市民や学生・教職員の利用促進をはかる目的で、例年11月を「図書館月間」と称して講演会や資料展示等のイベントを開催している。平成19年は統一テーマを「佐賀の人づくり」とした講演会と展示会を開催した。今回の企画にあたっては、佐賀市立図書館のご協力により講演会会場の提供を受けた。

#### (1) 講演会

- ① 11月14日(水) 佐賀大学附属図書館
  - ・「江戸時代佐賀藩の教育－文武課業法を中心として－」講師：生馬寛信（佐賀大学文化教育学部教授）
  - ・「明治初期に高度情報化社会を予見した佐賀の偉人、志田林三郎の生涯」講師：信太克規（佐賀大学理工学部教授）
- ② 11月17日(土) 佐賀市立図書館
  - ・「佐賀のひとづくりと遊学」講師：青木歳幸（佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授）
  - ・「日本初の女性化学者 黒田チカ博士」講師：堀 勇治（佐賀大学理工学部助教）
- ③ 11月22日(木) 佐賀大学附属図書館
  - ・「幕末佐賀藩の科学技術」講師：長野 暹（佐賀大学名誉教授）
  - ・「鉄及びマニュファクチャリングへの挑

## 【長崎大学附属図書館】

### 1. 増築による学生利用の増加

中央図書館の南側に、放送大学長崎学習センターとの合築棟が竣工し、平成19年6月から長崎大学附属図書館部分について利用提供を行った。

合築棟は地上4階建て総床面積約1,700㎡で、

### 5. ラフカディオ・ハーン顕彰講演会を開催

12月3日、中央館2階会議室において熊本大学学術資料調査研究推進室主催による「ラフカディオ・ハーン顕彰講演会～ハーン没後103年目の年に～」と題する講演会を開催した。

戦」

講師：小川博司（佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター教授）

#### (2) 展示会

「江戸時代の教育資料－小城鍋島文庫の女子教育資料を中心に－」と題して、11月14日(水)～21日(水)の間、小城鍋島文庫から「女大学宝箱」、「女小学草」、「女庭訓躰種」等の貴重資料を館内展示した。

### 2. 読書奨励企画

「図書館には新しい本が少ない」という学生の声に対処するとともに、大学構成員の目に見える活動として「学生選書ツアー」を1月、8月、10月に実施した。8月と10月のツアーは、公募により選考された17名の学生選書委員が立案した計画に基づくものである。ツアーで選定した候補の受入判断も学生選書委員会が行った。なお、受入された資料は、委員自身の手によるポップ等の装飾を施され、館内の特設コーナーに配架されている。これらは、貸出の上位にランクされるものも多く、図書館へ興味をひきつける目的は達成したと実感できる。

一方、図書館では、この委員会の活動を通じて収集した生の声を図書館に対する改善要望と捉え、実施可能なものから逐次利用者サービスへフィードバックしている。

1～2階を図書館が使用し、1階は多様な用途に使用できるピロティ、2階は附属図書館のメディアルームとライブラリーラウンジが配置され快適な学習空間となっている。

利用座席数の増加の効果は、7月の試験期における学生利用者数が前年の同時期比27.8%増

加に顕著に表れている。詳細については、本号の「図書館紹介」参照。

## 2. 「古写真」：収集から20年、インターネット公開10年でアクセス100万件超。

長崎大学附属図書館では、幕末から明治期にかけて長崎はじめ日本各地で撮影された写真（古写真）を1988年以降20年にわたって収集し、「幕末・明治期日本古写真コレクション」として全国的にも世界的にも注目されている。

1998年からはインターネットで公開をはじめ、2003年には超高精細画像も提供し、2006年からは検索されやすいようにメタデータを付与してきた。その結果、インターネット公開からおよそ10年目の2007年1月には、累積のアクセス件数が100万件を突破した。

インターネットで「古写真」あるいは“old photographs”を検索すると、最上位に表示され「屈指の収蔵数と使いやすさで、最も人気が高い」との評価を得ている。

（参考）[http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/old\\_pic/](http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/old_pic/)

## 3. ボードイン・コレクション約140年振りに長崎に里帰り

長崎大学は平成19年11月、医学部の前身である医学所の第2代教頭アントニウス・ボードインが在日中（1862～1870）に自ら撮影あるいは収集した当時の写真を、オランダ在住のボードインの子孫から入手した。

オランダ医師ボードインは、長崎において西洋医学を日本の若者に伝授し、大阪医学校（大阪大学医学部の前身）、大学東校（東京大学医学部の前身）でも講義をしているが、上野の森を公園にするよう進言したことでも知られている。その一方で、誕生間もない写真術にも興味をもち、長崎の街の様子や人物などを自ら撮影するとともに、日本の写真を収集し、特別な装幀を施したアルバムも作成していた。

古写真アルバム4冊と1幅のパノラマ写真からなる「ボードイン・コレクション」の存在は永らくオランダの関係者にのみ知られていたものであったが、1980年代後半に日本の新聞社によってはじめて紹介され、その後の日本における古写真ブームの火付け役となったコレクションである。

長崎大学の創基150周年にあたる今年、大学にゆかりのあるこのコレクションが、約140年ぶりに長崎に里帰りしたことになる。今後は恒久的に長崎大学附属図書館で保存される。平成20年10月には長崎市内で展覧会を実施し、その後インターネットで広く公開する予定である。

## 4. 古写真関連の展示会・カンファレンス・シンポジウムの開催及び出版事業

長崎大学附属図書館では、写真伝来160年・写真成功150年を記念して、平成19年11月、幕末・明治期の古写真に関する展示会・カンファレンス・シンポジウム・写真集出版の一連の事業を行った。

「写真術の渡来と初期写真家たち—上野彦馬・富重利平・内田九一—」と題し、我が国の写真術の普及に貢献し長崎にゆかりのある3人の初期写真家の写真61点を展示した新収古写真展を長崎市中心部の百貨店で開催した。恒例となっている展示会を待ちこがれていた多くの市民から好評を博し10日間で約3,100人の入場があった。

また、11月16日～17日は、国内外の古写真研究者45名によるカンファレンスを開催し、14名の報告をベースにして、古写真研究の過去を回顧し現在を確認して将来を展望する活発な議論が交わされた。

さらに、17日の午後には、研究者、学生、写真事業家、市民等約120名の参加により「古写真にみる世界史のなかの長崎」をテーマにしたシンポジウムを開催した。彦馬・九一・利平の子孫も参加して初期写真家の業績を顕彰した後、パネルディスカッションでは、古写真研究の今後の方向性が確認された。最後に、柴多一雄附属図書館長が、(1)コレクションの質量の充実、(2)国内外の研究者・研究機関等と連携協力の促進、(3)研究のさらなる質的深化、という長崎大学附属図書館における今後の古写真研究の指針を宣言した。

これら一連の事業の内容は、別途報告書として出版されることになっている。

## 5. ガラパゴス諸島画像データベースの公開

平成18年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）による「ガラパゴス諸島画像データベ



ース」(<http://gallery.lb.nagasaki-u.ac.jp/galapagos/>)を2007年4月から公開した。

このデータベースは、伊藤秀三長崎大学名誉教授が1964年以来38年間16回にわたる現地調査で撮影した約1,300枚の写真画像からなるもので、キーワード検索や高精細画像の表示の他、3Dイメージによる地形の鳥瞰動画や、同一地点を長期間にわたって撮影した定点観測画像など

## 【福岡教育大学附属図書館】

### 大学オープンキャンパス協賛 教科書小展示 「いろいろな社会科教科書「日本と海外」

7月28日(土)開催の大学オープンキャンパス行事に合わせ、当館が所蔵する数多くの教科書のうち社会科教科書に限定して2階ホールに展示した。海外のものはアジアを中心とし、日本のものは昭和27年から平成4年くらいまでのものを選択し、オープンキャンパス終了後も約1ヶ月間、展示を続け教員養成系大学の特色ある資料の紹介を行った。

### Jr.サイエンス協賛「作って楽しむ絵本の世界」

10月20日(土)大学主催イベントの“Jr.サイエンス&ものづくりin教育大”において、昨年開設した子ども図書室前ホールにおいて「作って楽しむ絵本の世界—絵本を作って、触る、動かす、中へ入る—」を実施した。

子ども達は、大きな段ボールで作られた迷路に潜り込み絵を描いたり、段ボール製の恐竜や猫、車等に彩色して、自分たちの絵本を作って楽しんだ。

集まったのは地域の子ども達延べ約60人で、美術教育の学生ボランティア約15人の奮闘によ

の多くの特徴をもっている。

ダーウィンが進化論の着想を得たことで知られるガラパゴス諸島は、最近では、世界的な異常気象の生物センサーとして注目されているが、このデータベースには、すでに失われた景観も多数含まれており、植物生態学のみならず、地球環境問題を考えるうえでも、大変有益な資料として活用されることが期待されている。

り、楽しいイベントになった。

### 事務室の移転統合

総括・受入事務エリアとサービス事務エリアが離れていたため、受付カウンターそばに事務室の移転統合を行った。

これにより、サービス業務のバックアップ体制が全員でとれるようになって、利用者サービスのさらなる充実が図られるとともに、各係間の連絡調整を電話で行っていたような手間が解消された。

旧事務室は戦前・戦後教科書室、マイクロリーダー室及び書庫へと変わり、従来より機能アップして利用者へのサービスに当たれることとなった。

### 入・退館システムの導入

かねて懸案であった入館システムの新規導入、退館システムの更新が実現した。利用者は入館に当たって学生証等の利用カードを使用し、磁気、バーコードの両方式に対応している。ICカードの場合は、読み取り装置を追加することで対応可能である。

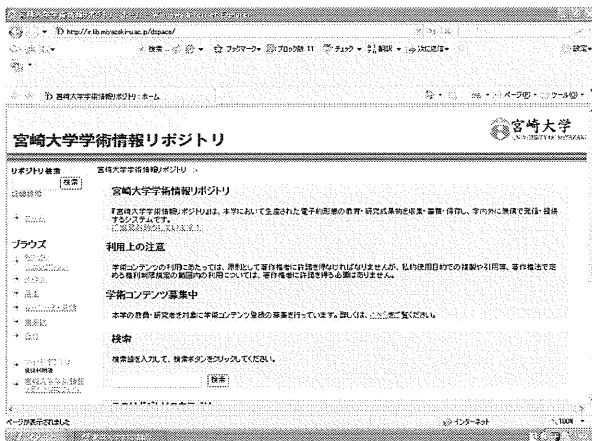


「作って楽しむ絵本の世界」

## 【宮崎大学附属図書館】

### 1. 宮崎大学学術情報リポジトリの一般公開を開始

平成18年度から構築してきた「学術情報リポジトリ」を、平成19年8月23日から一般公開を開始した。教員・研究者からの学術コンテンツの登録を順次進めている。



### 2. 大学開放事業の実施

11月17日(土)・18日(日)に開催された大学開放事業(当日は学生による大学祭も実施された)において、本館及び医学分館で、「宮崎大学の研究成果」、「医学関連情報」、「貴重図書」等の展示を行った。

展示物の中には、「昭和20年代の小中高の教科書」や「ロボット」があり、一般市民等の来館者は手に取って興味深げに読まれていた。





### 【琉球大学附属図書館】

#### EU資料展

琉球大学附属図書館では、5月14日から5月25日までの間、情報ラウンジにおいて駐日欧州委員会代表部が主催する「日・EUフレンドシップウィーク」の一環として「発展するEUとリトアニア資料展」を開催しました。この「資料展」は欧州連合（EU）に関する理解を深めることを目的として企画しています。今回は、新たな企画としてEU加盟国の1国であるリトアニア共和国の紹介と併せて開催しました。次年度以降もEU加盟国について順次紹介する予定です。

#### 企画展「琉大で学んだ文学者たち」を開催

琉球大学の卒業生には2名の芥川賞作家を始めとして文学各界で活躍している人が数多くいます。附属図書館では「①本学の学生に、文学各界で活躍している本学卒業生の存在を知って貰うため、著作物（作品）を展示する。②展示を通して本学学生の文化（文学）活動意欲の啓発を図る。③現在募集中の「びぶりお文学賞」の応募意欲を高める」ことを趣旨として、これらの方々の紹介を目的に著作パノラマ展（9月10日～10月31日）を行いました。ホームページにも開催案内を載せたため、これを見て、遠いところから見学に来る卒業生もいました。

#### 琉球大学附属図書館貴重書展「琉球・沖縄の歴史と文化への誘い」-2,300名の見学者でにぎわう-

琉球大学附属図書館は、毎年、公共図書館と連携して、資料の公開や地域貢献・地域連携の

### 3. 県内の大学図書館と公共図書館との図書館資料の現物貸借の実施

「宮崎県大学図書館協議会と宮崎県公共図書館連絡協議会における図書館資料の現物貸借要領」にもとづき平成19年4月1日から実施している。フォーラム等を両協議会の共催で実施する等連携を強化している。

一環として行っている貴重書展を今年は沖縄本島中部にある宜野湾市民図書館で10月17日から22日の間、開催しました。

展示会テーマは「琉球・沖縄の歴史と文化への誘い」で、所蔵している琉球・沖縄関係の貴重書の中からテーマに沿って選んだ26点と大正期の沖縄を撮影したガラス版写真のパネル、収集した明治期沖縄の写真アルバムなどを展示しました。

会場には、開催初日から多くの見学者が詰めかけるなど、日頃見ることの出来ない貴重書に対する市民の関心の高さが窺われ、期間中、約2,300名の方が見学しました。その模様は地元のテレビや新聞でも紹介されました。

見学者からは「古い沖縄文化の深さを知った」「昔の写真に出会ってなつかしい」「ほかの地域でもやって欲しい」といった感想・要望を書いたアンケートが多く寄せられ、なかには県外から沖縄観光に来て開催を知り、足を延ばして見学に訪れる人もいました。

#### 「琉球大学びぶりお文学賞」を創設、実施

附属図書館は「本学が基本目標として掲げる「地域及び広く社会に貢献する人材」「意欲と自己実現力を有する人材」育成の一環として、言語力（読む力、書く力）を向上させ、想像力、表現力、創造力豊かな学生を育成するとともに、文学の啓蒙活動を高め、地域社会における文学・文化活動のリーダーを輩出する」ことを目的に、琉球大学びぶりお文学賞を創設し実施しました。ジャンルは小説で、10月31日で応募を締

めきりましたが、31編の応募があり、この数は地方の新聞社が主催する文学賞の応募数に匹敵する数と言われるほどの多さです。

応募作品について、学内の教員でつくる選考委員会で慎重に選考した結果、受賞作1編と佳作3編を決定し、学内外に発表しました。

### 琉球大学学術リポジトリ公開記念講演会

琉球大学では、学術リポジトリを試験運用していましたが、11月16日の正式運用を記念して、同日附属図書館多目的ホールを会場に、学術リポジトリ公開記念講演会を開催しました。講演会では、赤嶺守琉球大学教授（「琉大画像データベース」）、今泉裕美子法政大教授（「矢内原文庫データベース」）、金永元延世大学中央図書館部長・許永錫同主任（「古文献資料の電子化」）、および、高橋輝琉球大情報サービス課長（「貴重資料と機関リポジトリ」）の各講師による講演がなされ、盛況のうちに閉会しました。講演会には多数の参加者があり、地元の新聞でも報道されました。

### ベッテルハイム史料修復記念講演会及び史料展示会

琉球大学附属図書館では、さる8月13日にベッテルハイム日記・公文書簡集の修復完成に伴い、記者会見を行いました。19世紀のキリスト教禁止令下で、宣教医として琉球で布教・医療活動を行った英国宣教医「ベッテルハイム」について関心を持っていただくと共に、先に公開しました琉球大学附属図書館所蔵のベッテルハイム史料についてさらに活用していただくために11月29日に「宣教医ベッテルハイム日記から見るその人物像と19世紀の琉球」と題してベッテルハイム史料修復記念講演会を開催しました。

講演会には、地域からの多数の参加者があり照屋善彦琉球大学名誉教授、A・P・ジェンキ

ンズ沖縄県立芸術大学教授によるベッテルハイムの琉球伝道、当時の時代背景、ベッテルハイム史料についての講演に熱心に耳を傾けていました。当日はベッテルハイム日記・公文書簡史料の他、関連資料についての展示会も開催し、地元のテレビでも報道されました。

### 「仲宗根政善先生生誕百年記念言語資料展示会」

琉球大学法文学部日本文化専攻、東洋文化専攻、沖縄言語研究センター、ひめゆり平和祈念資料館、オモロ研究会が主催して仲宗根政善琉球大学名誉教授（1907－1995）の生誕百年を記念して行われる「仲宗根政善先生生誕百年記念シンポジウム」が12月8日に附属図書館において開催されました。仲宗根政善先生は1995年87歳でおなくなりになりました。先生は沖縄県出身者としては初の学士院賞を受賞しています。先生は教育者として多くの教え子をそだてるとともに、琉球方言の研究者としても多くの仕事をなさっています。附属図書館では、12月6日～12月13日の間、「仲宗根政善先生生誕百年記念言語資料展示会」を開催し、「仲宗根政善言語資料」として図書館に収蔵されている先生が生涯をかけて収集された琉球列島全域の方言に関する資料、調査ノート、論文草稿、沖縄戦でのひめゆり学徒隊に関する関係追悼文、日記類などの展示を行いました。

### 第1回国際交流資料展

附属図書館では、国際交流資料展を企画し琉球大学の国際交流協定校及び協定校の所在する国に関する資料及び交流状況を紹介しました。国際交流資料展第1回は、12月10日～12月17日の期間中、タイ王国ならびに同国のチュラロンコン大学、タマサート大学、コンケン大学及びチェンマイ大学を紹介しました。

# 図書館活動報告

## 福岡県・佐賀県大学図書館協議会

### 〔総会〕

日 時：平成19年5月29日(火)  
13：30～16：30

場 所：九州工業大学附属図書館AVホール

当番館：九州工業大学附属図書館

出席者：37館48名

#### 協議事項

- (1) 協議会退会について
- (2) 協議会入会について
- (3) 平成18年度決算報告および監査報告について
- (4) 平成19年度事業計画および予算案について
- (5) 次期理事館および監事館について  
理事館 福岡教育大学附属図書館  
監事館 福岡女学院大学図書館
- (6) 福岡県図書館協会理事の選出について

#### 地区研究会報告

- (1) 北部地区 九州国際大学図書館
- (2) 福岡地区 福岡大学図書館
- (3) 南部地区 久留米工業大学図書館

#### 講演

演 題：「松本清張と岩下俊作」

講 師：北九州市立文学館館長 佐木隆三氏

#### 報告事項

福岡県図書館協会相互貸借規程の施行

### 【北部地区研究会】

#### 第1回研究会

日 時：平成19年7月4日(水)  
13：00～17：00

場 所：福岡県立大学管理棟会議室2階

出席者：13館24名

#### 議 事

1. 平成18年度会計決算報告及び監査報告
2. 平成19年度予算(案)審議
3. 確認事項
4. 北部地区研究会の繰越金について
5. 協議事項  
「北部地区加盟館における目録講習会

計画」について

#### 6. 承合事項について

- 1) 図書の貸出方法について
- 2) 除籍基準について
- 3) 図書館閲覧用和雑誌の選定(収集)方法について

#### 7. 事例発表

「図書延滞者対策について」

発表：福岡県立大学附属図書館  
古本 希

#### 8. 講演

演題：「アラブ世界で資料(書籍)を探す(社会科学編)」

講師：福岡県立大学人間社会学部教授  
田中哲也

#### 第2回研究会

日 時：平成19年10月19日(金)  
13：00～17：00

場 所：産業医科大学2号館4階多目的ホール

出席者：14館26名

#### 議 事

1. 表彰者について
2. 協議事項  
目録講習会計画アンケート実施について

#### 3. 講演

演題：「大学の精神・支柱としての古典—翻訳を通じて時代の香りを知る—」

講師：産業医科大学産業生態科学研究所所長 東 敏昭

#### 第3回研究会

日 時：平成19年12月11日(火)  
9：30～17：00

場 所：西日本工業大学小倉キャンパス大会議室、501PC教室他

出席者：研究会13館25名、目録講習会12館28名

## 議 事

1. 平成19年度表彰について
2. 協議事項
  - 1) 研究会実施に伴う「目録小委員会」の設置について（確認）  
については、目録小委員会及び目録講習会の名称について（案）  
（九州国際大学図書館）
  - 2) 北部地区平成20年度当番館の確認について
  - 3) 北部地区平成21年度当番館の選出について
3. その他
4. 研究会の開催回数について（九州工業大学）
5. 講 演  
演題：「近世城下町の設計技法について」  
講師：西日本工業大学図書館長  
高見敏志
6. 北部地区研究会目録講習会

### 【福岡地区研究会】

日 時：平成19年11月21日（水）

13：30～16：00

場 所：筑紫女学園大学  
（5号館4階総合会議室）

出席者：13館26名

## 内 容

- 1 講 演  
「大学図書館の課題と実情」  
福岡女子大学副理事長 齋藤 明氏
- 2 研究発表  
「貝原益軒に学ぶ生き方の智慧」  
中村学園大学図書館図書課長  
猿渡健一氏
- 3 承合事項  
「学生用図書（開架図書）の構築について」
  1. 選書体制
  2. 授業との連携
  3. 開架図書の維持管理（書庫への移動等）
  4. 利用者ニーズの把握と蔵書構成への反映
  5. 図書購入予算の確保  
提出館 九州大学附属図書館
- 4 その他  
平成20年度福岡地区研究会当番校の確認  
九州産業大学（幹事校）  
西南学院大学  
東海大学福岡短期大学

## 長崎県大学図書館協議会

### 1. 平成19年度総会

期 日：平成19年6月21日（木）

15：00～17：20

場 所：長崎純心大学コミュニケーションセンター

出席者：11館18名（オブザーバー：長崎県公共図書館等協議会より3名）

## 議 題

- (1) 平成18年度事業報告
- (2) 平成18年度決算報告・監査報告
- (3) 平成19年度事業計画（案）について
- (4) 平成20年度九州地区大学図書館協議会総会等の開催（案）について
- (5) 平成19年度予算（案）について
- (6) 総会当番館の順番について

(7) 研修企画委員の改選について

## 報告事項

- (1) 日本図書館協会評議会について
- (2) 各館の当面する諸問題について
- (3) その他

### 2. 研修事業（平成19年1月～12月）

#### (1) 実務研修会

テーマ：「機関リポジトリ」の概要：学術ポータル担当者研修会の報告

日 時：平成19年3月2日（金）

14：00～17：00

会 場：長崎大学附属図書館1階会議室

講 師：飯島芳典氏（長崎国際大学図書館）  
森 茂樹氏（活水女子大学図書館）

平林 昇氏 (長崎大学附属図書館)  
参加者：16名  
(2) 実務研修会  
テーマ：電子ジャーナル等の契約・管理・  
利用  
日 時：平成19年10月5日(金)  
14：00～17：00  
会 場：長崎大学附属図書館1階会議室  
講 師：磯崎 仁氏 (EBSCO)  
大川健太郎氏 (Cengage Learning)  
飯島芳典氏 (長崎国際大学図書館)  
参加者：16名

(3) 公共図書館等協議会との合同実務研修会  
日 時：平成19年12月3日(月)  
13：20～16：30  
場 所：長崎国際大学教室棟3号館2階  
3202教室  
テーマ：情報検索入門／長崎クロスネット  
等の活用  
講 師：山口良子氏 (長崎大学附属図書館)  
橋 俊博氏 (長崎県立長崎図書館)  
江下佳治氏 (長崎県立長崎図書館)  
参加者：81名 (大学17名、公共等64名)

### 宮崎県大学図書館協議会

1. 平成19年度宮崎県大学図書館協議会総会  
日 時：平成19年8月7日(火)  
14：00～16：00  
会 場：宮崎公立大学凌雲会館会議室  
出席者：加盟7大学、1高専及び宮崎県立図  
書館 (オブザーバー館) 計22名  
議 事  
(1) 平成18年度決算報告及び監査報告  
(2) 平成19年度事業計画及び収支予算  
(3) 協議事項  
会則4条の事業実施のための検討組織  
等の設置について  
(4) 承合事項  
① 「宮崎県大学図書館協議会と宮崎県公  
共図書館連絡協議会における図書館資料  
の現物貸借要領」にもとづく実績につい  
て  
② 書架の耐震対策について  
③ ILLの実施状況について

2. 宮崎県大学図書館協議会WG会議  
日 時：平成19年10月4日(木)  
15：00～17：00  
会 場：宮崎公立大学凌雲会館会議室  
出席者：加盟7大学、1高専 計9名

議 事：  
(1) WGの在り方について  
(2) 平成19年度の研修計画について

3. 平成19年度宮崎県大学図書館職員研修会  
日 時：平成19年12月18日(火)  
10：00～15：00  
会 場：宮崎大学附属図書館視聴覚室  
テーマ：図書館における情報リテラシー教育  
支援の在り方  
参加者：24名  
講 師  
(1) 新地辰朗氏 (宮崎大学教育文化学部附  
属教育実践総合センター教授)  
講義「教育・学習における情報リテラ  
シー」  
(2) 山田周治氏 (九州大学附属図書館利用  
支援課課長)  
事例紹介1「九州大学附属図書館にお  
けるリテラシー教育への取り組み」  
(3) 森 勝彦 (宮崎大学附属図書館本館利  
用係サービス担当係長)  
事例紹介2「宮崎大学附属図書館での  
事例」

### 鹿児島県大学図書館協議会

1. 第28回鹿児島県大学図書館協議会総会  
日 時：平成19年5月30日(水)

15：00～17：00  
会 場：鹿児島国際大学附属図書館4階会議

室  
出席者：加盟大学10大学、1高専及び鹿児島  
県立図書館（オブザーバー館）計  
26名

#### 議 事

- (1) 平成18年度会務報告
- (2) 平成18年度決算報告及び監査報告
- (3) 平成19年度事業計画
- (4) 平成19年度予算審議
- (5) 協 議  
「鹿児島県図書館大会への参加について（提案）」について

### 2. 平成19年度鹿児島県大学図書館協議会研修会

日 時：平成19年12月12日（水）  
10：00～12：00

会 場：鹿児島国際大学附属図書館3階グループ学習室(1)

テーマ：レファレンスサービスについて（事例報告・討議）

参加者：15名

### 3. 平成19年度鹿児島県大学図書館協議会講演会

日 時：平成19年12月12日（水）  
14：00～16：00

会 場：鹿児島国際大学附属図書館視聴覚ホール

テーマ：「天璋院篤姫について～なぜ篤姫は將軍家へ嫁したのか」

講 師：寺尾美保氏（尚古集成館学芸員、鹿児島純心女子短期大学非常勤講師）

参加者：35名

## 沖縄県大学図書館協議会

### 1. 平成19年度（第35回）総会

日 時：平成19年8月22日（金）  
14：30～15：20

会 場：沖縄大学3号館101教室

出席者：7館30名

#### 議 題

- 平成18年度決算報告
- 平成18年度監査報告
- 平成19年度事業計画（案）について
- 平成19年度予算（案）について
- 平成20年度の当番館及び平成19年度監査館の選出

### 2. 講演会

#### (1) 平成18年度第2回講演会

日 時：平成19年1月26日（金）  
15：00～16：50

会 場：琉球大学研究者交流施設・50周年記念館1階多目的室

演 題：「図書館を活用して学びの質を高める～リテラシー教育の実際～」

講 師：高鷲忠美氏（八洲学園大学教授・附属図書館長）

出席者：64名

共 催：沖縄県図書館協会、琉球大学附属

図書館

#### (2) 共催講演会

日 時：平成19年2月23日（金）  
15：00～17：15

会 場：琉球大学附属図書館1階多目的ホール

演 題：「近未来図書館サービスとしての機関リポジトリの可能性」

講 師：金泰樹氏（大韓民国 延世大学校附属中央図書館長）

出席者：60名

主 催：琉球大学学術リポジトリ事務局

#### (3) 平成19年度第1回講演会

日 時：平成19年8月22日（金）  
15：35～16：45

会 場：沖縄大学3号館101教室

演 題：「インターネットの変遷—Webを中心にWeb2.0の時代へ—」

講 師：八幡幸司氏（沖縄大学図書館長）

出席者：34名

#### (4) 共催講演会

日 時：平成19年11月29日（木）  
13：30～16：00

会 場：琉球大学附属図書館1階多目的ホール



テーマ：「宣教医ベッテルハイム日記から見るその人物像と19世紀の琉球」

演題：「B. J. ベッテルハイムと琉球伝導」

講師：照屋善彦氏（琉球大学名誉教授）

演題：「ベッテルハイム日記の編集について」

講師：A. P. ジェンキンス（沖縄県立芸術大学教授）

出席者：45名

主催：琉球大学附属図書館

### 3. 情報交換会

日時：平成18年11月29日(水)

15:00～17:00

会場：琉球大学附属図書館

テーマ：「ILL担当者情報交換会」

出席者：15名

## 第2回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー

月 日：平成19年9月6日(木)～7日(金)

会場：九州大学附属図書館会議室及び視聴覚ホール（新館4階）

参加者：24大学35名

基調講演

#### 1. 「大学図書館の目指すべき方向」

有川節夫（九州大学附属図書館長）

講義

#### 1. 「閲覧サービスの基本」

江藤弘史（九州大学附属図書館芸術工学分館）

#### 2. 「電子リソースAtoZー管理からサービスまでー」

轟 朋子（九州大学附属図書館コンテンツ整備課）

#### 3. 「スタディ・スキルズとしての情報リテラシー教育」

上原恵美（琉球大学附属図書館情報サービス課）

#### 4. 「大学図書館間協力の現状ー目録所在情報サービスを中心にー」

濱崎千雅（熊本大学図書課）

#### 5. 「図書館サービスと著作権」

黒澤節男（九州大学附属図書館研究開発室特別研究員）

グループ討議テーマ

#### 1. いかにして図書館員としてのスキルアップを図るか

#### 2. いかにして学生を図書館に引き寄せるか

#### 3. 利用者対応、こんなときどうする？

## 平成19年度第37回九州地区国立大学図書館協会総会

日 時：平成19年4月19日(木)

13:30～17:00

会場：福岡ガーデンパレス3階「宝満」

出席者：11館32名

協議事項

#### 1) 図書系職員の育成（交流人事・研修等）について

#### 2) 第54回国立大学図書館協会総会の支援について

#### 3) 国立大学図書館職員の採用について

#### 4) 九州地区国立大学図書館協会の代表館選出について

#### 5) 国立大学図書館協会等の運営について

① 第54回総会のワークショップで取り扱うテーマについて

#### ② 第19年度九州地区選出理事候補館の選出について

#### ③ その他

#### 6) 九州地区大学図書館協会等の運営について

#### ① 平成19年度九州地区大学図書館協議会の役員館の選出について

#### ② その他

#### 7) その他

承合事項

#### 1) 2007年版電子ジャーナル及び維持にかかる冊子体の経費負担方法及び負担率

#### 2) 2008年以降の電子ジャーナルの取扱いについて

## 平成19年度九州地区国立大学附属図書館館長懇談会

日 時：平成19年11月29日(木)	懇 談 会
13：15～14：45	・テ ー マ
会 場：九州大学会議室（新館4階）	1. 今後の図書館経営の諸問題について
出席者：10大学11名	今後の学術情報流通の在り方について
	て
	法人化後の図書館経営について
	2. その他

## 平成19年度九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

日 時：平成19年11月29日(木)	3. その他
13：15～14：45	・協 議 題
会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール	1. 国立大学図書館協会総会、理事会等の
（新館4階）	見直しについて
出席者：11大学19名	2. 平成20年度九州地区国立大学法人等職
議 事	員採用合同図書系二次専門試験について
・報 告	3. 今後の電子ジャーナル等の整備につい
1. 国立大学図書館協会理事会報告	て
2. 九州地区国立大学附属図書館協会実務	4. その他
者連絡会議報告	

## 平成19年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務（部・課長）会議

日 時：平成19年11月29日(木)	・協 議 題
15：00～17：00	1. 国立大学図書館協会総会、理事会等の
会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール	見直しについて
（新館4階）	2. 九州地区機関リポジトリ・ワークショ
出席者：11大学30名	ップについて
議 事	3. 電子ジャーナルの価格高騰に対する対
・報 告	応策について
1. 館長懇談会報告	4. 九州地区Scopus（スコーパス）コンソ
2. 事務（部・課）長会議報告	ーシアムの設立について
3. 国立大学図書館協会理事会報告	5. 九州地区WoSコンソーシアムの提案に
4. その他	ついて
	6. その他

## 平成19年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議

月 日：平成19年10月18日(木)、19日(金)	議 事
場 所：九州大学附属図書館会議室（新館4	・協 議 事 項
階）、九州大学理系図書館	テーマ「利用者サービスにおける危機管
出席者：11大学12名	理」
	(1) 犯罪行為等への対応について

- A) 図書館内での利用者の所持品等の盗難の対応について
- B) 防犯対策について
- (2) サービス窓口でのトラブルへの対応について
- (3) 防災対策について

- ・承合事項
  - (1) 危機管理マニュアルの作成について
  - (2) 休日・夜間の危機管理及び防災訓練の利用者参加について
  - (3) 危機管理に関するアンケート
- ・施設見学

## 私立大学図書館協会 西地区部会 2007（平成19）年度 第1回九州地区協議会

開催日時：2007（平成19）年4月19日（木）  
15：00～16：40  
会 場：福岡ガーデンパレス1階「ガーデンホールA・C」  
出席者：45館75名（オブザーバー1館1名を含む）  
新規加盟館他紹介  
新規加盟館 福岡歯科大学情報図書館  
新規加盟予定館 聖マリア学院大学図書館  
校名変更 (旧)第一経済大学→(新)福岡経済大学

### I. 報告事項

- (1) 九州地区協議会関係
- (2) 九州地区大学図書館協議会関係
- (3) 西地区部会関係
- (4) 私立大学図書館協会関係

### II. 協議事項

- (1) 九州地区協議会関係
  - ① 西地区部会研究会の本部からの研究発表者発掘について
    - ・2007年度研究発表者として、福岡大学の工藤氏を推薦している。
    - ・2007年度以降の研究発表者の発掘について2つの提案がなされている。
  - ② 九州地区協議会研究会について

- ・2007年8月24日（金）に熊本学園大学で実施要領（案）に基づき、開催予定である。

- (2) 九州地区大学図書館協議会関係
  - ① 平成19年度九州地区大学図書館協議会の役員校について
    - ・表彰委員館 久留米工業大学
    - ・編集委員館 九州女子大学

### III. 承合事項

提案校である長崎ウエスレヤン大学から、緊急時の図書館内誘導及び避難訓練について提案理由の説明がなされた。各校からの回答については承合事項回答綴を参照することとした。

### IV. 確認事項

- (1) 九州地区協議会HP及びMLの運用について
- (2) 外国新聞分担保存について
- (3) 九州地区協議会役員校等ローテーション表（2007年度版）及び同表解説
- (4) 九州地区協議会年度別幹事校
- (5) 本部関係行事・会議等スケジュール

### V. その他

- (1) 2007（平成19）年度の当番校・幹事校・役員校等の紹介

## 私立大学図書館協議会 九州地区研究会

開催日時：2007（平成19）年8月24日（金）  
10：30～19：00  
会 場：熊本学園大学 14号館（2階）  
メインテーマ：利用者を知る、利用者に伝える  
～図書館サービスの深化をめざ

して  
10：30 開 会  
10：45 講 演  
演 題：情報リテラシー教材が図書館を変えるー『情報の達

	人』が切り拓いたものー	発表者	九州共立大学附属図書館
	講師：早稲田大学図書館 仁上幸		矢崎美香氏
	治氏	テーマ2	『利用者促進事業ー図書館の取り組み』
12：15	昼食・休憩・図書館見学	発表者	九州共立大学附属図書館
13：30	事例発表		矢崎美香氏、上井由美子氏、
	テーマ 『図書館活用推進の現状と		土田久子氏
	夢』ーICタグを利用した図書館マーケティングへの期待ー	15：45	事例発表
	発表者 九州情報大学教授		テーマ 『レファレンスカウンター
	南 俊朗氏		における相互作用』ー利用者動向についての一考察ー
	九州情報大学附属図書館	発表者	熊本学園大学附属図書館
	藤理恵子氏		津村秀夫氏
14：30	テーマ1 『レファレンスインタビューーインタビュースキルと環境』	16：30	閉 会
		17：30	懇 親 会

### 2007年度私立大学図書館協会西地区部会研究会

開催日時：2007年9月28日(金)	
10：00～16：45	
会 場：福岡工業大学 C棟 地下ホール	
メインテーマ：大学図書館の魅力の創出	
10：00 開 会	
第1部 講 演	
10：20 基調講演	
「江戸期における福岡藩の学問状況」ー町人のための櫛田文庫ー	
講師：福岡市博物館 顧問 田坂大藏氏	
11：30 昼食・施設自由見学	
第2部 研究発表	
13：00 研究発表(1) 図書館業務における「ドキュメンテーション」の役割	
ー「江戸時代九州文献コレクション」を事例にー	
	福岡大学図書館 工藤邦彦氏
	13：50 研究発表(2) 共同リポジトリ構築実験報告
	広島工業大学附属図書館 森保信吾氏
	14：40 休 憩
	15：00 研究発表(3) 総合目録における和漢古書書誌記述の考察ー主として注記記述のあり方についてー
	天理大学附属天理図書館 岡嶌偉久子氏
	15：50 研究発表(4) 学生参加型企画の試みー「学生満足度の向上と図書館活動のPR」ー
	流通科学大学図書館 槻本正行氏
	16：40 閉 会

### 平成19年度九州地区私立短期大学図書館協議会夏期研修会概要

1. 日 時：平成19年8月3日(金)	4. 会 次 第
13：30～16：30	(1) 開 会
2. 会 場：(財)福岡県地域福祉財団	会長挨拶 精華女子短期大学附属図書館
クローバープラザ	長 高橋哲郎
3. 参 加 者：13館16名	(2) 研 修
	① 講 演
	演題 『短期大学女子のメンタルへ

ルスと読書』

講師 心理学博士 廣 梅芳 (Kuang Meifun) 氏

[講師略歴] 九州大学人間環境学  
研究院 学術協力研究員・臨  
床心理士・精華女子短期大学  
カウンセラー

女性とくに青年期女性（15歳～20歳代）の精神衛生に影響を及ぼす様々な要因とメンタルヘルスの特徴、男性との性差について等が語られた。また、現在の若い女性の読書傾向についての調査と考察、さらに図書館職員が学生からカウンセラーとしての役割も求められることもあるということから、その対応の仕方についての講演があった。

② フリーディスカッション〈図書館業務に関する課題と取り組み〉

a. 利用促進について b. 広報活動について c. 第三者評価対策について d. その他について 精華女子短期大学より問題提起し、まず他地区の特徴的な実践例を紹介した後、各館の取り組みについて発表がおこなわれた。

(3) その他

連絡・報告事項

- ① 『短期大学図書館研究』第27号投稿状況の報告
- ② 平成20年度紀要担当館（『短期大学図書館研究』第28号）について
- ③ アンケートのお願い



## 第58回九州地区大学図書館協議会総会記録

### 日 程 表

1. 期 日 平成19年4月20日(金)
2. 会 場 福岡ガーデンパレス 1階「ガーデンホールA・B・C」  
〒810-0001 福岡市中央区天神4丁目8番15号  
TEL 092-713-1112 FAX 092-714-0510  
URL <http://www.hotelgp-fukuoka.com/>
3. 日 程
- 9 : 30 受付開始
  - 10 : 00 1. 開 会
  - 2. 当番館長挨拶
  - 3. 幹事館長挨拶
  - 4. 会議日程・配布資料の説明
  - 5. 議長、副議長の選出
  - 6. 議長、副議長の挨拶
  - 7. 新任館長等紹介
  - 8. 表 彰 式
  - 9. 幹事館報告
  - 10. 平成18年度決算及び監査報告
  - 11. 平成19年度予算(案)
  - 11 : 00 12. 国立、公立、私立、私立短大の部会報告
  - 12 : 00 昼 食
  - 13 : 00 13. 講 演  
講師：装幀家 毛利一枝  
演題：装幀について
  - 14 : 30 14. 協議事項
  - 15. 次期役員館の選出
  - 16. 次期当番館の挨拶
  - 17. 議長、副議長の解任
  - 16 : 00 18. 閉 会

## 出席者名簿 (○は新任者)

### 【国立大学】

<p>九州工業大学附属図書館            附属図書館長           前 田       博            事務長心得           ○狩 集 克 己</p>	<p>宮崎大学附属図書館            附属図書館長           永 田 雅 輝            学術研究協力部情報図書課長   ○桑 原 勇 夫</p>
<p>福岡教育大学附属図書館            附属図書館長           高 田       清            図書館課長           栗 山       平</p>	<p>鹿児島大学附属図書館            学術情報部長           寺 垣 敏 司            情報管理課長         ○吉 田 英 明</p>
<p>佐賀大学附属図書館            附属図書館長           高 崎 洋 三            学術研究協力部長     木 塚 建 一            課 長                 ○瓜 生 照 久</p>	<p>鹿屋体育大学附属図書館            附属図書館長         ○志 村 正 子            学術図書情報課長     能 勢 明 雄</p>
<p>長崎大学附属図書館            附属図書館長         ○柴 多 一 雄            学術情報部長         浏 上 光 明            学術情報サービス課長 ○郷 原 正 好</p>	<p>琉球大学附属図書館            附属図書館長         親 川 兼 勇            事務部長             ○金 城 孝 夫            情報サービス課長     高 橋       輝</p>
<p>熊本大学附属図書館            附属図書館長         ○田 口 宏 昭            学術情報総主幹       松 藤 典 生            図書課長             ○島 田 正 俊</p>	<p>九州大学附属図書館            附属図書館長         有 川 節 夫            事務部長             濱 崎 修 一            図書館企画課長       ○益 森 治 巳            利用支援課長         ○山 田 周 治            コンテンツ整備課長   鈴木 秀 樹            図書館企画課課長補佐 ○角       彰</p>
<p>大分大学附属図書館            附属図書館長         伊 藤 哲 朗            研究・社会連携部長   ○松 田 充 功            学術情報課長         飯 田 昇 平</p>	<p><b>出席館 11館 31名</b>  <b>欠席館 なし</b></p>

### 【公立大学】

<p>北九州市立大学 学術情報総合センター            学術情報課長         ○江 上 照 明            学術情報係長         里 見 公 博</p>	<p>福岡県立大学附属図書館            附属図書館長         中 野 榮 子            学務部長             松 尾 義 信</p>
<p>九州歯科大学附属図書館            附属図書館長         高 田       豊            嘱託職員             大 峯 紀美恵</p>	<p>県立長崎シーボルト大学附属図書館            図書館長             河 野 健 一            図書グループリーダー   磯 崎 由美子</p>
<p>福岡女子大学附属図書館            附属図書館長         ○草 壁 克 己</p>	<p>長崎県立大学図書情報センター            センター長           山 田 千香子            グループリーダー     池 上 明 美</p>



熊本県立大学学術情報メディアセンター  
事務長 田中 彰

宮崎県立看護大学附属図書館  
附属図書館長 赤星 誠  
主任主事 大木 みち子

大分県立芸術文化短期大学附属図書館  
附属図書館長 凍田 和美  
図書管理グループ副主幹 後藤 秀一

鹿児島県立短期大学附属図書館  
附属図書館長 朝日 吉太郎

大分県立看護科学大学附属図書館  
附属図書館長 市瀬 孝道  
図書館管理グループリーダー 小野 永子

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館  
副参事 玉那覇 有仁

出席館 13館 22名  
欠席館 1館

宮崎公立大学附属図書館  
附属図書館長 ○田 縁 正 治  
事務長 黒木 雄三

### 【私立大学】

西日本工業大学図書館  
図書評価室長 宗 広 明 則

九州産業大学図書館  
図書館長 高橋 公忠  
事務部長 山本 正三

西南女学院大学図書館  
図書館長 大里 文人  
図書課長 友枝 伸一  
書記 浜田 美紀

福岡大学図書館  
図書館長 長谷川 正国  
事務部長 石田 積人  
課長 高木 秀人  
課長補佐 世戸 英雄

九州国際大学図書館  
事務室長 甲斐 富美子

九州共立大学附属図書館  
図書館長 宮 菌 和 禧  
業務課長 古賀 進

中村学園大学図書館  
図書館長 吉岡 慶子  
図書課長 猿渡 健一

九州女子大学・短期大学附属図書館  
図書館長 高橋 昇  
業務課長 松尾 伸二

西南学院大学図書館  
図書館事務次長 ○伊藤 邦厚  
課長補佐 古庄 敬文

福岡工業大学附属図書館  
図書館長 ○村山 理一  
事務長 武 哲也  
係長 坂本 祥嗣

第一薬科大学図書館  
図書館長 原 千高  
事務職員 出口 朋恵

福岡女学院大学図書館  
図書館課長補佐 鶴 典子

九州情報大学図書館  
図書館長 ○宮木 英幸  
司書 藤 理恵子

筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館  
図書館長 川邊 武芳  
課長 関 彰

福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館  
課 長 下 條 瑞 恵

久留米工業大学図書館  
図書館長 ○渡 邊 孝 司  
図書館事務室長 萩 尾 文 子

聖マリア学院大学図書館  
図書館長 熊 井 昭 彦  
司 書 山 口 真由美

久留米大学附属図書館  
図書館長 ○遠 山 潤  
図書館課長 熊 谷 まゆみ

西九州大学附属図書館  
課 長 ○飯 盛 貞 明

活水女子大学図書館  
図書館長 ○田 中 俊 廣  
図書館課長 森 茂 樹  
図書館課主任 安 藝 真由美

長崎総合科学大学附属図書館  
図書館課長 伴 卓 士

長崎外国語大学・長崎外国語短期大学  
マルチメディア・ライブラリー  
マルチメディア・ライブラリー事務室係長 岡 村 泰 子

長崎純心大学早坂記念図書館  
図書館事務室長 岩 崎 由希子

長崎ウエスレヤン大学附属図書館  
司 書 植 松 久 子

長崎国際大学図書館  
課 長 飯 島 芳 典

崇城大学図書館  
図書館長 ○恒 松 郁 生  
課 長 原 みゆき

九州ルーテル学院大学図書館  
司書係長 水 谷 江美子

熊本学園大学附属図書館  
奉仕課長 加茂田 憲 治  
図書課課長補佐 津 村 秀 夫

九州東海大学附属図書館  
熊本図書館長 ○西 崎 信 男  
熊本図書館課長 岡 村 晴 夫  
熊本図書館課長補佐 板 東 弘

熊本保健科学大学附属図書館  
図書館長 ○岡 部 由紀子

九州看護福祉大学附属図書館  
図書館長 ○水 野 裕 重

日本文理大学図書館  
係 長 小 平 正 典

立命館アジア太平洋大学ライブラリー  
総合情報センター長 ○汪 正 仁  
メディア・センター課長 北 村 滋 朗

別府大学附属図書館  
図書館長 佐 藤 允 昭

九州保健福祉大学附属図書館  
附属図書館事務 伊 藤 倫 子

南九州大学・南九州短期大学図書館  
図書館長 ○佐 保 忠 智  
学務部長 中 村 稔

鹿児島国際大学附属図書館  
附属図書館長 ○野 中 哲 照  
事務長 藤 田 淳 二

鹿児島純心女子大学附属図書館  
事務職員 岩 永 眞佐子

志學館大学図書館  
図書館長 ○河 原 晶 子  
図書係長 木佐木 和 代

沖縄国際大学図書館

図書館長  
次 長

武 田 一 博  
○門 口 政 秀

名桜大学附属図書館

参 与  
係 長

又 吉 純  
市 原 修

沖縄大学図書館

図書館長

○小 幡 幸 司

出 席 館 43館 73名

欠 席 館 2館

沖縄キリスト教学院図書館

図書館長

○大 城 亘 武

【私立短期大学】

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館

図書館長  
主任主事

山 田 千 秋  
小 林 由 憲

鹿児島女子短期大学附属図書館

図書館長  
図書館係長

前 原 隆 鋼  
濱 田 みゆき

九州大谷短期大学図書館

司 書

溝 田 イミ子

鹿児島純心女子短期大学図書館

図書館長  
図書館課長

○三 浦 嘉 久  
西 眞知子

中九州短期大学附属図書館

図書館長

田 中 善 典

出 席 館 5館 8名

欠 席 館 3館

## 第58回九州地区大学図書館協議会総会議事要録

### 1. 開 会

当番館の九州大学附属図書館 益森図書館  
企画課長より、開会宣言があった。

### 2. 当番館長挨拶

### 3. 幹事館長挨拶

当番館であり、幹事館でもある九州大学附  
属図書館 有川館長より、挨拶があった。

### 4. 会議日程・配布資料等の説明

益森図書館企画課長より、日程説明、配布  
資料、正誤表および追加の修正について説明  
があった。

### 5. 議長の選出、挨拶

「九州地区大学図書館協議会総会運営に関  
する細則」第2項に基づき、当番館長である  
有川九州大学附属図書館長が選出され、続け  
て挨拶があった。

### 6. 副議長の選出、挨拶

議長より、前日の国立部会で平成19-20年  
度の副幹事館に選出された熊本大学の田口附  
属図書館長が、副議長として指名され、承認  
された。続いて挨拶があった。

### 7. 新任館長等紹介

今年度は新任者が多いため、資料1の出席  
者名簿に基づき、確認のみ行われた。

### 8. 表彰式

「九州地区大学図書館協議会表彰規定」に基づき、12名が表彰された。被表彰者を代表して、  
福岡大学図書館の工藤邦彦氏へ、表彰状が授与された。

#### (1) 勤続期間20年以上の者で退職または転職した者（表彰規程第2条第2項）

(所属機関、氏名の五十音順)

	表彰の区分	大 学 名	氏 名
1	第2条第2号	鹿児島大学附属図書館	森 園 壽
2	〃	九州大学附属図書館	井 上 久 宏
3	〃	〃	緒 方 義 信
4	〃	長崎大学附属図書館	松 尾 貴 久

#### (2) 勤続期間20年に達した者（表彰規程第2条第1項）

	表彰の区分	大 学 名	氏 名
1	第2条第1号	鹿児島大学附属図書館	堀 口 百 代
2	〃	九州大学附属図書館	入 江 いつ子
3	〃	〃	上 村 千恵子
4	〃	〃	渡 邊 由紀子
5	〃	長崎大学附属図書館	志波原 智 美
6	〃	〃	下 田 研 一
7	〃	福岡大学図書館	工 藤 邦 彦
8	〃	琉球大学附属図書館	大 城 弘 安

## 9. 幹事館報告

幹事館の九州大学より、以下の3点について、報告があった。

- (1) 平成18年度は新規加盟館がなく、平成19年4月1日現在、加盟館は78大学である。内訳は、国立11大学、公立14大学、私立45大学、私立短大8大学である。平成9年度より積極的に加盟を促進し、加盟館を増やしてきた。19年度もさらに加盟館を増やすべく、各部会の協力をお願いしたい。
- (2) 平成19年2月に、『九州地区大学図書館協議会誌第49号』を発行した。編集館と、原稿を寄せていただいた各大学に感謝の意を表す。
- (3) 平成19年9月頃、フレッシュパーソンセミナーを、九州大学において開催する。これは、中四国、九州地区の国立大学図書館協会が合同で主催するもので、隔年で開催されており、今年度は九州地区が当番となっている。国公私立の図書館職員初任者が対象となるので、ぜひ多くの大学より積極的に参加していただきたい。企画案ができたなら、メーリングリストを通じて案内する。

## 10. 平成18年度決算及び監査報告

幹事館より、資料3の決算案に基づき報告があり、続いて監査館である福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館より、監査の結果、収入・支出とも適切な処理がされている旨、報告された。審議の結果、承認された。

## 11. 平成19年度予算（案）

幹事館より、資料4の予算案に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

\* 午前の議事が予定より早く終わったため、午後の議事を繰り上げて行った。

## 12. 次期役員館の選出

### (1) 幹事館の選出

田口副議長より、次期幹事館として九州大学が推薦され、承認された。続いて、有川九州大学附属図書館長より挨拶があった。

### (2) 監査館の選出

益森図書館企画課長より、監査館は幹事館に近い福岡市内の大学が適しているため、

中村学園大学にお願いして内諾を得ている旨の説明があり、承認された。

### (3) 副幹事館等の選出（途中、有川館長より田口館長へ進行バトンタッチ）

昨日の各部会での検討結果、以下の大学が選出されたとの説明があり、承認された。

（いずれも、国立、公立、私立、私立短大の順）

○ 副幹事館：熊本大学、宮崎県立看護大学、福岡大学、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

○ 表彰委員館：九州工業大学、九州歯科大学、久留米工業大学、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

○ 編集委員館：福岡教育大学、福岡女子大学、九州女子大学、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

## 13. 次期当番館の挨拶

益森図書館企画課長より、次期当番館は、中九州地区から選出することになっており、20年度は長崎大学が当番校となる旨説明があり、承認された。続いて、次期当番館の長崎大学附属図書館 柴多館長より挨拶があった。

（休憩）

## 14. 国立、公立、私立、私立短大の部会報告

### (1) 国立大学部会報告

九州大学の有川附属図書館長より、協議事項および承合事項について、以下の5件の報告があった。

#### 1) 図書系職員の育成（交流人事・研修等）について

鹿児島大学からの提案 図書館を取り巻く環境の変化に伴い、文科省の報告書でもとりあげられているように高度な専門性をもった図書館職員の育成が課題であるが、各大学で取り組むのは困難であり、人材の確保も難しい。せめて九州地区での広域人事交流や研修について、体系化して取り組めないか、という課題提起があり、時間をかけて熱心な議論が交わされた。

研修については、九州大学の研修制度

の事例等が報告され、学外からの参加も可能である旨、説明があった。その他、地区の研修制度など活用していこう、職員のモチベーション、研修中の業務のフォローが課題である等、ある程度の方向性が示された。

広域人事交流については、独立した法人であるためこの場では結論を出すのはむずかしいが、今後も引き続き検討していくこととなった。

専門性の確保については、今後いろいろな場所で議論を継続していくこととなった。

2) 第54回国立大学図書館協会総会の支援について

九州大学より、6月28日開催の総会への支援要請があった。

3) 国立大学図書館職員の採用について

二次試験を九州地区共同で実施しており、今年度は4名の採用枠がある。二次試験の方法について報告および確認がなされた。

4) 国大図協総会でのワークショップのテーマについて

九州地区より、3つのテーマ「図書館職員の育成」「危機管理を含めた図書館サービスのあり方」「機関リポジトリ」を、理事会に提案することになった。

5) 承合事項について

電子ジャーナルの維持について宮崎大学より提案があり、各大学の事例が報告された。

(2) 公立大学部会報告

九州歯科大学の高田附属図書館長より、以下の報告があった。

13館24名が出席し、自己紹介のあと、協議題に入った。

1) 協議事項：延滞者対策について

ほとんどの大学で、一定期間の貸出停止のペナルティを課している。その他、保護者への電話・メール、掲示板への掲示、担当教員を通じての督促、卒業させない、ガイダンスでの注意喚起などの対策がおこなわれている。また、延滞者のメールアドレスへ自動的に督促メールを

送信する機能が紹介され、対策として有効ではないかと思われる。

2) 承合事項3件

○ 図書館利用者の動向把握について

図書館利用者の体調が急変した場合に、察知する方法が議論された。館内巡視や、一部の大学では監視カメラや防犯ベルが設置されているが、いずれも即座の把握は困難である。

○ 図書館へのカバンと飲食物の持ち込みについて

カバンの持ち込みは、8大学が許可、4大学が禁止。許可しているところは、BDSを設置。

飲食物は、口頭での注意・掲示での呼びかけを行っている。

○ 電子ジャーナルの導入について

6大学が導入済み、7大学が未導入（うち2大学は導入予定）。規模は、数十タイトルから数千タイトルと様々である。最近導入した大学が多く、登録時のトラブルやパソコンに不慣れな人から敬遠される、などの問題がある。

3) 最後に、役員館の選出を行った。

(3) 私立大学部会報告

西南女学院大学の太里図書館長より、以下の報告があった。

51館中、44館74名に加え、新規加盟予定の1名が参加して開催された。

1) 報告事項4件

○ 九州地区協議会関係

2006年度は定例幹事会が2回、九州地区研究会準備委員会が1回開催された。その中で、2006年度九州地区の研究会の開催案、2007年度九州地区協議会開催案、2007年度九州地区研究会実施に向けての準備案および協議会未加入館の勧誘等について協議された旨報告があった。

○ 九州地区大学図書館協議会関係

総会開催案について報告が行われた

○ 西地区部会関係

・2007年度総会は立命館大学で開催される予定

・予算案について報告があった。交付

- 金を5万円から6万円にアップした
- ・研究会を福岡工業大学で開催する予定
- 私立大学図書館協会関係
- ・2007年度の総会・研究大会は立教大学で開催される。
- 2) 協議事項2件
- 九州地区協議会関係
- 2007年度の研究発表者として福岡大学が推薦された旨の報告があり、発表者の推薦についての提案がなされた。実施要領案について提案され、承認された。
- 九州地区大学図書館協議会関係
- 副幹事館を福岡大学、表彰委員館を久留米工業大学、編集委員館を九州女子大学に引き受けてもらうことで了承された。
- 3) 承合事項1件
- 緊急時の図書館内の誘導について、長崎ウエスレヤン大学より提案があり、各大学の事例が紹介された。
- 4) その他の確認事項が5件あった。(報告は割愛)
- (4) 私立短期大学部会報告
- 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の山田図書館長より以下の報告があった。
- 1) 協議事項
- 本部分担業務の担当順番について
- 短期大学を取り巻く条件が人的にも非常に厳しい状況で、本部から、九州地区の下部組織の役割分担が割り当てられるようになり、本来のサービス業務に支障をきたしている。九州地区私立短期大学図書館協議会のあり方について、シビアな議論が交わされた。
- 議論の結果、19年度は、割り当てられた仕事は、会長館で引き受けることとし、20年度は図書館で引き受けることは見つからなかった、と報告することとなった。業務の役割分担について協議していただき、その状況によっては、本部からの脱退も視野に入れてよいのではないか、ということになった。
- 九州地区大学図書館協議会との懇親会について
- 当番館に一任することとする。
- 2) 承合事項
- 「寄贈図書における寄贈者姓名の明記について」「入学時の図書館オリエンテーションにおけるパワーポイントの利用について」について、各大学の事例を報告した。
- 3) 研修会：第3者評価（認証評価）に対する図書館の対応
- 各大学における注意点などを出し合い、参考になった。
- 以上、各部会の報告ののち、議長より、以下の総括があった。
- 各部会からの報告については、館種を超えて参考になる部分が多々あるので、質問等があれば、ぜひ各大学に問い合わせをしてもらいたい。
15. 協議事項「学外利用者のeリソースの利用について」
- 九州情報大学の宮木図書館長より提案理由について「学外者の利用は原則として認めず、ただし、館長が特に認めたものについては、館内での閲覧のみ許可。広く大学図書館を利用してもらうよう、インターネット資源についても提供していきたい。学内のみの利用を想定した資源については、制限をかけることが必要。学外利用者専用の端末を設置し、制限をかける方法あり。欠点は、学内リソースにアクセスできない。すでに取り組みされている大学の対応を聞きたい」との説明があり、その後、各大学の事例が紹介された。
- 【九大 山田課長】
- 現状としては、
- ・インターネット上の無料のリソースはオープン
  - ・学内限定の有料リソースは、契約上許可されているもの(walk-in-user)と不許可のものあり
- システム的な運用
- ・認証については、理系図書館において、1日だけ利用できるアカウントを発行している。他館では、認証をかけていない。

- ・行き先の制限については、特に行っておらず、運用でカバーしている。

今後の方向

- ・大学で、全学統一認証システムが導入検討されている。明らかになった時点で、図書館としての運用を考えていく予定

【熊本大学 松藤総主幹】

キャンパス内には自由に使えるパソコンがあり、統合認証されているので、学外者は利用できない。レファレンスカウンターでは学外者にも対面で見せている。医系では、ゲストIDを発行し、図書館員がゲストIDを使って、利用者に対応している。

【佐賀大学 瓜生課長】

学外利用登録者が300名おり、パソコンを使うような研修会にも参加している。使いたい人には、身分証明書を確認したうえで、臨時のアカウントを発行している。

2年前に、学生IDが盗まれる事件があり、ログイン情報はSSL通信することにした。学内限定情報へのアクセスを制限するよう、情報基盤センターより通告されているが、未対応である。ゲストIDについては、アクセス制限を行うなどの対策を検討中である。

【長崎大学 郷原課長】

ハード面では、自由に使えるパソコンが2台あり、USBを使って利用できるようにセキュリティをかけている。USBを貸し出す際、貸出ノートに記入してもらっている。ソフト面では、学内名簿等みえてしまうものあり、検討を要する。

【鹿児島県立短期大学 朝日図書館長】

貴重なものは何もネット上に載っていない。今後、電子ジャーナル化に向けて、図書館将来構想の議論の中で検討していく。

【福岡工業大学 村山図書館長】

学外者は自由に検索可能である。対策を考える必要あり、という認識でいる。

【九州女子大学 高橋図書館長】

データベースを導入予定であり、本学でもこのことが話題になっているが、紙媒体は自由に使えたのに、電子媒体になってみられなくなるというのは、大きなサービス低下だと考える。ある程度枠を設けた上で、自由に使えるような方向で考えたい。

本題から逸れるが、電子ジャーナルなどは小さい大学ではなかなか整備できない。日本全体での大きなコンソーシアムで考えてほしい。

最後に、議長が以下のように総括した。

図書館に行っても見ることができないというのは、市民へのサービス低下である。一方、見ることができるにすると、学内限定情報（有料無料にかかわらず）も見えてしまう。

対策としては、利用できるパソコンを限定する、ゲストIDを発行する、USBを利用するなどハード面での対応や、レファレンスとして対面で見てもらうなどソフト面での対応が考えられる。

学内限定情報やライセンスされている情報が問題になるが、認証問題とからめながら、どういう状況が一番よいかを理論的に考え、その実現方法を探っていく、というやり方になるのではないだろうか。個人情報を持って行かれないように、EJ契約違反がないように、という2つの点に注意しながら、進めていく必要がある。

認証については、NIIを中心に全国認証システムが検討されている一方、大学レベルでもシングルサインオンで管理できるような全学認証が構築されようとしている。過渡期なので難しくもあるが、共通認証の今後の広がりにあわせて、もう1-2度、部会等でも議論を深めていく必要があるだろう。

今後、各大学で参考になる事例があれば、協議会にフィードバックしてほしい

## 16. 議長、副議長の解任

予定していた議事が終わったため、議長、副議長が解任された。

(昼 食)

## 17. 講演

「装幀について」 装幀家 毛利一枝氏  
九州大学の益森図書館企画課長より、講師の紹介があったのち、毛利氏によるスライドの上映および講演があった。

講演ののち、以下のような質疑応答がなさ



れた。

質問：毛利さんがみた阿部勤也さんの作品は  
どういうところが魅力か

回答：何のために勉強するのか、本を読むと  
いうことは生き直すということだと、  
直接投げかけられているような気がす  
る。生きた学問というのが伝わって  
くる。

質問：装幀のイメージは、1パターンつくる  
のか、複数パターン作るのか。

回答：これだ！というイメージの場合は、1  
パターンのみ作る。いろいろイメージ

が出てくる場合は、2－3パターン作  
る。（本命はこれ、というのはだいた  
いあるが。）最終的には編集者が決め  
る。

質問：本が売れただけ収入が多くなるのか

回答：提案した装幀者はいたが、実際には1  
回きり。

## 18. 閉 会

当番館の九州大学附属図書館 濱崎事務部  
長より、閉会の宣言がなされた。

# 平成18年度決算

## 一般会計

(単位：円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
会費	462,000	449,895	6,000円×74館、5,895円×1館	総会運営費	300,000	300,000	当番館：鹿屋体育大学
協議会誌代	125,600	106,400	48号(2005) 800円×133部	協議会誌発行費	200,000	151,200	49号(2006) 200部
広告掲載料	290,000	279,895	16社	事務費	55,000	51,190	会誌送料、通信費、会議費等
協議会誌代		1,600	35号、42号各1部	積立金会計へ繰入	322,600	335,400	総会関係研修事業補助
小計	877,600	837,790		小計	877,600	837,790	

## 積立金会計

(単位：円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	540,209	540,209	6,000円×3館、800円×27館	表彰経費	60,000	64,921	12名(1号該当8名、2号該当4名)
預金利息	10	310	8月42円、2月268円	研修会経費	100,000	99,040	総会講演謝金等
一般会計繰入	322,600	335,400		研修会補助費	270,000	240,000	各県協議会(8地区)研修経費補助
小計	862,819	875,919		次年度繰越金	432,819	471,958	
総計	1,740,419	1,713,709		総計	1,740,419	1,713,709	

平成19年3月27日

監査館 福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館

課長 下條 瑞恵 監査済

平成19年度予算

一般会計

(単位：円)

収入の部		支出の部			
科目	予算	備考	科目	予算	備考
会費	468,000	6,000円×78館	総会運営費	300,000	当番館：九州大学
協議会誌代	126,400	49号(2006) 800円×158部	協議会誌発行費	160,000	50号(2007) 200部
広告掲載料	280,000	16社	事務費	55,000	会誌送料、通信費、会議費等
			積立金会計へ繰入	359,400	総会関係研修事業補助
小計	874,400		小計	874,400	

積立金会計

(単位：円)

収入の部		支出の部			
科目	予算	備考	科目	予算	備考
前年度繰越金	471,958		表彰経費	65,000	12名(1号該当8名、2号該当4名)
預金利子	400		研究会経費	70,000	総会講演謝金等
一般会計繰入	359,400		研究会補助費	270,000	各県協議会(9地区)研修経費補助
			次年度繰越金	426,758	
小計	831,758		小計	831,758	

総計	1,706,158		総計	1,706,158	
----	-----------	--	----	-----------	--

## 九州地区大学図書館協議会会則

昭和25年11月27日施行  
昭和32年9月12日改正  
昭和41年6月2日改正  
昭和51年4月23日改正  
昭和55年5月9日改正  
平成9年4月25日改正  
平成10年4月24日改正

(名 称)

第 1 条 本会は九州地区大学図書館協議会と称する。

(会 員)

第 2 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書館をもって組織する。

会員は大学をもって一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

(目 的)

第 3 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書館の施設、管理及び運営等の健全な進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達するためにつぎの事業を行う。

1. 図書館の研究・調査に関する事項
2. 研究会・講習会等の開催に関する事項
3. 日本図書館協会等の連絡提携に関する事項
4. 学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事項
5. 学術図書文献の収集、保存及び活用に関する事項
6. その他必要とする事項

(役 員)

第 5 条 本会に幹事館、副幹事館及び監査館を置く。

幹事館は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事館は、幹事館とともに会務を処理する。

監査館は、会計を監査する。

第 6 条 幹事館は、総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事館は、国立大学、公立大学、私立大学及び私立短期大学からそれぞれ1館を総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

監査館は、総会で互選し、その任期は1年とする。但し、再選できない。

(事 務 所)

第 7 条 本会の事務所は幹事館内におく。

(会 議)

第 8 条 本会は毎年 1 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 3 分の 1 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 9 条 総会の運営は、輪番に定められた当番館が幹事館と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事項を行う。

1. 事業計画
2. 決算の承認
3. 予算の決定
4. 幹事館、副幹事館及び監査館の選任及び当番館の決定
5. その他必要なる事項の決定

第 11 条 総会の票決権は 1 大学につき 1 票とし、議決は多数決による。  
可否同数の時は幹事館の決するところによる。

(会 計)

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年額 6,000 円とし、毎会計年度始めに幹事館に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならない。

第 15 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(会則変更)

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

## 九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則

昭和 32 年 9 月 12 日 決定

昭和 37 年 10 月 2 日 改正

昭和 48 年 5 月 11 日 改正

昭和 53 年 5 月 12 日 改正

平成 11 年 4 月 23 日 改正

1. 本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。
2. 総会の議長は当番館の館長とする。
3. 議長は副議長を指名することができる。
4. 当番館は幹事館及び副幹事館と協議の上、2ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及び協議事項・承合事項の提出を求める招請状を送ること。  
但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。
5. 当番館は協議事項をまとめ、議題として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査研究の余地を充分与えるように努めること。
6. 当番館は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。

7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
8. 総会と同時に研修会を開催し、研究発表者は九州地区内の大学図書館職員とし3年位に1回の割合で、文部省・国会図書館或は他地区の大学より最適任者を招聘する。
9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。  
福岡地区 福岡県  
中部地区 長崎県、佐賀県、熊本県、大分県  
南部地区 鹿児島県、宮崎県、沖縄県
11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

## 九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和32年9月1日施行

平成9年4月25日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会会員の紹介書（別記様式1）により、入会申込書（別記様式2）を、総会の3ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
  - (1) 大学又は短期大学の図書館であること。
  - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

## 九州地区大学図書館協議会入会紹介書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大 学 名

図 書 館 名

図 書 館 長 名

公 印

下記の図書館は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

### 記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 図 書 館 名：
4. 図 書 館 長 名：
5. 所 在 地：

## 九州地区大学図書館協議会入会申込書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大 学 名

図 書 館 名

図 書 館 長 名

公 印

貴協議会の趣旨に賛同し、平成 年度からの入会を申し込みます。

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 大 学 設 置 年：
4. 学 生 数：
5. 図 書 館 名：
6. 所 在 地：  
（電話、FAX番号）
7. 図 書 館 長 名：
8. 図 書 館 の 概 要：（別紙）
9. 紹 介 館 名：



## 図 書 館 の 概 要

図 書 館 名			
事務責任者職・氏名	(電話番号 )		
図 書 館 職 員 数	人 (内、司書数 人)		
図 書 館 延 床 面 積	m <sup>2</sup>	閱 覧 座 席 数	席
蔵 書 冊 数	冊 (内 和書 冊、洋書 冊)		
年 間 受 入 図 書 冊 数	冊	年 間 受 入 雑 誌 種 数	種
年 間 開 館 日 数	日	通 常 開 館 時 間	時 分 ~ 時 分
土 曜 開 館	1 実施 2 未実施		
日 曜 祝 日 開 館	1 実施 2 一部実施 3 未実施		
奉 仕 対 象 学 生 数	人	奉 仕 対 象 教 職 員 数	人
年 間 貸 出 冊 数	冊		
図 書 館 相 互 協 力	図書貸借	1 実施 2 未実施	
同 上	文献複写	1 実施 2 未実施	
学 外 者 へ の サ ー ビ ス	1 実施 2 未実施		
コ ン ピ ュ ー タ の 導 入	1 導入済 2 未導入		
コ ン ピ ュ ー タ の 適 用 業 務	1 貸出 2 図書受入 3 図書整理 4 雑誌管理 5 OPAC		
ネ ッ ト ワ ー ク 環 境	1 学内LAN接続済 2 インターネット接続済		
国 立 情 報 学 研 究 所 と の 接 続	1 接続 (1 NACSIS-CAT/ILL 2 NACSIS-IR 3 その他) 2 未接続		

## 九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成2年4月20日施行

平成5年4月23日改正

平成11年4月23日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。  
(2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。  
(2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記2- (1)の編集委員館を兼ねることができる。  
(3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。  
(4) 編集委員館の任期は1年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。  
(2) 総会当番館は、総会記事を担当する。  
(3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

## 九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目 的)

第1条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第2条 表彰は、次の各号の1に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間20年に達した者
- (2) 勤務期間20年以上の者で退職または転職した者
- (3) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第3条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第2条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第4条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

(表彰の日)

第6条 表彰は、協議会の総会において行う。

(勤務期間の計算)

第7条 第2条第1号および第2号の勤務期間は、国公立大学図書館およびその他の図書館に在職し、10年以上を加盟の大学図書館に勤務したものでなければならない。

2 次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

(1) 休職の期間（公傷病の期間は除く）

(2) 懲戒処分により停職された期間

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月23日から施行する。

文書番号

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会幹事館

〇〇大学附属図書館長

殿

〇〇大学（附属）図書館長

〇 〇 〇 〇

## 平成 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。  
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。

# 表彰者調書

大学（附属）図書館

職名		ふりがな 氏名		生年月日	明 大 年 月 日 昭
表彰の区分	第2条第1号		第2条第2号		第2条第3号
勤務成績					
第7条第2項第2号該当の有無					
履 歴 事 項					
年 月 日	勤 務 内 容 等			勤 務 期 間	
				加盟館期間	その他の期間
～				年 月 日	年 月 日
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
計					
				合計	年 月 日

- 註 (1) 勤務期間の計算は暦日数によるものとし日を月に換算するときは30日をもって1月とするこ  
と。
- (2) 第7条第2項各号の除算期間は朱書すること。
- (3) 第2条第3号に該当する場合は、「勤務成績」欄は「業績」と書きかえて記入し、参考となる  
資料等を添付すること。

表彰状様式(1)第2条第1号および第2号該当者

## 表 彰 状

殿

あなたは 年 のながい間大学図書館関係の業務に精励されその功労はまことに大きいもの  
があります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

表彰状様式(2)第2条第3号該当者

## 表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なもの  
があります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

## 研修会の補助に関する申合せ

平成6年9月20日決定

平成7年9月1日改正

平成8年4月24日改正

平成9年4月25日改正

平成10年4月25日改正

平成15年4月25日改正

九州地区大学図書館協議会

地区の大学図書館活動を発展させるため、研修会、講演会等（以下「研修会」という。）の経費を補助する申合せ事項を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書館協議会に加盟している大学図書館が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金額は、年間1組織に対して3万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事館に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事館で行う。

### 別紙

#### 経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（北部地区）
2. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡地区）
3. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（南部地区）
4. 長崎県大学図書館協議会
5. 熊本県大学図書館協議会
6. 大分県大学図書館協議会
7. 宮崎県大学図書館協議会
8. 鹿児島県大学図書館協議会
9. 沖縄県大学図書館協議会

別記様式

## 平成 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会  
幹事館

殿

組 織 名  
代 表 者  
(所属大学)

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 平成 年 月 日 ( ) 時 分 至 平成 年 月 日 ( ) 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 (具体的に)	ア. 講師謝金 _____ イ. 資料代金 _____ ウ. 会場借上費 _____ エ. その他 _____ 合 計 _____
連 絡 担 当 者	氏名 _____ 職 _____ 電話 _____ (内線)

※ 研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。



## 副幹事館の役割

平成10年8月31日

幹事館・副幹事館会議

### 1 通常時

1. 年度の事業・活動についての立案・協議
2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
3. 入会の勧誘等、協議会の広報（特に所属部会の各大学に対して）
4. ホームページ充実のための提言等、意見具申

### 2 会誌発行時

各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが

- ・ 所属部会の情報（研究発表等、原稿情報）の提供等

### 3 総会時

1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
2. 前日決定された各部会における各役員館の事務局への連絡
3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認

### 4 その他

- ・ 別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

## 九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成10年8月31日

平成20年1月30日改正

幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ（以下、「ホームページ」という。）は、九州大学附属図書館のサーバに置く。

（URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>）

2. ホームページの管理、維持（デザイン・構成を含む）は、九州地区大学図書館協議会事務局（以下、「事務局」という。）が行う。

3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものを中心に構成するものとし、それぞれ以下の館が作成する。

- ・ トピックス&NEWS

加盟館、各設置部会毎協議会、各県毎協議会等からの原稿に基づき事務局が作成

総会議事録は総会当番館が原稿を作成

- ・ 加盟館一覧 事務局が作成
- ・ 役員館一覧 事務局が作成

- ・当番館一覧 事務局が作成

- ・九州地区大学図書館協議会誌

事務局が作成（論文等執筆者に対しては原稿依頼時にホームページ掲載方の承諾を得るものとする。）

- ・地区内の図書館活動

各設置部会毎の図書館協議会等及び各県毎協議会が作成

- ・各種関連資料集 事務局が作成

- ・関連サイトへのリンク集 事務局が作成

- ・地区内各館の相互利用案内 各加盟館からの原稿に基づき事務局が作成

- ・フォーラムページ

協議会が設定するテーマに対する加盟館からの自由な意見・回答のページで、投稿は直接電子メールによる

4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。

事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

## 九州地区大学図書館協議会加盟館一覧

20. 2. 末 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
国 立	九州工業大学 附属図書館 (館長 前田 博, 事務長心得 狩集克己)	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3072 (093-884-3075)
	福岡教育大学 附属図書館 (館長 高田 清, 図書館課長 栗山 平)	811-4192	宗像市赤間文教町1番5号	0940-35-1257 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 有川節夫, 事務部長 瀧崎修一)	812-8581	福岡市東区箱崎6丁目10の1	092-642-2325 (092-642-2330)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 高崎洋三, 学術研究協力部長 木塚建一)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 柴多一雄, 学術情報部長 淵上光明)	852-8521	長崎市文教町1の14	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 田口宏昭, 学術情報総主幹 松藤典生)	860-8555	熊本市黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 附属図書館 (館長 伊藤哲郎, 研究・社会連携部長 松田充功)	870-1192	大分市大字旦野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 永田雅輝, 学術研究協力部副部长 水井義武)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1	0985-58-7759 (0985-58-2896)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 早川勝光, 学術情報部長 寺垣敏司)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21の35	099-285-7415 (099-285-7413)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 志村正子, 学術図書情報課長 能勢明雄)	891-2393	鹿児島市白水町1	0994-46-4874 (0994-46-4157)
琉球大学 附属図書館 (館長 親川兼勇, 事務部長 金城孝夫)	903-0214	中頭郡西原町字千原1	098-895-8153 (098-895-8154)	
公 立	北九州市立大学 学術情報総合センター (センター長 赤塚正幸, 課長 江上照明)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1	093-964-4040 (093-964-4038)
	九州歯科大学 附属図書館 (館長 高田 豊, 事務長 神菌勝義)	803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
	福岡女子大学 附属図書館 (館長 草壁克己, 学務部長 倉田 修)	813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2411 (092-661-2416)
	福岡県立大学 附属図書館 (館長 中野榮子, 学務部長 松尾義信)	825-8585	田川市伊田4395	0947-42-1760 (0947-42-9457)
	県立長崎シーボルト大学 附属図書館 (館長 河野健一, 課長 吉村勝徳)	851-2195	長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1	095-813-5075 (095-813-5224)
	長崎県立大学 図書情報センター (センター長 山田千香子, 図書課長 永松和人)	858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-5958 (0956-26-2100)
	熊本県立大学 学術情報メディアセンター (センター長 松岡 泰, 事務長 田中 彰)	862-8502	熊本市月出3丁目1番100号	096-383-2929 (096-383-2999)
	大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 凍田和美, 管理グループ 後藤秀一)	870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-4235)
	大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 市瀬孝道, 図書館管理グループリーダー 小野永子)	870-1201	大分県大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
	宮崎公立大学 附属図書館 (館長 田縁正治, 事務長 黒木雄三)	880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
	宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 赤星 誠, 総務課長 原田芳裕)	880-0929	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)
	鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 朝日吉太郎, 副館長 前田和平)	890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-220-1111 (099-220-1115)

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
公立	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 金城芳秀, 事務責任者 幸地 哲)	902-0076	那覇市与儀 1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)
	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 田中睦治, 副参事 玉那覇有仁)	903-8602	那覇市首里当蔵町 1-4	098-882-5038 (098-882-5068)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 高見敏志, 図書評価室長 宗広明則)	800-0394	福岡県京都郡苅田町新津 1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	西南女学院大学 図書館 (館長 大里文人, 課長 渡橋英子)	803-0835	北九州市小倉北区井堀 1丁目3の5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州国際大学 図書館 (館長 古屋邦彦, 事務室長 甲斐富美子)	805-8512	北九州市八幡東区平野 1丁目6の1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 宮菌和禧, 業務課長 古賀 進)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘 1の8	093-693-3036 (093-603-2260)
	※九州女子大学・短期大学 附属図書館 (館長 高橋 昇, 業務課長 松尾伸二)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 村山理一, 事務長 武 哲也)	811-0295	福岡市東区和白東 3-30-1	092-606-0691 (092-606-7389)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 辻 厚治, 課長補佐 鶴 典子)	811-1313	福岡市南区日佐 3丁目42の1	092-575-6402 (092-575-4605)
	九州産業大学 図書館 (館長 高橋公忠, 事務部長 山本正三)	813-8503	福岡市東区松香台 2丁目3の1	092-673-5382 (092-673-5926)
	福岡大学 図書館 (館長 平今元章, 事務部長 石田 積)	814-0180	福岡市城南区七隈 8丁目19の1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 図書館 (館長 吉岡慶子, 図書課長 猿渡健一)	814-0198	福岡市城南区別府 5丁目7の1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 後藤新治, 事務次長 伊藤邦厚)	814-8511	福岡市早良区西新 6丁目2の92	092-823-3426 (092-823-3480)
	第一薬科大学 図書館 (館長 原 千高, 事務職員 出口朋恵)	815-8511	福岡市南区玉川町22の1	092-541-0161 (092-553-5698)
	九州情報大学 図書館 (館長 宮木英幸, 図書館司書 藤 理恵子)	818-0117	太宰府市宰府 6丁目3番1号	092-928-4000 (092-928-3200)
	※筑紫女学園大学・短期大学部 附属図書館 (館長 川邊武芳, 課長 関 彰)	818-0192	太宰府市石坂 2丁目12の1	092-925-9910 (092-925-3318)
	※福岡国際大学・福岡女子短期大学 図書館 (館長 安達義弘, 課長 下條瑞恵)	818-0193	太宰府市五条 4丁目16-1	092-922-3604 (092-922-3596)
	久留米工業大学 図書館 (館長 渡邊孝司, 事務室室長 萩尾文子)	830-0052	久留米市上津町2228-66	0942-22-2345 (0942-22-2385)
	聖マリア学院大学 図書館 (館長 熊井昭彦, 司書 山口真由美)	830-8558	久留米市津福本町422番地	0942-37-1138 (0942-37-1138)
	久留米大学 附属図書館 (館長 遠山 潤, 課長 熊谷まゆみ)	839-8502	久留米市御井町1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	西九州大学 附属図書館 (館長 酒井 出, 課長 飯盛貞明)	842-8585	神崎市神埼町尾崎4490-9	0952-52-4191 (0952-53-7869)
	活水女子大学 図書館 (館長 田中俊廣, 課長 森 茂樹)	850-8515	長崎市東山手町 1の50	095-822-4107 (095-823-3701)
長崎総合科学大学 附属図書館 (館長 高 允宝, 課長 伴 卓士)	851-0193	長崎市網場町536	095-838-5140 (095-838-2072)	
長崎外国語大学・長崎外国語短期大学 教育研究 メディアセンター マルチメディア・ライブラリー (センター長 山川欣也, 事務室長 岡村泰子)	851-2196	長崎市横尾 3-15-1	095-840-2005 (095-840-2205)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号	
私	長崎純心大学 早坂記念図書館 (館長 岩下康夫, 事務室長 岩崎由希子)	852-8558	長崎市三ツ山町235	095-846-0084 (095-845-4279)	
	長崎ウエスレヤン大学 附属図書館 (館長 亙 明志, 司書 植松久子)	854-0081	諫早市栄田町1057	0957-26-8203 (0957-26-2063)	
	長崎国際大学 図書館 (館長 平井誠也, 図書課長 飯島芳典)	859-3298	佐世保市ハウステンボス町2825-7	0956-20-5560 (0956-39-4894)	
	崇城大学 図書館 (館長 恒松郁生, 課長 原 みゆき)	860-0082	熊本市池田4丁目22の1	096-326-3419 (096-326-3002)	
	九州ルーテル学院大学 図書館 (館長 板楠和子, 司書係長 水谷江美子)	860-8520	熊本市黒髪3丁目12-16	096-343-2494 (096-343-0354)	
	熊本学園大学 付属図書館 (館長 村松茂美, 部長 島田数男)	862-8680	熊本市大江2丁目5の1	096-364-5161 (096-362-5967)	
	九州東海大学 付属図書館 (館長 西崎信男, 図書課長 岡村晴夫)	862-8652	熊本市渡鹿9-1-1	096-382-1141	
	熊本保健科学大学 附属図書館 (館長 岡部由紀子, 事務 山崎栄子)	861-5591	熊本市和泉町亀の甲325	096-275-2264 (096-275-2265)	
	九州看護福祉大学 附属図書館 (館長 水野裕重, 事務職員 寺井直子)	865-0062	玉名市富尾888	0968-75-1840 (0968-75-1873)	
	日本文理大学 図書館 (館長 岡本壽夫, 係長 小平正典)	870-0397	大分市大字一木1727	0975-92-1600 (0975-93-2071)	
	立命館アジア太平洋大学ライブラリー (センター長 汪 正仁, 課長 北村滋朗)	874-8577	別府市十字原1-1	0977-78-1140 (0977-78-1141)	
	別府大学 附属図書館 (館長 佐藤允昭, 事務長 吉岡義信)	874-8501	別府市大字北石垣82	0977-66-9633 (0977-66-9632)	
	九州保健福祉大学 附属図書館 (館長 坂本正徳, 司書 伊藤倫子)	882-8508	延岡市吉野町1714-1	0982-23-5562 (0982-23-5560)	
	宮崎産業経営大学 附属図書館 (館長 田代裕子, 課長 園田真二)	880-0931	宮崎市古城町丸尾100	0985-52-3205 (0985-50-4699)	
	南九州大学・南九州短期大学 図書館 (館長 佐保忠智, 学務部長 中村 稔)	880-0032	宮崎市霧島5-1-2	0985-83-3430 (0985-83-3431)	
	立	※宮崎学園 図書館 宮崎国際大学・宮崎女子短期大学 (館長 北村秀秋, 事務長 中山水木)	889-1605	宮崎郡清武町加納1415	0985-85-1410 (0985-85-8189)
	鹿児島国際大学 附属図書館 (館長 野中哲照, 事務長 藤田淳二)	891-0197	鹿児島市坂之上8-34-1	099-261-3211 (099-261-1198)	
	鹿児島純心女子大学 附属図書館 (館長 大塚孝明, 図書課長 森山 学)	895-0011	鹿児島県薩摩川内市天辰町2365	0996-23-5311 (0996-23-5030)	
	志學館大学 図書館 (館長 河原晶子, 課長 福本英司)	899-5194	鹿児島県霧島市隼人町内1904-1	0995-43-1111 (0995-43-1114)	
	沖縄国際大学 図書館 (館長 武田一博, 次長 門田政秀)	901-2701	宜野湾市宜野湾2丁目6番1号	098-892-1111 (098-893-3274)	
沖縄大学 図書館 (館長 八幡幸司, 事務長事務取扱 垣花留美子)	902-8521	沖縄県那覇市字国場555	098-832-5577 (098-834-1127)		
沖縄キリスト教学院 図書館 (館長 大城宜成, 主任 外間きみ子)	903-0207	沖縄県中頭郡西原町字翁長777	098-946-1236 (098-946-1237)		
名桜大学 附属図書館 (館長 新城敏男, 図書課参与 又吉 純)	905-8585	沖縄県名護市字為又1220-1	0980-51-1062 (0980-51-1065)		

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
私立 短大	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 山田千秋, 図書課長 小林由憲)	803-8511	北九州市小倉北区下道津5の1の1	093-561-3541 (093-561-9728)
	九州造形短期大学 図書館 (館長 時 詩津男, 事務部長 荒川博一)	813-0004	福岡市東区松香台2丁目3の2	092-673-5188 (092-673-5199)
	九州大谷短期大学 図書館 (館長 斉藤英雄, 情報課長 坂川和彦)	833-0054	福岡県筑後市蔵敷495-1	0942-53-9893 (0942-53-9893)
	中九州短期大学 附属図書館 (館長 田中善典, 事務職 段原佳子)	866-8502	八代市平山新町4438	0965-34-7651 (0965-43-7117)
	東九州短期大学 図書館 (館長 錦 萬代, 事務長 山本博宣)	871-0014	中津市大字一ツ松211	0979-22-2425 (0979-25-3935)
	別府溝部学園短期大学 図書館 (館長 田邊 勲, 司書 宗岡千尋)	874-8567	大分県別府市野田78	0977-66-0224 (0977-67-8133)
	鹿児島女子短期大学 附属図書館 (館長 前原隆鋼, 図書課長 石塚勝雄)	890-8565	鹿児島市紫原1丁目59の1	099-254-9191 (099-254-5914)
	鹿児島純心女子短期大学 図書館 (館長 三浦嘉久, 課長 西 真知子)	890-8525	鹿児島市唐湊4丁目22の1	099-253-2677 (099-254-5247)

※印は、大学・短期大学を併せて1加盟館

## 九州地区大学図書館協議会役員館一覧

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和48年度 (24)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	
昭和49年度 (25)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和50年度 (26)	九州大学	西南大学	国 公 私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和51年度 (27)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南大学	
昭和52年度 (28)	九州大学	福岡大学	国 公 私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南大学	鹿児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和53年度 (29)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和54年度 (30)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和55年度 (31)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和56年度 (32)	九州大学	西南大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 鹿児島県立短大 福岡大学	
昭和57年度 (33)	九州大学	福岡大学	国 公 私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	鹿児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和58年度 (34)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	琉球大学 福岡社会保育短大 鹿児島経済大学	宮崎医科大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
昭和59年度 (35)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和60年度 (36)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	宮崎大学 熊本女子大学 鹿児島経済大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和61年度 (37)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	
昭和62年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和63年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島立短大 八幡大	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 西南大学	佐賀大学 熊本女子大学 中村学園大学	
平成2年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大学	長崎大学 大分県立芸術文化短期大学 熊本商科大学	九州大学 大分医科大学 福岡女子大学 福岡大学 福岡女子短期大学
平成3年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大学 久留米大学	鹿児島大学 長崎県立大 西日本工業大	九州大学 鹿屋体育大学 九州歯科大学 中村学園大学 筑紫女学園短期大学
平成4年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大学 鹿児島経済大	大分大学 九州歯科大学 活水女子大	九州大学 福岡教育大学 北九州大学 九州国際大学 東筑紫短期大
平成5年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大 活水女子大	大分医科大学 鹿児島立短期大学 鹿児島経済大	九州大学 熊本大学 福岡女子大学 西南学院大学 筑紫女学園短期大学
平成6年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大学 大分県立芸術文化短期大学 活水女子大	佐賀医科大学 宮崎公立大 鹿児島経済大	九州大学 宮崎大学 福岡県立大 九州産業大学 筑紫女学園短期大学
平成7年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大	琉球大学 長崎県立大 南九州大	九州大学 九州工業大学 九州歯科大学 久留米大学 筑紫女学園短期大学
平成8年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州東海大	佐賀大学 九州歯科大学 熊本学園大	九州大学 大分大 北九州大学 九州共立大 西南女学院短期大
平成9年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大学 熊本県立大 九州女子大	宮崎大学 鹿児島立短期大 久留米工業大	九州大学 佐賀大学 九州歯科大学 福岡大 西南女学院短期大



年次 (回数)	幹事館	副幹事館		監査館	表彰委員館	編集委員館
平成10年度 (49)	九州大学	国 公 私 私短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大学	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成11年度 (50)	九州大学	国 公 私 私短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成12年度 (51)	九州大学	国 公 私 私短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大学	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成13年度 (52)	九州大学	国 公 私 私短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成14年度 (53)	九州大学	国 公 私 私短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成15年度 (54)	九州大学	国 公 私 私短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	筑紫女学園大学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・ 短期大学 九州大学 宮崎大学
平成16年度 (55)	九州大学	国 公 私 私短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志學館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・ 南九州短期大学 西南女学院大学・ 短期大学

年次 (回数)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表 彰 委 員 館	編 集 委 員 館
平成17年度 (56)	九州大学	国 公 私 私短	長 崎 大 学 熊 本 県 立 大 学 九 州 東 海 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	九州産業大学	琉 球 大 学 冲 縄 県 立 大 学 西 南 女 学 院 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	熊 本 大 学 北 九 州 市 立 大 学 西 日 本 工 業 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学
平成18年度 (57)	九州大学	国 公 私 私短	長 崎 大 学 熊 本 県 立 大 学 九 州 東 海 大 学 鹿 児 島 純 心 女 子 短 期 大 学	福岡国際大学・ 福岡女子短期大学	佐 賀 大 学 鹿 児 島 県 立 短 期 大 学 福 岡 女 学 院 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	鹿 屋 体 育 大 学 福 岡 県 立 大 学 筑 紫 女 学 園 大 学 ・ 短 期 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成19年度 (58)	九州大学	国 公 私 私短	熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	中村学園大学	九 州 工 業 大 学 九 州 歯 科 大 学 久 留 米 工 業 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	福 岡 教 育 大 学 福 岡 女 子 大 学 九州女子大学・短期大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成20年度 (59)		国 公 私 私短				
平成21年度 (60)		国 公 私 私短				
平成22年度 (61)		国 公 私 私短				
平成23年度 (62)		国 公 私 私短				

## 九州地区大学図書館協議会総会当番館一覽

回次	年度	県別	大 学
1	25	福岡	九州大学
2	26	熊本	熊本大学
3	27	長崎	長崎大学
4	28	佐賀	佐賀大学
5	29	鹿児島	鹿児島大学
6	30	宮崎	宮崎大学
7	31	大分	大分大学
8	32	福岡	西南学院大学
9	33	福岡	九州大学
10	34	熊本	熊本大学
11	35	福岡	九州工業大学
12	36	長崎	長崎大学
13	37	福岡	福岡大学
14	38	佐賀	佐賀大学
15	39	福岡	福岡教育大学
16	40	宮崎	宮崎大学
17	41	福岡	八幡大学
18	42	鹿児島	鹿児島大学
19	43	福岡	九州大学
20	44	熊本	熊本商科大学
21	45	福岡	久留米大学
22	46	大分	大分大学
23	47	福岡	北九州大学
24	48	長崎	長崎大学
25	49	福岡	九州産業大学
26	50	佐賀	佐賀大学
		〃	佐賀龍谷短期大学
27	51	沖縄	琉球大学
28	52	福岡	九州大学
29	53	大分	大分大学
30	54	宮崎	宮崎大学
31	55	福岡	九州歯科大学
		〃	福岡女子大学
		〃	福岡県社会保育短期大学
32	56	熊本	熊本女子大学

回次	年度	県別	大 学
33	57	鹿児島	鹿児島大学
		〃	鹿児島県立短期大学
		〃	鹿児島経済大学
34	58	福岡	西日本工業大学
35	59	長崎	長崎大学
36	60	宮崎	宮崎医科大学
		大分	大分県立芸術短期大学
		宮崎	南九州大学
		長崎	純心女子短期大学
37	61	福岡	九州芸術工科大学
38	62	佐賀	佐賀医科大学
39	63	沖縄	琉球大学
40	平成元	福岡	北九州大学
41	2	大分	大分医科大学
42	3	鹿児島	鹿屋体育大学
43	4	福岡	西南学院大学
44	5	熊本	九州東海大学
45	6	宮崎	宮崎産業経営大学
46	7	福岡	九州工業大学
47	8	長崎	長崎大学
48	9	鹿児島	鹿児島経済大学
49	10	福岡	福岡女子大学
50	11	佐賀	佐賀大学
51	12	沖縄	沖縄国際大学
52	13	福岡	九州女子大学
53	14	大分	大分大学
54	15	宮崎	宮崎大学
55	16	福岡	福岡教育大学
56	17	中部	熊本大学
57	18	鹿児島	鹿屋体育大学
58	19	福岡	九州大学
59	20	長崎	長崎大学
60	21	沖縄	琉球大学
61	22		
62	23		

九州地区大学図書館協議会誌 第50号

平成20年3月発行

発行 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学附属図書館内  
九州地区大学図書館協議会

TEL (092) 642-2324

FAX (092) 642-2330

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>